

Oracle® Enterprise Performance Management System

User Security Administration Guide

リリース 11.1.2.4

著作権情報

User Security Administration Guide, 11.1.2.4

Copyright © 2005, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	9
ドキュメントのフィードバック	10
第1章. Shared Servicesについて	11
Shared Servicesとは?	11
Shared Services Consoleの起動	11
Shared Services Consoleの概要	12
ユーザー、グループ、役割および委任リストの検索	13
第2章. EPM Systemセキュリティの概念	15
セキュリティ・コンポーネント	15
ユーザー認証コンポーネント	15
ネイティブ・ディレクトリ	16
ユーザー・ディレクトリ	17
プロビジョニング(役割ベースの認証)	17
役割	18
ユーザー	19
グループ	20
第3章. アプリケーション・グループおよびアプリケーションでの作業	21
概要	21
アプリケーション・グループの使用	21
アプリケーション・グループの作成	22
アプリケーション・グループ・プロパティの変更	23
アプリケーション・グループの削除	23
アプリケーションの管理	24
アプリケーションの移動	25
アプリケーション間のプロビジョニング情報のコピー	25
複数のアプリケーションの削除	26
アプリケーションの削除	26
Essbaseアプリケーション・アーティファクトのプロビジョニング	27
アプリケーションの参照	27
第4章. 委任されたユーザー管理	29
委任されたユーザー管理について	29
管理者の階層	29
システム管理者	30
機能の管理者	30
委任された管理者	30
委任されたユーザー管理モードを使用可能にする	30
委任された管理者の作成	31
プランニング・ステップ	32
委任された管理者のプロビジョニング	33
委任リストの作成	33

委任リストの変更	35
委任リストの削除	37
委任されたレポートの表示	37
第5章. ネイティブ・ディレクトリの管理	39
ネイティブ・ディレクトリ情報	39
デフォルトのネイティブ・ディレクトリ・ユーザーおよびグループ	39
ネイティブ・ディレクトリ・ユーザーの管理	39
ユーザーの作成	40
ユーザー・アカウントの表示および変更	41
ユーザー・アカウントの非アクティブ化	42
非アクティブ・ユーザー・アカウントのアクティブ化	43
ユーザー・アカウントの削除	43
ネイティブ・ディレクトリのユーザー・パスワードの変更	44
ネイティブ・ディレクトリ・グループの管理	44
ネストされたグループ	45
グループの作成	46
グループの変更	47
グループの削除	49
役割の管理	49
集約役割の作成	50
集約役割の変更	51
集約役割の削除	52
ネイティブ・ディレクトリのバックアップ	52
第6章. プロビジョニングの管理	53
プロビジョニングについて	53
プロビジョニングを開始する前に	54
プロビジョニング・ステップの概要	54
グループのプロビジョニング	56
グループのプロビジョニング解除	57
監査セキュリティ・アクティビティおよびライフサイクル管理アーティファクト	58
監査データの手動での削除	58
アプリケーションおよびアプリケーション・グループレベルの監査オブジェクトの選択	59
削除間隔の変更	59
レポートの生成	60
プロビジョニング・レポートの生成	61
監査レポートの生成	62
移行ステータス・レポートの生成	63
ネイティブ・ディレクトリ・データのインポートとエクスポート	63
第7章. タスクフローの管理	65
タスクフローについて	65
タスクフロー・コンポーネント	65
ステージ	66
リンク	67
変数	67

タスクフローを使用するための前提条件	67
タスクフローの作成および管理	67
「タスクフローの管理」画面へのアクセス	68
タスクフローの作成	68
タスクフローの編集	69
タスクフロー情報の表示	70
タスクフローのスケジュール	70
タスクフローの手動実行	71
タスクフロー・ステータスの表示および実行の詳細	71
タスクフロー・スクリプトの場所	71
第8章. Essbaseのプロビジョニング	73
Essbaseセキュリティ・モデル	73
前提条件	73
Foundation Services	74
Webサーバー	74
Essbaseサーバー	74
Administration Services	74
Performance Management Architect (オプション)	75
Essbase Studioサーバー(オプション)	75
EPM System製品へのアクセス	75
プロビジョニング・プロセス	75
クラシックEssbaseアプリケーション	76
Performance Management Architect Essbaseアプリケーション	76
ユーザーおよびグループへのEssbaseサーバーの役割のプロビジョニング	77
Essbaseサーバー接続の作成	78
クラシックEssbaseアプリケーションの作成	78
Performance Management Architect Essbaseアプリケーションの作成	79
Essbaseアーティファクトの作成	80
ユーザーへのEssbaseアプリケーションの役割のプロビジョニング	82
アクセス制御の定義	83
第9章. Planningのプロビジョニング	85
Planningセキュリティ・モデル	85
前提条件	85
Foundation Services	86
Webサーバー	86
Essbaseサーバー	86
Administration Services (オプション)	86
Performance Management Architect (オプション)	86
リレーショナル・データベース	87
EPM System製品へのアクセス	87
Planningのプロビジョニング・プロセス	87
プロセスの概要	88
Planningのデータ・ソースの作成	89
ディメンションおよびメンバーを含むクラシックPlanningアプリケーションの作成	90
Performance Management Architect Planningアプリケーションの作成およびデプロイ	93

ユーザーおよびグループへのPlanningアプリケーションの役割のプロビジョニング	95
ユーザーとグループのPlanningデータベースへの追加	98
ディメンション・メンバーへのアクセス権の割当て	99
データ・フォームの作業	100
タスク・リストの操作	103
Essbaseデータベースの操作	105
アプリケーションの本番モードへの設定	106
Planningアプリケーションのアクセス権レポートの生成	106
第10章. Financial Managementのプロビジョニング	107
Financial Managementのセキュリティ・モデル	107
前提条件	107
Foundation Services	108
Foundation Services Webサーバー	108
Performance Management Architect (オプション)	108
リレーショナル・データベース	108
EPM System製品へのアクセス	109
Financial Managementのプロビジョニング・プロセス	109
プロセスの概要	110
クラシック・アプリケーションの作成	111
Performance Management Architect Financial Managementアプリケーションの作成	113
グループへのFinancial Managementアプリケーションの役割のプロビジョニング	114
セキュリティ・クラスの作成	117
Financial Managementアーティファクトの作成	118
セキュリティ・クラスのプロビジョニング	121
第11章. Reporting and Analysisのプロビジョニング	123
Reporting and Analysisのセキュリティ・モデル	123
前提条件	123
Foundation Services	124
Foundation Services Webサーバー	124
Reporting and Analysisエージェント・サービス	124
Reporting and Analysisコンポーネント	124
データ・ソースへのアクセス	124
EPM System製品へのアクセス	125
Reporting and Analysisのプロビジョニング・プロセス	126
プロセスの概要	127
プロビジョニングの手順	127
第12章. Profitability and Cost Managementのプロビジョニング	137
標準Profitability and Cost Managementのセキュリティ・モデル	137
前提条件	137
Foundation Services	138
Foundation Services Webサーバー	138
Performance Management Architect	138
Essbaseサーバー(標準Profitabilityの場合のみ)	138
Administration Services	139

詳細Profitability用のリレーショナル・データベース	139
EPM System製品へのアクセス	139
Profitability and Cost Managementのプロビジョニング・プロセス	139
プロセスの概要	140
Profitability and Cost Managementアプリケーションの作成とデプロイ	140
標準Profitability and Cost ManagementアプリケーションのEssbaseへのデプロイ	144
ユーザーおよびグループへのProfitability and Cost Managementの役割のプロビジョニング	146
付録A. EPM System役割	153
Foundation Services役割	153
Shared Services役割	154
Performance Management Architect役割	155
Calculation Managerの役割	156
Financial Managementマネージャの役割	157
Essbaseの役割	157
Essbase Studio役割	159
Reporting and Analysis役割	159
Financial Managementの役割	163
Disclosure Management役割	165
Financial Close Management役割	166
Account Reconciliation Management役割	166
Supplemental Data Managerの役割	167
Tax Managementの役割	168
Tax Operationsの役割	169
Tax Provisionの役割	169
Tax Supplemental Schedulesの役割	169
Planning役割	170
Profitability and Cost Management役割	172
標準Profitability and Cost Managementの役割	173
詳細Profitability and Cost Managementの役割	174
Strategic Finance役割	177
Provider Services役割	177
Data Integration Management役割	177
FDMの役割	178
FDMEEの役割	178
Integrated Operational Planning役割	179
付録B. EPM Systemのコンポーネント・コード	181
付録C. EPM System製品へのアクセス	183
Shared Servicesへのアクセス	183
EPM Workspaceへのアクセス	183
Administration Servicesコンソールへのアクセス	184

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracleのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Access to Oracle Support

Oracleサポート・サービスでは、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントへのフィードバックをお送りください: epmdoc_ww@oracle.com

次のソーシャル・メディア・サイトでEPM情報開発をフォローできます:

LinkedIn - http://www.linkedin.com/groups?gid=3127051&goback=.gmp_3127051

Twitter - <http://twitter.com/hyperionepminfo>

Facebook - <http://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>

Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731/#106915048672979407731/posts>

YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>

1

Shared Servicesについて

この項の内容:

Shared Servicesとは?	11
Shared Services Consoleの起動	11
Shared Services Consoleの概要	12
ユーザー、グループ、役割および委任リストの検索	13

Shared Servicesとは?

Oracle Hyperion Foundation ServicesのコンポーネントであるOracle Hyperion Shared Servicesは、Oracle Enterprise Performance Management System製品のためのセキュアな環境の構築を支援します。Shared Servicesを使用して、EPM Systemのデプロイメントのセキュリティを定義および管理します。Shared Servicesは、Oracle Hyperion Shared Services Consoleを使用して操作します。

すべてのEPM Systemコンポーネントのユーザー認証方法、および製品リソースの使用の許可方法の定義は、Shared Servicesで行われます。

Shared Services Consoleの起動

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspaceのメニュー・オプションを使用して、Oracle Hyperion Shared Services Consoleにアクセスします。

▶ Shared Services Consoleを起動するには:

1. 次に移動します:

`http://web_server_name:port_number/workspace`

URLの中で、`web_server_name`はOracle Hyperion Foundation Servicesが使用するWebサーバーが実行されているコンピュータの名前を示し、`port_number`は、Webサーバー・ポートを示します。たとえば、`http://myWebserver:19000/workspace`のようになります。



注:

セキュアな環境のEPM Workspaceにアクセスする場合、プロトコルとして`https` (`http`ではなく)を使用し、セキュアなWebサーバー・ポート番号を使用します。たとえば、`https://myserver:19043/workspace`のようなURLを使用します。

2. 「アプリケーションの起動」をクリックします。



注:

ポップアップ・ブロックが原因でEPM Workspaceが開かない場合があります。

3. 「ログオン」で、ユーザー名とパスワードを入力します。

最初は、Shared Services Consoleへアクセスできる唯一のユーザーは、ユーザー名とパスワードがデプロイメント・プロセス中に指定されたOracle Enterprise Performance Management System管理者です。

4. 「ログオン」をクリックします。
5. 「ナビゲート」、次に「管理」、さらに「**Shared Services Console**」を選択します。

Shared Services Consoleの概要

Shared Services Consoleは、ビュー・ペイン(アプリケーション管理ペインとも呼ばれる)とタスク・タブで構成されています。初めにShared Services Consoleにアクセスすると、ビュー・ペインと「参照」タブが表示されます。

ビュー・ペインは、ネイティブ・ディレクトリおよびアプリケーション・グループなどのオブジェクトを選択できるナビゲーション・フレームです。通常は、ビュー・ペインで現在選択されている項目の詳細が「参照」タブに表示されます。その他のタスク・タブは、実行するタスクの必要に応じて開きます。たとえば、「レポート」タブはレポートを生成または表示するときに開きます。

現在の構成に応じて、Shared Services Consoleのビュー・ペインには既存のオブジェクトが一覧表示されます。これらのオブジェクトを展開すると、詳細を表示できます。たとえば、「ユーザー・ディレクトリ」ノードを選択すると、構成済のすべてのユーザー・ディレクトリが一覧表示されます。

オブジェクトを右クリックすると表示されるショートカット・メニューは、ビュー・ペインのオブジェクトに関連付けられています。

ビュー・ペインのオブジェクトに関連付けられたショートカット・メニューは、オブジェクトに対する操作を実行する最も早い方法です。ショートカット・メニューのオプションは、選択した対象に従って動的に変更されます。これらのオプションは、メニュー・バーのメニューからも使用できます。使用可能なメニュー・オプションを表すボタンがツールバーに表示されます。



注:

ネイティブ・ディレクトリはShared Services Consoleから管理されるため、ネイティブ・ディレクトリのショートカット・メニューで使用可能なメニュー・オプションの中には、他のユーザー・ディレクトリには使用できないものがあります。

次の機能が、Shared Services Consoleから使用できます:

- ユーザー・ディレクトリ構成
- シングル・サインオン構成
- ネイティブ・ディレクトリ管理

- 役割ベースのユーザーのアクセス制御の管理
- 監査構成およびレポート管理
- Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemライフサイクル管理へのアクセスおよび製品のアーティファクトの検索

ユーザー、グループ、役割および委任リストの検索

Shared Services Consoleでは、構成されたユーザー・ディレクトリからのユーザーおよびグループの検索と、Oracle Hyperion Shared Servicesに登録されたアプリケーションの役割の検索が使用可能になります。

ユーザーを検索する場合、指定できる検索パラメータは、選択するユーザー・ディレクトリのタイプによって異なります。たとえば、ネイティブ・ディレクトリでは、すべてのユーザー、アクティブなユーザーおよび非アクティブなユーザーを検索できます。

「参照」タブに表示される検索ボックスは、ビュー・ペイン内の選択項目に基づいて検索コンテキストを表します。

▶ ユーザー、グループ、役割または委任リストを検索するには:

1. ビュー・ペインで、「ユーザー・ディレクトリ」を展開します。
2. 検索するユーザー・ディレクトリから、次のいずれかを選択します。

- ユーザー
- グループ
- 役割
- 委任リスト



注:

役割および委任リストは、ネイティブ・ディレクトリへの検索でのみ使用可能です。

委任リストは、Shared Servicesが委任された管理モードの場合のみ使用可能です。詳細は、[29ページの第4章「委任されたユーザー管理」](#)を参照してください。

使用可能な検索フィールドが「参照」タブに表示されます。

3. ユーザーを検索するには:

- a. 「ユーザー・プロパティ」で、検索するユーザー・プロパティを選択します。

選択できるユーザー・プロパティは、選択したユーザー・ディレクトリのタイプによって異なります。たとえば、ユーザー名、名、姓、説明および電子メール・アドレスを検索できます。ネイティブ・ディレクトリでは、すべてのユーザー、アクティブなユーザーまたは非アクティブなユーザー(他のユーザー・ディレクトリのユーザーを検索中は使用できないオプション)を検索できます。ワイルドカード(アスタリスク)を使用した検索以外では、このプロパティ値が設定されていないレコードは検索されません。

検索可能なユーザー・プロパティ:

- **LDAPベースのユーザー・ディレクトリ:** ユーザー名、名、姓、説明および電子メール・アドレス

- ・ データベース・プロバイダ: ユーザー名
 - b. オプション: 「ユーザー・フィルタ」では、特定のユーザーを識別するためのフィルタを指定します。パターン検索では、アスタリスク(*)をワイルドカードとして使用します。
 - c. オプション: 「グループ内」では、検索を実行するグループを指定します。パターン検索では、アスタリスク(*)をワイルドカードとして使用します。複数のグループを検索するには、セミコロンを使用してグループ名を区切ります。
 - d. ネイティブ・ディレクトリのみ: 「表示」から、検索コンテキスト(「すべて」、「アクティブ」または「非アクティブ」)を選択します。
 - e. 「ページ・サイズ」で、検索結果ページに表示するレコード数を選択します。
 - f. 「検索」をクリックします。
4. グループを検索するには:
- a. 「グループ・プロパティ」で、検索するプロパティを選択します。



注:

Shared Servicesでは、OracleおよびSQL Serverの役割をユーザー・ディレクトリのグループと同等とみなします。Shared Servicesでは、ネストされたOracleデータベースの役割内の各役割を個々のプロビジョニング可能な別々のグループとみなします。Shared Servicesはネストされたデータベースの役割の間の関係を順守しません。

- b. オプション: 「グループ・フィルタ」では、検索を制限するためにフィルタを入力します。パターン検索では、アスタリスク(*)をワイルドカードとして使用します。
 - c. 「検索」をクリックします。
5. 役割を検索するには:
- 役割の検索は、ネイティブ・ディレクトリでのみサポートします。
- a. 「役割プロパティ」で、検索するプロパティを選択します。このプロパティがネイティブ・ディレクトリに指定されていないレコードは、ワイルドカード(アスタリスク)を使用した検索以外では検索されません。
 - b. オプション: 「役割フィルタ」では、検索を制限するためにフィルタを入力します。パターン検索では、アスタリスク(*)をワイルドカードとして使用します。
 - c. 「検索」をクリックします。
6. 委任リストを検索するには:
- a. 「リスト名」では、検索文字列を入力します。パターン検索では、アスタリスク(*)をワイルドカードとして使用します。
 - b. 「検索」をクリックします。

2

EPM Systemセキュリティの概念

この項の内容:

セキュリティ・コンポーネント	15
ユーザー認証コンポーネント	15
プロビジョニング(役割ベースの認証)	17

セキュリティ・コンポーネント

EPM Systemセキュリティは、ユーザー・アクセスと権限を制御する2つの補足的なレイヤーから構成されています:

- 15ページのユーザー認証コンポーネント
- 17ページのプロビジョニング(役割ベースの認証)

ユーザー認証コンポーネント

EPM Systemユーザーのプロビジョニング・データをチェックし、アクセス可能なEPM Systemコンポーネントを判別するには、その前にユーザーの認証が必要です。デフォルトでは、ユーザーがログイン画面へのユーザー名およびパスワードを入力し、プロビジョニングされたすべてのEPM Systemコンポーネントへのシングル・サインオン(SSO)アクセスを取得します。

SSOは、EPM System製品のユーザーが、セッションの開始時に資格証明を1度のみ入力して、複数の製品にアクセスできるようにするセッションおよびユーザー認証プロセスです。SSOでは、ユーザーがアクセスする各製品に別々にログインする必要がなくなります。

セキュリティを強化するには、事前に認証済のユーザーをEPM Systemに渡すことのできるセキュリティ・エージェントを使用して、EPM Systemコンポーネントを保護できます。また、EPM Systemセキュリティは、クライアント証明書認証、カスタムJava認証およびKerberosなどの他のメカニズムを使用して、強化することもできます。EPM Systemに対するインフラストラクチャの保護の確立の詳細については、『*Oracle Enterprise Performance Management Systemセキュリティ構成ガイド*』を参照してください。

EPM Systemコンポーネントは、構成済ユーザー・ディレクトリに対する認証されたユーザー資格証明を確認します。コンポーネント固有のプロビジョニングと共にユーザー認証は、ユーザー・アクセスをEPM Systemコンポーネントに付与します。プロビジョニング・マネージャは、EPM Systemコンポーネントに属するアーティファクトへのアクセス権をユーザーに付与します。

次の項では、SSOをサポートするコンポーネントについて説明します。

- [16ページのネイティブ・ディレクトリ](#)
- [17ページのユーザー・ディレクトリ](#)

ネイティブ・ディレクトリ

ネイティブ・ディレクトリとは、Shared Servicesがプロビジョニングのサポート、およびデフォルト・ユーザー・アカウント、作成する追加のユーザーおよびグループなどのシード・データの保管に使用するリレーショナル・データベースを指します。

ネイティブ・ディレクトリ機能:

- ネイティブ・ユーザー・アカウントの維持および管理
- ネイティブ・グループ・アカウントの維持および管理
- すべてのEPM Systemプロビジョニング情報用セントラル・ストレージです。ここで、グループ、役割およびアプリケーション間の関係が保管されます

EPM Systemセキュリティを管理するシステム管理者を作成するために、管理者アカウント(デフォルト名admin)がデプロイメント・プロセス中にネイティブ・ディレクトリに作成されます。これは、EPMシステムの最も強力なアカウントです。このアカウントのユーザー名およびパスワードはFoundation Servicesのデプロイメント中に設定されます。

ディレクトリ・マネージャはShared Services Consoleを使用して、ネイティブ・ディレクトリにアクセスして管理します。[39ページの第5章「ネイティブ・ディレクトリの管理」](#)を参照してください。

ユーザー・ディレクトリ

ユーザー・ディレクトリとは、EPM Systemコンポーネントと互換性のある企業ユーザーおよびアイデンティティ管理システムを指します。

EPM Systemコンポーネントは、LDAPベースのユーザー・ディレクトリ、およびリレーショナル・データベースを含む、いくつかのユーザー・ディレクトリでサポートされます。このドキュメントでは、ネイティブ・ディレクトリ以外のユーザー・ディレクトリを外部ユーザー・ディレクトリと呼びます。外部ユーザー・ディレクトリの管理を許可されている管理者のみです。

プロビジョニング(役割ベースの認証)

EPM Systemセキュリティでは、役割のコンセプトを使用してアプリケーションへのユーザー・アクセスが判別されます。役割とは、EPM Systemコンポーネント内の機能へのユーザー・アクセスを判別する権限です。一部のEPM Systemコンポーネントは、レポートおよびメンバーなどのアーティファクトへのユーザー・アクセスをさらに詳細に制限するために、オブジェクトレベルのACLが使用されます。

各EPM Systemコンポーネントでは、様々な業務上の必要に対して調整された数個のデフォルトの役割が提供されます。EPM Systemコンポーネントに属するアプリケーションはこの役割を継承します。Shared Servicesに登録されたアプリケーションからの事前定義済役割は、Shared Services Consoleに表示されます。

プロビジョニングを促進するために、特定の要件に合うように、デフォルトの役割を集約する、カスタム・ネイティブ・ディレクトリの役割を作成できます。EPM Systemアプリケーションに属する役割およびオブジェクトACLをユーザーおよびグループに付与するプロセスをプロビジョニングと呼びます。

ネイティブ・ディレクトリおよび構成済ユーザー・ディレクトリは、プロビジョニング用のユーザーとグループ情報のソースです。

ユーザーが認証された後、ユーザーがアクセスしようとしたEPM Systemコンポーネントによってユーザーのグループが判別されます。次に、ユーザーのプロビジョニング・データを取得して、ユーザーに適用できるEPM Systemアプリケーションの役割が判別されます。追加のデータまたはオブジェクトのアクセス・セキュリティは、アプリケーション内で定義されるより詳細な権限を使用して処理される場合があります。

EPM System製品の役割ベースのプロビジョニングでは、これらのコンセプトが使用されます。

役割

役割は、EPM Systemコンポーネントの機能を使用するための認証を定義するコンストラクトです。これは、通常アプリケーションの特定のリソースまたはオブジェクトのアクセス権限を指定するアクセス制御リストとは異なります。

EPM Systemアプリケーション・リソースへのアクセスは制限されています。アクセスを提供する役割がユーザー、またはユーザーが属するグループに割り当てられてからのみ、ユーザーはこれらのリソースにアクセスできます。

役割に基づいたアクセス制限では、機能の管理者は、アプリケーション・アクセスを制御および管理できません。153ページの付録A「EPM System役割」を参照してください。

グローバルな役割

グローバルな役割、つまり複数のコンポーネントに及ぶShared Servicesの役割により、ユーザーは複数の製品間で特定のタスクを実行できます。Shared Servicesで管理されるこの役割は削除できません。グローバルな役割のリストについては、153ページのFoundation Services役割を参照してください。

事前定義済役割

事前定義済役割は、EPM Systemコンポーネントに組み込まれた役割であり、削除できません。EPM Systemコンポーネントの各アプリケーション・インスタンスは、製品のすべての事前定義済役割を継承します。各アプリケーションのこれらの役割は、アプリケーションの作成および登録時にShared Servicesに登録されます。事前定義済役割のリストについては、153ページの付録A「EPM System役割」を参照してください。

集約役割

カスタム役割という名でも知られる集約役割では、複数の事前定義済アプリケーション役割が集約されます。集約役割には、他の集約役割を含めることができます。たとえば、Oracle Hyperion Planningのアプリケーションのプロビジョニング・マネージャは、そのアプリケーションのプランナと表示ユーザーの役割を組み合わせた集約役割を作成できます。役割を集約することにより、複数の細かい役割を持つアプリケーションの管理を簡略化できます。グローバルShared Servicesの役割は、集約役割に含めることができます。複数のアプリケーションまたはEPM Systemコンポーネントに及ぶ集約役割は作成できません。

ユーザー

ユーザー・ディレクトリ(ネイティブ・ディレクトリおよび社内ユーザー・ディレクトリ)は、EPM Systemコンポーネントにアクセスできるユーザーのソースです。認証および承認プロセスでユーザー情報が使用されます。

ネイティブ・ディレクトリ・ユーザーを作成して管理できるのは、Shared Services Consoleからのみです。すべての構成済ユーザー・ディレクトリからのユーザーは、Shared Services Consoleから確認できます。ユーザーは、Shared Servicesに登録されたEPM Systemアプリケーションでアクセス権を許可するように個別にプロビジョニングできますが、個別ユーザーへのプロビジョニングはお勧めしません。

デフォルトのEPM System管理者

管理者アカウント(デフォルト名admin)がデプロイメント・プロセス中にネイティブ・ディレクトリに作成されます。これは最も強力なEPM Systemアカウントで、EPM Systemセキュリティおよび環境の管理の責任を負う情報テクノロジーの専門家であるシステム管理者の設定にのみ使用される必要があります。

システム管理者

システム管理者(通常は、企業の情報テクノロジーの専門家)は、EPM Systemのセキュアな環境の設定と維持を担当します。

機能の管理者

機能の管理者は、EPM Systemの専門家である企業ユーザーです。通常、このユーザーは外部ユーザー・ディレクトリとしてShared Servicesに構成されている企業ディレクトリで定義されます。

システム管理者は、他の機能の管理者の作成、委任された管理者の設定、アプリケーションやアーティファクトの作成およびプロビジョニングなどのEPM System管理タスクを実行する、EPM System機能の管理者を作成します。

グループ

グループは、ユーザーまたは他のグループのコンテナです。Shared Services Consoleからネイティブ・ディレクトリ・グループを作成して、管理できます。構成済ユーザー・ディレクトリのグループおよびユーザーをネイティブ・ディレクトリ・グループのメンバーとして割り当てることができます。これらのグループをプロビジョニングして、Shared Servicesに登録されたEPM System製品の権限を許可できます。

3

アプリケーション・グループおよびアプリケーションでの作業

この項の内容:

概要	21
アプリケーション・グループの使用	21
アプリケーションの管理	24
アプリケーションの参照	27

概要

アプリケーション・グループおよびアプリケーションは、重要なEPM Systemの概念です。アプリケーションは、Shared Servicesに登録されているEPM Systemコンポーネントの1つのインスタンスへの参照です。プロビジョニング・アクティビティは、アプリケーションに対して実行されます。通常、アプリケーションはアプリケーション・グループにグループ分けされます。

アプリケーション・グループの使用

通常、デプロイ済アプリケーション・インスタンスは、EPM Systemによって、選択した既存のアプリケーション・グループか、デフォルト・アプリケーション・グループ内に置かれます。

アプリケーション・グループはEPM Systemアプリケーションのコンテナです。たとえば、アプリケーション・グループに、Oracle Hyperion PlanningアプリケーションとOracle Hyperion Reporting and Analysisアプリケーションが含まれるとします。アプリケーションが属することのできるアプリケーション・グループの数は1つですが、アプリケーション・グループには複数のアプリケーションを含められます。

通常、アプリケーションは、EPM Systemコンポーネントによって、固有のアプリケーション・グループ内に置かれます。EPM Systemコンポーネントによって独自のアプリケーション・グループが作成されない場合、アプリケーションを登録しているユーザーは、アプリケーション・グループ(たとえば、デフォルト・アプリケーション・グループ)を選択し、アプリケーションを整理できます。Shared Servicesに登録されているが、アプリケーション・グループに追加されていないアプリケーションは、ビュー・ペインの「デフォルト・アプリケーション・グループ」ノードの下に一覧表示されます。プロジェクト・マネージャはユーザーおよびグループを「デフォルト・アプリケーション・グループ」ノードにリストされているアプリケーションからの役割でプロビジョニングできます。

アプリケーション・グループの管理タスクを詳しく解説するトピック:

- [22ページのアプリケーション・グループの作成](#)
- [23ページのアプリケーション・グループ・プロパティの変更](#)
- [23ページのアプリケーション・グループの削除](#)



注:

アプリケーション・グループを作成および管理するには、機能の管理者またはLCM管理者である必要があります。機能の管理者はすべての登録済アプリケーションを操作できます。プロジェクト・マネージャは、自分がプロビジョニング・マネージャで担当するアプリケーションのみ表示できます。

アプリケーション・グループの作成

アプリケーション・グループの作成中、新規アプリケーション・グループにアプリケーションを割り当てることもできます。

▶ アプリケーション・グループを作成するには:

1. 機能の管理者としてShared Services Consoleにアクセスします。



[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。

2. ビュー・ペインで、「アプリケーション・グループ」を右クリックし、「新規アプリケーション・グループ」を選択します。
3. 「名前」に一意のアプリケーション・グループ名を入力し、「説明」にはオプションの説明を入力します。

アプリケーション・グループ名では、大文字と小文字が区別されます。たとえば、Test_1、TEst_1およびtest_1はそれぞれ一意のグループ名です。

4. このアプリケーション・グループにアプリケーションを割り当てるには:

- a. 「アプリケーション・グループのアプリケーションのリスト」から、割り当てるアプリケーションを含むアプリケーション・グループを選択します。

- b. 「リストの更新」をクリックします。使用可能なアプリケーションのリストに、アプリケーション・グループに割当て可能なアプリケーションが表示されます。
 - c. 「使用可能なアプリケーション」でアプリケーション・グループに割り当てるアプリケーションを選択し、 をクリックします。
 - d. 割り当てられたアプリケーションを除去するには、「割り当てられたアプリケーション」から除去するアプリケーションを選択し  をクリックします。
5. 「終了」をクリックします。
 6. 「追加作成」をクリックし、別のアプリケーション・グループを作成するか、「OK」をクリックしてステータス画面を閉じます。

アプリケーション・グループ・プロパティの変更

プロパティおよびアプリケーションの割当てなどアプリケーション・グループの設定はすべて変更できます。



注:

機能の管理者はアプリケーションを別のアプリケーション・グループから移動することで、アプリケーション・グループに追加することもできます。[25ページ](#)の[アプリケーションの移動](#)を参照してください。

▶ アプリケーション・グループを変更するには:

1. 機能の管理者としてShared Services Consoleにアクセスします。
[11ページ](#)の[Shared Services Consoleの起動](#)を参照してください。
2. ビュー・ペインでアプリケーション・グループを右クリックし、「開く」を選択します。
3. 必要に応じてアプリケーション・グループ・プロパティを変更します。アプリケーションの割当てと除去の詳細は、[22ページ](#)の[ステップ 4](#)を参照してください。



注:

グループから削除するアプリケーションは、自動的にデフォルト・アプリケーション・グループに再度割り当てられます。

4. 「保存」をクリックします。

アプリケーション・グループの削除

アプリケーション・グループを除去すると、アプリケーションとアプリケーション・グループとの関連付けが除去され、アプリケーション・グループが削除されますが、アプリケーションからプロビジョニング割当ては削除されません。

次のアプリケーション・グループは削除できません。

- デフォルト・アプリケーション・グループ

- Foundation
- ファイル・システム

▶ アプリケーション・グループを削除するには:

1. 機能の管理者としてShared Services Consoleにアクセスします。
[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。
2. ビュー・ペインでアプリケーション・グループを右クリックし、「削除」を選択します。



注:

アプリケーション・グループに割り当てられているアプリケーションは自動的にデフォルト・アプリケーション・グループに再度割り当てられます。

3. 「はい」をクリックします。
4. 「OK」をクリックします。

アプリケーションの管理

Shared Servicesは、登録されたEPM Systemアプリケーションを追跡します。

一般的には、アプリケーション・インスタンスは、デプロイメント・プロセス中にShared Servicesに登録されます。

一部のアプリケーションの登録では、アプリケーション・グループが作成され、そのアプリケーション・グループにアプリケーションを割り当てます。登録でアプリケーション・グループが作成されない場合は、アプリケーションがデフォルト・アプリケーション・グループの下に一覧表示されます。プロビジョニング・マネージャは、これらのアプリケーションをプロビジョニングできます。機能の管理者がデフォルト・アプリケーション・グループから別のアプリケーション・グループにアプリケーションを移動する場合、Shared Servicesはプロビジョニング情報を保持します。

アプリケーション管理タスクについてのトピック

- [25ページのアプリケーションの移動](#)
- [25ページのアプリケーション間のプロビジョニング情報のコピー](#)
- [26ページのアプリケーションの削除](#)
- [27ページのEssbaseアプリケーション・アーティファクトのプロビジョニング](#)

アプリケーションの移動

機能の管理者はプロビジョニング・データを失うことなく、1つのアプリケーション・グループから別のアプリケーション・グループにアプリケーションを移動できます。アプリケーション・グループからアプリケーションを移動すると、アプリケーションとアプリケーション・グループ間の関連付けが除去されます。



注:

Shared Servicesとデプロイメント・メタデータのアプリケーションは、Foundationアプリケーション・グループから移動できません。

▶ アプリケーションを移動するには:

1. 機能の管理者としてShared Services Consoleにアクセスします。
[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。
2. 移動するアプリケーションを含むアプリケーション・グループのノードを展開します。
3. アプリケーションを右クリックし、「移動」を選択します。
4. 「移動」でアプリケーションの移動先のアプリケーション・グループを選択します。
5. 「保存」をクリックします。

アプリケーション間のプロビジョニング情報のコピー

機能の管理者はプロビジョニング情報をEPM Systemアプリケーション・インスタンス間(あるPlanningアプリケーションから別のアプリケーションなど)でコピーできます。プロビジョニング・マネージャがプロビジョニング情報をコ

ピーすると、すべてのユーザー、グループ、および役割の情報がターゲット・アプリケーションにコピーされます。アーティファクト・プロビジョニング情報はアプリケーション間でコピーできません。

▶ アプリケーション間でプロビジョニング情報をコピーするには:

1. プロビジョニング・マネージャまたは機能の管理者としてShared Services Consoleにアクセスします。

[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。

2. ビュー・ペインで、プロビジョニング情報のコピー元のアプリケーションを含むアプリケーション・グループのノードを展開します。
3. プロビジョニング情報をコピーするアプリケーションを右クリックして、「**プロビジョニングのコピー**」を選択します。

「**プロビジョニングのコピー**」が開きます。このタブには、プロビジョニング情報をコピーできるターゲット・アプリケーションが一覧表示されます。

4. 目的のアプリケーションを選択します。
5. 「**保存**」をクリックします。

複数のアプリケーションの削除

機能の管理者がアプリケーションを削除すると、プロビジョニング情報も削除されます。

▶ アプリケーションを削除するには、次の手順に従います。

1. 機能の管理者としてShared Services Consoleにアクセスします。

[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。

2. ビュー・ペインで、「**アプリケーション・グループ**」を右クリックし、「**削除**」を選択します。
3. 削除するアプリケーションを選択します。アプリケーション・グループ内のすべてのアプリケーションを削除するには、そのアプリケーション・グループを選択します。



注:

この画面でアプリケーション・グループを削除できません。[23ページのアプリケーション・グループの削除](#)を参照してください。

4. 「**削除**」をクリックします。
5. 「**OK**」をクリックします。

アプリケーションの削除

機能の管理者はアプリケーション・グループからアプリケーションを削除できます。アプリケーション・グループからアプリケーションを削除する場合、そのアプリケーションのプロビジョニング情報はすべて除去されます。

▶ アプリケーションを削除するには:

1. 機能の管理者としてShared Services Consoleにアクセスします。

[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。

2. ビュー・ペインで、削除するアプリケーションを含むアプリケーション・グループのノードを展開します。
3. アプリケーションを右クリックし、「**削除**」を選択します。

4. 「OK」をクリックします。

Essbaseアプリケーション・アーティファクトのプロビジョニング

EPM Systemでは、アプリケーションおよびデータのセキュリティを確実にするためにアプリケーションおよびアーティファクトレベルのプロビジョニングが使用されます。各EPM Systemアプリケーションへのアクセスは、ユーザーおよびグループにアプリケーションの役割をプロビジョニングすることで制限されます。通常、プロビジョニング・マネージャはShared Services Consoleを使用してユーザーおよびグループにEPM Systemアプリケーションに対するプロビジョニングを行います。

一部のEPM Systemアプリケーションは、独自のアーティファクト(アプリケーションのみに属するレポートおよび計算スクリプトなど)を作成します。ほとんどの場合、アプリケーションのアーティファクトへのアクセスは、アプリケーション・ユーザーおよびグループにプロビジョニングすることで制御できます。たとえば、Oracle Essbase Administration ServicesコンソールまたはMaxLを使用してOracle Essbaseのフィルタおよび計算スクリプトを作成します。Essbaseアプリケーションのプロビジョニング・マネージャは、Shared Services Consoleを使用して、これらのフィルタおよび計算スクリプトをプロビジョニングできます。

プロビジョニング・マネージャはプロビジョニング・マネージャとして定義されたアプリケーションからの役割でグループをプロビジョニングできます。一般的には、アプリケーションの所有者(Foundation Servicesでアプリケーションを作成および登録したユーザー)にはアプリケーションのプロビジョニング・マネージャの役割が自動的に付与されます。

この手順を開始する前に、必要なサーバーとアプリケーションが実行されていることを確認してください。

▶ アプリケーション固有のアクセス権限を割り当てるには:

1. プロビジョニング・マネージャとしてShared Services Consoleにアクセスします。

[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。

2. ビュー・ペインで、アクセス権限を割り当てるアプリケーションを含むアプリケーション・グループを展開します。
3. アプリケーションを右クリックし、「アクセス権の割当て」を選択します。このオプションは、アクセス権限を設定可能なアプリケーションにのみ使用可能です。



注:

アプリケーションが実行されていない場合は、アプリケーションを選択するとエラー・メッセージが表示されます。アプリケーションにアクセスするには、アプリケーションを起動し、「表示」、「リフレッシュ」の順にクリックして、ビュー・ペインをリフレッシュします。

4. アクセス権限を割り当てます。製品の役割のリストは、[153ページの付録A「EPM System役割」](#)を参照してください。

アプリケーションの参照

Shared Services Consoleのライフサイクル管理インタフェースにより、アプリケーション・アーティファクトの表示、検索、エクスポート、およびインポートが可能です。アーティファクトは各種カテゴリにソートされているため、整然と表示されます。*Oracle Enterprise Performance Management System*ライフサイクル管理ガイドを参照してください。

4

委任されたユーザー管理

この項の内容:

委任されたユーザー管理について	29
管理者の階層	29
委任されたユーザー管理モードを使用可能にする	30
委任された管理者の作成	31

委任されたユーザー管理について

委任されたユーザー管理では、EPM System製品向けの管理者の階層を作成できます。この機能では、Shared Services管理者は、責任のあるユーザーとグループを管理するための制限されたアクセスを許可される他の管理者に、ユーザーとグループを管理する責任を委任できます。

Shared Services管理者の役割を持つユーザーのみがEPM System製品のすべてのユーザーとグループを表示できます。委任された管理者は、責任のあるユーザーとグループのみを表示および管理できます。また、委任された管理者は、割り当てられた役割によって許可された管理タスクのみを実行できます。

管理者の階層

システム管理者、機能の管理者および委任された管理者の3層の管理者は、委任された管理モードに存在します。

システム管理者

システム管理者はEPM Systemセキュリティおよびシステム環境の管理の責任を負う情報テクノロジーの専門家です。

機能の管理者

企業ユーザーにFoundation ServicesのLCM管理者の役割およびデプロイされた各EPM Systemコンポーネントの管理者の役割をプロビジョニングすることによって、システム管理者は機能の管理者を作成します。この機能の管理者はアプリケーション間でプロビジョニング・アクティビティをすべて実行できます。

機能の管理者は、EPM System内で、アクセスをより制限された他の機能の管理者を作成できます。たとえば、PlanningアプリケーションPlanApp1を管理する場合、機能の管理者はユーザーにFoundation Servicesの管理者の役割とPlanningアプリケーションPlanApp1の管理者の役割をプロビジョニングできます。

委任された管理者

委任された管理者は、EPM Systemコンポーネントへの管理者レベルのアクセスは制限されています。委任された管理者は、管理者アクセスを許可されているユーザーとグループにのみアクセスできます。これで、複数の管理者全体でユーザーとグループ管理のタスクを分割できます。

EPM Systemコンポーネントに対して委任された管理者が実行できるアクションの範囲は、機能の管理者がプロビジョニングによって許可したアクセス権によってコントロールされます。たとえば、委任された管理者がShared Servicesでディレクトリ・マネージャのグローバルの役割を許可され、ユーザーがネイティブ・ディレクトリでユーザーとグループを作成できると仮定してください。役割を追加しない場合、この委任された管理者は、他の管理者が作成したユーザーとグループのリストを表示できません。作成したユーザーを表示するには、委任された管理者に役割の追加が必要です。

委任されたユーザー管理モードを使用可能にする

デフォルトのShared Servicesのデプロイメントでは、委任された管理はサポートされていません。委任された管理者を作成する前にShared Servicesの委任されたユーザー管理モードを使用可能にする必要があります。委任されたユーザー管理モードに切り替えると、追加の画面およびメニュー・オプションが使用可能になります。

委任された管理モードでは、委任された管理者に割り当てられた役割の範囲は、委任されたリストのユーザーとグループに制限されています。デフォルト・モードに戻すと、その制限が解除され、その役割のオリジナルの範囲が回復します。たとえば、Essbaseプロビジョニング・マネージャの役割を割り当てられているユーザー`del_admin1`は、`Esb_group1`および`Esb_group2`の委任された管理者であると仮定してください。デフォルト・モードに戻すと、`del_admin1`がすべてのユーザーとグループに対してEssbaseプロビジョニング・マネージャになります。

▶ 委任されたユーザー管理モードを使用可能にするには:

1. 機能の管理者としてShared Services Consoleにアクセスします。11ページの[Shared Services Consoleの起動](#)を参照してください。
2. 「管理」から、「ユーザー・ディレクトリの構成」を選択します。
3. 「セキュリティ・オプション」、「詳細オプションの表示」の順に選択します。
4. 「委任されたユーザー管理モードを使用可能にする」を選択します。
5. 「OK」をクリックします。
6. 「OK」をクリックします。
7. Foundation Servicesとその他のEPM Systemコンポーネントを再起動します。

委任された管理者の作成

- [32ページのプランニング・ステップ](#)
- [33ページの委任された管理者のプロビジョニング](#)
- [33ページの委任リストの作成](#)
- [37ページの委任されたレポートの表示](#)

プランニング・ステップ

- [33ページの委任された管理者のユーザー・アカウント](#)
- [33ページの委任プランの作成](#)

委任された管理者のユーザー・アカウント

機能の管理者は、Shared Servicesで構成されたユーザー・ディレクトリのユーザー・アカウントから委任された管理者を作成します。プロビジョニングとは異なり、委任された管理者の機能はグループには割り当てることができません。Shared Services管理の委任プロセスを開始する前に、委任された管理者が、構成されたユーザー・ディレクトリでユーザーとして作成されることを確認します。

委任プランの作成

委任プランでは、委任された管理者が実行を許可されるEPM Systemコンポーネントとタスクを効果的に管理するために必要な委任された管理者が識別される必要があります。プランではこれらのユーザー、グループ、および役割が識別される必要があります。

- 各委任された管理者が管理する必要のあるユーザーとグループ。このリストは、委任リストを作成中に使用できません。[33ページの委任リストの作成](#)を参照してください。
- 各委任管理者が許可される必要のあるShared ServicesおよびEPM System製品の役割

委任された管理者のプロビジョニング

機能の管理者は実施する必要のあるアクティビティを定義する委任プランに基づいて役割を付与することにより、委任された管理者にプロビジョニングします。[153ページのFoundation Services役割](#)を参照してください。

委任された管理者は、EPM System製品から、たとえばPlanningからのプロビジョニング・マネージャから役割を許可され、委任された管理者がEPM System製品の管理タスクを実行できます。

委任リストの作成

委任リストでは、委任された管理者が管理できるユーザーとグループが識別されます。各リストは、1つ以上の委任された管理者に割り当てられます。委任された管理者は、次のタスクを実行できます。

- 委任リストを通して、管理者に割り当てられたユーザーとグループのみを表示します。その他のユーザーとグループはすべて、リストから非表示になったままです。
- 管理する他のユーザーの委任リストを作成します。
- 委任リストに含まれるユーザーとグループのみを検索して取得します。



注:


Shared Servicesでは、現在のユーザーが委任リストを管理するために割り当てられている場合のみ、「委任リスト」のノードが表示されます。

委任された管理者が作成するユーザーとグループは、これらを作成した管理者に自動的に割り当てられません。機能の管理者は、委任された管理者がこれらのユーザーとグループにアクセスする前に、これらのユーザーとグループを委任リストに追加する必要があります。ただし、委任された管理者は、作成する委任リストにこれらのユーザーとグループを割り当てることができます。

▶ 委任リストを作成するには:

1. Shared Services Consoleにアクセスします。11ページのShared Services Consoleの起動を参照してください。
2. ビュー・ペインの「ネイティブ・ディレクトリ」で、「委任リスト」を右クリックし、「新規委任」を選択します。
3. 「全般」に、一意の委任されたリンク名とオプションの説明を入力します。
4. オプション: このリストに割り当てられた委任された管理者が管理できるグループを追加するには、「次へ」をクリックします。

「グループ・メンバー」が表示されます。

- a. 「ディレクトリ」で、グループを表示するユーザー・ディレクトリを選択します。委任された管理者である場合は、自分に割り当てられているグループのみ検索できます。
- b. 検索するグループ属性(グループ名または説明)をドロップダウン・リストから選択し、検索フィルタを入力します。
- c. 「検索」をクリックします。
- d. 「使用可能なグループ」から、グループを選択します。
- e.  をクリックします。




注:


Shared Servicesは、OracleおよびSQL Serverデータベースの役割をユーザー・ディレクトリのグループと同等のものとみなします。

Oracleデータベースの役割は、階層にすることができます。

SQL Serverデータベースの役割はネストできません。

- f. オプション: 「割り当てられたグループ」からグループを選択し、 をクリックしてグループの割当てを解除します。
5. オプション: 「次へ」をクリックして、このリストの委任された管理者が管理できるユーザーを追加します。

「ユーザー・メンバー」が表示されます。

- a. 「ディレクトリ」で、ユーザーを表示するユーザー・ディレクトリを選択します。委任された管理者である場合は、検索では、自分に割り当てられているユーザーのみがリストされます。
- b. 検索するユーザー属性をドロップダウン・リストから選択し、検索フィルタを入力します。
- c. 「検索」をクリックします。
- d. 「使用可能なユーザー」から、ユーザーを選択します。
- e.  をクリックします。

選択したユーザーが「割り当てられたユーザー」に一覧表示されます。

- f. オプション: 「割り当てられたユーザー」からユーザーを選択し、



をクリックしてユーザーの割当てを解除します。



注:

リストの委任された管理者が、ユーザーとして自動的に追加されます。

6. オプション: 「次へ」をクリックして、このリスト用の委任された管理者を割り当てます。

「管理者」が表示されます。

- a. 「ディレクトリ」で、ユーザーを表示するユーザー・ディレクトリを選択します。
- b. 検索するユーザー属性をドロップダウン・リストから選択し、検索フィルタを入力します。
- c. 「検索」をクリックします。
- d. 「使用可能なユーザー」から、ユーザーを選択します。



をクリックします。

選択したユーザーが「割り当てられたユーザー」に一覧表示されます。

- f. オプション: 「割り当てられたユーザー」からユーザーを選択し、



をクリックしてユーザーの割当てを解除します。



注:

リストを作成するユーザーが、リストの委任された管理者として自動的に追加されます。

7. 「終了」をクリックします。
8. 「追加作成」をクリックして別のリストを作成するか、「OK」をクリックして「委任リストの作成」画面を閉じます。

委任リストの変更

委任された管理者は、自分に割り当てられているリストのみ変更できます。機能の管理者はすべての委任リストを変更できます。


▶ 委任リストを変更するには:

1. Shared Services Consoleにアクセスします。11ページの[Shared Services Consoleの起動](#)を参照してください。
2. ビュー・ペインの「ネイティブ・ディレクトリ」ノードから「委任リスト」を選択します。
3. 変更する委任リストを検索します。

13ページの[ユーザー、グループ、役割および委任リストの検索](#)を参照してください。

検索条件に一致する委任リストが「参照」タブに一覧表示されます。

4. 委任リストを右クリックして、「プロパティ」を選択します。
5. オプション: 「全般」で、リスト名と説明を変更します。
6. オプション: グループの割当てを変更するには、「グループ・メンバー」をクリックします。

- a. 「ディレクトリ」で、グループを表示するユーザー・ディレクトリを選択します。委任された管理者である場合は、自分に割り当てられているグループのみ検索できます。
- b. 検索するグループ属性(グループ名または説明)をドロップダウン・リストから選択し、検索フィルタを入力します。
- c. 「検索」をクリックします。
- d. 「使用可能なグループ」から、グループを選択します。
- e.  をクリックします。








注:

Shared Servicesは、OracleおよびSQL Serverデータベースの役割をユーザー・ディレクトリのグループと同等のものとみなします。

Oracleデータベースの役割は、階層にすることができます。

SQL Serverデータベースの役割はネストできません。

- f. オプション: 「割り当てられたグループ」からグループを選択し、
 をクリックしてグループの割当てを解除します。
7. オプション: ユーザーの割当てを変更するには、「ユーザー・メンバー」をクリックします。
- a. 「ディレクトリ」で、ユーザーを表示するユーザー・ディレクトリを選択します。委任された管理者である場合は、検索では、自分に割り当てられているユーザーのみがリストされます。
 - b. 検索するユーザー属性をドロップダウン・リストから選択し、検索フィルタを入力します。
 - c. 「検索」をクリックします。
 - d. 「使用可能なユーザー」から、ユーザーを選択します。
 - e.  をクリックします。
- 選択したユーザーが「割り当てられたユーザー」に一覧表示されます。
- f. オプション: 「割り当てられたユーザー」からユーザーを選択し、
 をクリックしてユーザーの割当てを解除します。
8. オプション: 委任された管理者の割当てを変更するには、「管理者」をクリックします。
- a. 「ディレクトリ」で、ユーザーを表示するユーザー・ディレクトリを選択します。
 - b. 検索するユーザー属性をドロップダウン・リストから選択し、検索フィルタを入力します。
 - c. 「検索」をクリックします。
 - d. 「使用可能なユーザー」から、ユーザーを選択します。
 - e.  をクリックします。
- 選択したユーザーが「割り当てられたユーザー」に一覧表示されます。
- f. オプション: 「割り当てられたユーザー」からユーザーを選択し、
 をクリックしてユーザーの割当てを解除します。
9. 「OK」をクリックします。

10. 「OK」をクリックします。

委任リストの削除

▶ 委任リストを削除するには:

1. Shared Services Consoleにアクセスします。11ページのShared Services Consoleの起動を参照してください。
2. ビュー・ペインの「ネイティブ・ディレクトリ」ノードから「委任リスト」を選択します。
3. 変更する委任リストを検索します。

13ページのユーザー、グループ、役割および委任リストの検索を参照してください。

検索条件に一致する委任リストが「参照」タブに一覧表示されます。

4. 委任リストを右クリックして、「削除」を選択します。
5. 「はい」をクリックします。
6. 「OK」をクリックします。

委任されたレポートの表示

委任されたレポートには、選択された委任リストに割り当てられたユーザーとグループ、およびリストが割り当てられた委任された管理者に関する情報が含まれます。

機能の管理者は、すべての委任リストの委任されたレポートを生成および表示できます。委任された管理者は、作成した委任リスト、および管理者に割り当てられた委任リスト上のレポートを生成できます。

▶ 委任されたレポートを表示するには:

1. Shared Services Consoleにアクセスします。11ページのShared Services Consoleの起動を参照してください。
2. ビュー・ペインの「ネイティブ・ディレクトリ」で、「委任リスト」を右クリックし、「委任されたレポートの表示」を選択します。
3. 「委任リスト名」で、レポートが生成されるリスト名を入力します。パターン検索用にワイルドカードとして*を使用します。
4. 「管理者」で、指定リストの割当てがレポートされる委任された管理者のユーザーIDを入力します。パターン検索にはワイルドカードとして*を使用します。
5. 「作成」をクリックします。
6. 「OK」をクリックしてレポートを閉じるか、または「印刷プレビュー」をクリックしてレポートをプレビューします。

レポートをプレビューする場合、次の手順に従います:

- a. 「印刷」をクリックしてレポートを印刷します。
- b. 「閉じる」をクリックしてレポートの表示ウィンドウを閉じます。

5

ネイティブ・ディレクトリの管理

この項の内容:

ネイティブ・ディレクトリ情報	39
デフォルトのネイティブ・ディレクトリ・ユーザーおよびグループ	39
ネイティブ・ディレクトリ・ユーザーの管理	39
ネイティブ・ディレクトリ・グループの管理	44
役割の管理	49
ネイティブ・ディレクトリのバックアップ	52

ネイティブ・ディレクトリ情報

ネイティブ・ディレクトリは、ユーザー・プロビジョニング・データおよび製品登録データを格納するリレーショナル・データベースです。

Shared Services Consoleは、ネイティブ・ディレクトリの管理インタフェースです。Shared Services Consoleには、ネイティブ・ディレクトリを含む、構成済ユーザー・ディレクトリから取得されたEPM Systemのユーザーとグループのリストが表示されます。これらのユーザーおよびグループは、プロビジョニングで使用されます。

デフォルトのネイティブ・ディレクトリ・ユーザーおよびグループ

ネイティブ・ディレクトリには、デフォルトで、デフォルトの管理者アカウント(推奨されるデフォルトのユーザー名はadmin)が含まれています。このアカウントはEPM Systemセキュリティおよびシステム環境の維持の責任を負うシステム管理者の作成に使用されます。

システム管理者はすべてのネイティブ・ディレクトリおよびShared Services管理タスクを実行する機能の管理者を作成します。

EPM Systemのすべてのユーザー(ネイティブ・ディレクトリまたは外部ユーザー・ディレクトリで定義されたかどうかに関係なく)は、WORLDグループ(ネイティブ・ディレクトリの唯一のデフォルト・グループ)に属しています。WORLDは論理グループです。Shared Servicesのすべてのユーザーは、このグループに割り当てられたすべての役割を継承します。ユーザーは、ユーザーに直接割り当てられたすべての権限およびユーザーのグループ(WORLDグループを含む)に割り当てられたすべての権限を合せて取得します。

Shared Servicesが委任モードでデプロイされている場合、WORLDグループには、グループおよびユーザーが含まれます。ユーザーの委任リストにWORLDグループが含まれている場合、ユーザーは、検索時にすべてのユーザーおよびグループを取得できます。

ネイティブ・ディレクトリ・ユーザーの管理

機能の管理者またはディレクトリ・マネージャは、次のタスクの一部を実行して、ネイティブ・ディレクトリのユーザー・アカウントを管理できます。

- [40ページのユーザーの作成](#)
- [41ページのユーザー・アカウントの表示および変更](#)
- [42ページのユーザー・アカウントの非アクティブ化](#)
- [43ページのユーザー・アカウントの削除](#)
- [56ページのグループのプロビジョニング](#)
- [57ページのグループのプロビジョニング解除](#)
- [61ページのプロビジョニング・レポートの生成](#)



注:

外部ユーザー・ディレクトリのユーザーは、Shared Services Consoleから管理できません。

ユーザーの作成

▶ ユーザーを作成するには:


1. 機能の管理者またはディレクトリ・マネージャとしてShared Services Consoleにアクセスします。[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。
2. ビュー・ペインの「ネイティブ・ディレクトリ」ノードで、「ユーザー」を右クリックし、「新規ユーザー」を選択します。
3. 「ユーザーの作成」に、必要な情報を入力します。

表1 「ユーザーの作成」画面

ラベル	説明
ユーザー名	組織の名前付けルールに従う一意のユーザー識別子(最大256文字)(例: <i>jyoung</i> などの名の先頭文字とそれに続く姓) ユーザー名には、任意の数値または文字の組合せを含むことができます。 同じユーザー名(スペースの数のみが異なる名前など)を作成できません。たとえば、ユーザー名 <code>user 1</code> (<code>user</code> と <code>1</code> の間にスペースが1つある)と <code>user 1</code> (<code>user</code> と <code>1</code> の間にスペースが2つある)は作成できません。
パスワード	パスワードは大文字と小文字を区別し、文字の任意の組合せを含むことができます。
パスワードの確認	パスワードを再入力します。
名	ユーザーの名(オプション)
姓	ユーザーの姓(オプション)
説明	ユーザーの説明(オプション)
電子メール・アドレス	ユーザーの電子メール・アドレス(オプション)。電子メール・サーバー・ドメインの拡張子(<code>.com</code> 、 <code>.org</code> 、 <code>.gov</code> など)は、4文字までにする必要があります。


4. オプション: ネイティブ・ディレクトリ・グループにユーザーを割り当てるには、「次へ」をクリックします。

- a. 「使用可能なグループ」リストの上にあるフィールドを使用して、グループを検索します。
 - i. ドロップダウン・リストから、「グループ名」を選択すると、グループ名に基づいて検索します。「説明」を選択すると、グループの説明に基づいて検索されます。
 - ii. グループを取得するための条件を入力します。* (アスタリスク)をワイルドカードとして使用すると、使用可能なすべてのグループが取得されます。
 - iii. 「検索」をクリックします。

検索条件に一致するグループが、「使用可能なグループ」に表示されます。
 - b. 「使用可能なグループ」から、グループを選択します。
 - c.  をクリックします。

選択したグループは、「割り当てられたグループ」リストに表示されます。
 - d. オプション: 別のグループを取得して割り当てるには、[41ページのステップ 4.a](#)を繰り返します。

「割り当てられたグループ」の上にあるフィールドを使用すると、割り当てられたグループを検索し、削除するグループを識別できます。割り当てられたグループ内の検索の手順については、[41ページのステップ 4.a](#)を参照してください。

「割り当てられたグループ」から、割り当てられたグループを削除するには、削除するグループを選択して、 をクリックします。
5. 「終了」をクリックします。
 6. 「追加作成」をクリックして別のユーザーを作成するか、「終了」をクリックして「ユーザーの作成」を閉じます。

ユーザー・アカウントの表示および変更

機能の管理者およびディレクトリ・マネージャは、EPM Systemのデプロイの際に作成したシステム管理者アカウントのユーザー名など、ネイティブ・ディレクトリ・ユーザー・アカウントのプロパティを表示および変更できます。

管理者ではないネイティブ・ディレクトリ・ユーザーは、情報の表示はできますが、変更はできません。

▶ ユーザー情報を表示および変更するには:

1. 機能の管理者またはディレクトリ・マネージャとしてShared Services Consoleにアクセスします。[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。
2. ビュー・ペインの「ネイティブ・ディレクトリ」ノードから、「ユーザー」を選択します。
3. ユーザー・アカウントを検索します。[13ページのユーザー、グループ、役割および委任リストの検索](#)を参照してください。
4. 変更するユーザー・アカウントを右クリックし、「プロパティ」を選択します。



注:

Shared Servicesが委任された管理モードでデプロイされている場合、「ユーザー・プロパティ」画面には、「委任リスト」が表示されます。

5. 「全般」で、ユーザー・プロパティを変更します。

変更できるプロパティの説明については、[40ページの表 1](#)を参照してください。

6. オプション: ネイティブ・ディレクトリ・グループとのユーザーの関連を変更します。
- 「メンバー」をクリックします。
 - 「使用可能なグループ」の上にあるフィールドを使用して、グループを検索します。
 - ドロップダウン・リストから、「グループ名」を選択すると、グループ名に基づいて検索します。「説明」を選択すると、グループの説明に基づいて検索されます。
 - グループを取得するための条件を入力します。* (アスタリスク)をワイルドカードとして使用すると、使用可能なすべてのグループが取得されます。
 - 「検索」をクリックします。

検索条件に一致するグループが、「使用可能なグループ」に表示されます。

- c. 「使用可能なグループ」から、グループを選択します。



をクリックします。

選択したグループは、「割り当てられたグループ」の下に表示されます。

- e. オプション: 別のグループを取得して割り当てるには、[42ページのステップ 6.b](#)を繰り返します。

「割り当てられたグループ」の上にあるフィールドを使用すると、割り当てられたグループを検索し、削除するグループを識別できます。割り当てられたグループ内の検索の手順については、[42ページのステップ 6.b](#)を参照してください。

「割り当てられたグループ」から、割り当てられたグループを削除するには、削除するグループを選択して、



をクリックします。

7. オプション: 「委任リスト」をクリックすると、ユーザーの委任リストの割当てが表示されます。
8. 「終了」をクリックします。

ユーザー・アカウントの非アクティブ化

EPM Systemのアプリケーションに対するアクセス権が禁止されているネイティブ・ディレクトリ・ユーザー・アカウントを非アクティブにします。アカウントの非アクティブ化は、通常、Shared Services管理者が再アクティブ化する予定がある場合に一時的に行われます。

- 非アクティブ・ユーザー・アカウントは、EPM Systemのアプリケーション(Shared Services Consoleを含む)のログオンには使用できません。
- 非アクティブ・アカウントのグループ関連は維持され、機能の管理者に見える状態で残ります。
- 非アクティブ・アカウントの役割関連は維持されます。
- 非アクティブ・ユーザー・アカウントは、製品固有のアクセス制御画面に表示されません。
- 非アクティブ・ユーザー・アカウントは、ネイティブ・ディレクトリから削除されません。



注:

LCM管理者の役割でプロビジョニングされているユーザーは、システム管理者など、他の管理者を非アクティブ化できます。

▶ ユーザー・アカウントを非アクティブにするには:

1. 機能の管理者またはディレクトリ・マネージャとしてShared Services Consoleにアクセスします。11ページの[Shared Services Consoleの起動](#)を参照してください。
2. 非アクティブにするネイティブ・ディレクトリ・ユーザーを検索します。13ページの[ユーザー、グループ、役割および委任リストの検索](#)を参照してください。
3. ユーザー・アカウントを右クリックし、「非アクティブにする」を選択します。
4. 「OK」をクリックします。

非アクティブ・ユーザー・アカウントのアクティブ化

非アクティブ・ネイティブ・ディレクトリ・ユーザー・アカウントをアクティブにすると、アカウントが非アクティブ化されるまでに存在した関連が元に戻ります。非アクティブ・ユーザー・アカウントがメンバーであったグループが削除された場合、削除されたグループから与えられた役割は元に戻りません。



注:

非アクティブ化されたシステム管理者および機能の管理者アカウントは、別の管理者によるのみアクティブ化できます。

▶ 非アクティブなユーザー・アカウントをアクティブにするには:

1. 機能の管理者またはディレクトリ・マネージャとしてShared Services Consoleにアクセスします。11ページの[Shared Services Consoleの起動](#)を参照してください。
2. アクティブにする「ネイティブ・ディレクトリ」ユーザーを検索します。13ページの[ユーザー、グループ、役割および委任リストの検索](#)を参照してください。
3. ユーザー・アカウントを右クリックし、「アクティブにする」を選択します。
4. 「OK」をクリックします。

ユーザー・アカウントの削除

ユーザー・アカウントを除去すると、ネイティブ・ディレクトリ・グループとのユーザーの関連、ユーザーの役割の割当ておよびユーザー・アカウントがネイティブ・ディレクトリから削除されます。



注:

システム管理者アカウント(デフォルトではadmin)は削除できません。

▶ ユーザー・アカウントを削除するには:

1. 機能の管理者またはディレクトリ・マネージャとしてShared Services Consoleにアクセスします。11ページの[Shared Services Consoleの起動](#)を参照してください。
2. 削除する「ネイティブ・ディレクトリ」ユーザーを検索します。13ページの[ユーザー、グループ、役割および委任リストの検索](#)を参照してください。
3. ユーザー・アカウントを右クリックし、「削除」を選択します。
4. 「はい」をクリックします。
5. 「OK」をクリックします。

ネイティブ・ディレクトリのユーザー・パスワードの変更

ネイティブ・ディレクトリのアカウントは、他の企業アプリケーションのサポートに使用されるユーザー・アカウントとは分離されているため、パスワードの変更は、EPM System製品にのみ影響します。

- ▶ 現在のユーザーのネイティブ・ディレクトリのパスワードを変更するには、次の手順に従います。
- 1. EPM Workspaceを起動します。[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。
- 2. 「ツール」、「パスワードの変更」の順に選択します。
- 3. 「現在のパスワード」に、パスワードを入力します。
- 4. 「新パスワード」と「パスワードの確認」に、新パスワードを入力します。
- 5. 「保存」をクリックします。

ネイティブ・ディレクトリ・グループの管理

ネイティブ・ディレクトリ・ユーザーは、共通の特性に基づいてグループ化できます。たとえば、ユーザーを機能に基づいてスタッフ、マネージャ、販売などのグループに分類したり、場所に基づいてSales_WestやManagers_HQなどのグループに分類できます。ユーザーは多数のグループに属することができます。

ネイティブ・ディレクトリ・グループは、Shared Servicesで構成されたユーザー・ディレクトリの他のグループおよびユーザーを含むことができます。

ユーザーのグループ所属は、認可プロセスでは重要な考慮事項です。通常、個々のユーザー・アカウントではなくグループがプロビジョニングの円滑化に使用されます。

機能の管理者およびディレクトリ・マネージャが実行するタスク:

- [46ページのグループの作成](#)
- [47ページのグループの変更](#)
- [49ページのグループの削除](#)
- [56ページのグループのプロビジョニング](#)
- [57ページのグループのプロビジョニング解除](#)
- [61ページのプロビジョニング・レポートの生成](#)

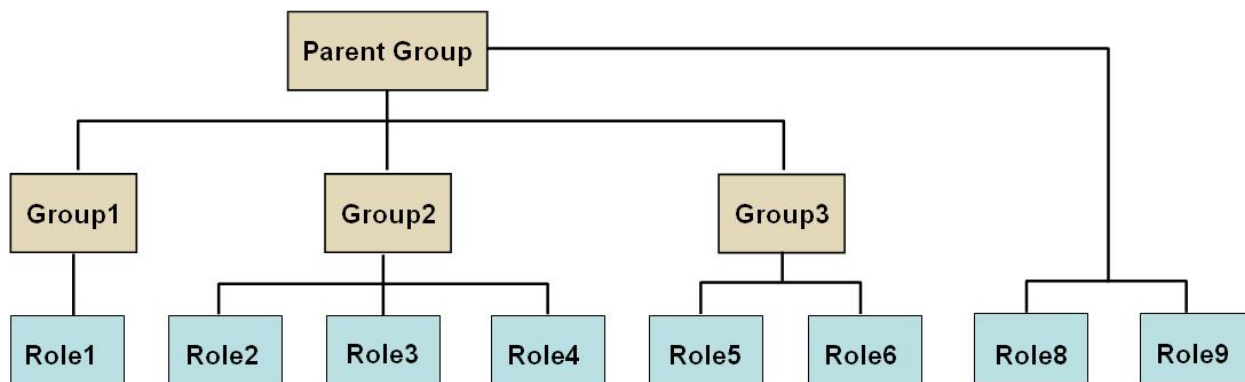


注:

外部ユーザー・ディレクトリのグループは、Shared Services Consoleから管理できません。

ネストされたグループ

ネストされたグループは、他のグループ(親グループ)のメンバーであるグループです。ネストされたグループの使用によってプロビジョニングが容易になります。グループのメンバーは、親グループに割り当てられた役割を継承します。構成されている任意のユーザー・ディレクトリからグループを使用してネイティブ・ディレクトリにネストされたグループを作成できます。非常に複雑なネストされたネイティブ・ディレクトリ・グループの使用はお勧めしません。概念を図で示します:



各コンポーネント・グループ(Group2など)は、コンポーネント・グループに直接割り当てられている役割に加えて、親グループに割り当てられているすべての役割(図ではRole8とRole9)を継承します。たとえば、図のGroup1の役割

割当ては、Role1、Role8、およびRole9です。親グループはメンバー・グループに割り当てられた役割を継承しません。

グループの作成

ネイティブ・ディレクトリのグループには、ネイティブ・ディレクトリを含め、Shared Servicesで構成されたユーザー・ディレクトリからのユーザーとグループを含めることができます。

外部ユーザー・ディレクトリのグループをネイティブ・ディレクトリ・グループに追加すると、Shared Servicesは、データベース内に参照を作成して関係を確立します。

▶ ネイティブ・ディレクトリ・グループを作成するには:

1. 機能の管理者またはディレクトリ・マネージャとしてShared Services Consoleにアクセスします。

11ページのShared Services Consoleの起動を参照してください。

2. ビュー・ペインで、「ネイティブ・ディレクトリ」を展開します。
3. 「グループ」を右クリックし、「新規グループ」を選択します。
4. 「名前」に、役割の名前を入力します(最大256文字)。

グループ名では大文字と小文字は区別されません。

5. オプション: グループの説明を入力します。
6. 次のいずれかのアクションを行います:

- 「終了」をクリックすると、グループまたはユーザーを追加せずにグループが作成され、47ページのステップ 11に進みます。

- 「次へ」をクリックすると、ネストされたグループが作成されるか、グループにユーザーが割り当てられます。

7. ネストされたグループを作成します。この手順をスキップするには、「次へ」をクリックします。

- a. 「使用可能なグループ」の上にあるフィールドを使用して、グループ・メンバーとして追加するグループを検索します。

- i. 「ディレクトリ」で、子グループの追加元のユーザー・ディレクトリを選択します。「すべて」を選択すると、すべての構成済ユーザー・ディレクトリでグループが検索されます。

- ii. ドロップダウン・リストから、「グループ名」を選択すると、グループ名に基づいて検索します。「説明」を選択すると、グループの説明に基づいて検索されます。

- iii. グループを取得するための条件を入力します。* (アスタリスク)をワイルドカードとして使用すると、使用可能なすべてのグループが取得されます。

- iv. 「検索」をクリックします。

検索条件に一致するグループが、「使用可能なグループ」に表示されます。

- b. 「使用可能なグループ」から、新しいグループのメンバー・グループを選択します。

- c.  をクリックします。

選択したグループは、「割り当てられたグループ」リストに表示されます。

- d. オプション: 別のグループを取得して割り当てるには、46ページのステップ 7.aから 46ページのステップ 7.cを繰り返します。

「割り当てられたグループ」の上にあるフィールドを使用すると、割り当てられたグループを検索し、削除するグループを識別できます。割り当てられたグループ内の検索の手順については、[46ページのステップ 7.a](#)から [46ページのステップ 7.c](#)を参照してください。

「割り当てられたグループ」から、割り当てられたグループを削除するには、削除するグループを選択して、



をクリックします。

8. 次のいずれかのアクションを行います:

- 「終了」をクリックすると、ユーザーを追加せずにグループが作成され、[47ページのステップ 11](#)に進みます。
- 「次へ」をクリックすると、グループにユーザーが割り当てられます。

9. ユーザーをグループに割り当てるには:

- a. 「使用可能なユーザー」リストの上にあるフィールドを使用して、グループ・メンバーとして追加するユーザーを検索します。
 - i. 「ディレクトリ」で、ユーザー・メンバーを追加するユーザー・ディレクトリを選択します。「すべて」を選択すると、すべての構成済ユーザー・ディレクトリでユーザーが検索されます。
 - ii. ドロップダウン・リストから、「ユーザー名」を選択すると、ユーザー名に基づいて検索します。「説明」を選択すると、ユーザーの説明に基づいて検索されます。
 - iii. ユーザーを取得するための条件を入力します。* (アスタリスク)をワイルドカードとして使用すると、使用可能なすべてのユーザーが取得されます。
 - iv. 「検索」をクリックします。

検索条件に一致するユーザーが、「使用可能なユーザー」に表示されます。

b. 「使用可能なユーザー」から、グループに追加するユーザーを選択します。



をクリックして、選択したユーザー・アカウントを「割り当てられたユーザー」に移動します。

d. オプション: 別のユーザーを取得して割り当てるには、[47ページのステップ 9.a](#)から [47ページのステップ 9.d](#)を繰り返します。

「割り当てられたユーザー」の上にあるフィールドを使用すると、割り当てられたユーザーを検索し、削除するユーザーを識別できます。

「割り当てられたユーザー」から、割り当てられたユーザーを削除するには、削除するユーザーを選択して、



をクリックします。

10. 「終了」をクリックします。

11. 「追加作成」を選択して別のグループを作成するか、または「終了」します。

グループの変更

WORLDグループ以外のすべてのネイティブ・ディレクトリ・グループのプロパティを変更できます。ネストされたグループからサブグループ除去すると、サブグループの役割継承が更新されます。同様に、グループからユーザーを除去すると、ユーザーの役割継承が更新されます。

▶ グループを変更するには、次の手順に従います。

1. 機能の管理者またはディレクトリ・マネージャとしてShared Services Consoleにアクセスします。




11ページのShared Services Consoleの起動を参照してください。


2. グループを検索します。13ページのユーザー、グループ、役割および委任リストの検索を参照してください。
3. グループを右クリックして、「プロパティ」を選択します。



注:

Shared Servicesが委任された管理モードでデプロイされている場合、グループ・プロパティ画面には、「委任リスト」タブが表示されます。

4. 「全般」タブで名前と説明を編集して、グループの全般的なプロパティを変更します。
5. 「グループ・メンバー」タブを開き、48ページのステップ 5.aまたは 48ページのステップ 5.b、あるいはその両方のアクションを実行してグループの割当てを変更します:
 - a. グループにグループを追加するには:
 - 「ディレクトリ」で、ネストしたグループの追加元のユーザー・ディレクトリを選択します。「すべて」を選択すると、すべての構成済ディレクトリでグループが検索されます。
 - 「グループ名」を選択すると、グループ名に基づいて検索されます。「説明」を選択すると、グループの説明に基づいて検索されます。
 - グループを取得するための条件を入力します。* (アスタリスク)をワイルドカードとして使用すると、使用可能なすべてのグループが取得されます。
 - 「検索」をクリックします。
 - 「使用可能なグループ」からグループを選択し、 をクリックします。
 - 選択したグループが「割り当てられたグループ」に表示されます。選択したグループを除去するには、「割り当てられたグループ」からグループを選択し、 をクリックします。
 - オプション: この手順を繰り返して、他のユーザー・ディレクトリのグループを取得して割り当てます。
 - b. 割り当てられたグループを除去するには:
 - 「割り当てられたグループ」から、除去するグループを選択します。
 - Shared Servicesを使用して、割り当てられたグループを検索すると、除去するグループを識別できません。「割り当てられたグループ」リストの上にあるフィールドを使用して、割り当てられたグループ・リスト内を検索する検索条件を定義します。
 -  をクリックします。
6. 「ユーザー・メンバー」タブを開き、48ページのステップ 6.aまたは 49ページのステップ 6.b、あるいはその両方のアクションを実行してユーザーの割当てを変更します。
 - a. グループにユーザーを追加するには:

- 「ディレクトリ」で、ユーザーの追加元のユーザー・ディレクトリを選択します。「すべて」を選択すると、すべての構成済ディレクトリでユーザーが検索されます。
- 検索するユーザー・プロパティ(「ユーザー名」、「名」、「姓」、「電子メール・アドレス」または「説明」)を選択します。
- ユーザーを取得するための条件を入力します。* (アスタリスク)をワイルドカードとして使用すると、使用可能なすべてのユーザーが取得されます。
- 「検索」をクリックします。
- 「使用可能なユーザー」から、グループに割り当てるユーザーを選択します。
-  をクリックします。

選択したグループは、「割り当てられたユーザー」リストに表示されます。

- オプション: この手順を繰り返して、他のユーザー・ディレクトリのユーザーを取得して割り当てます。
- b. ユーザーをグループから除去するには:

- 「割り当てられたユーザー」から、除去するユーザーを選択します。

Shared Servicesを使用して、割り当てられたユーザーを検索すると、除去するユーザーを識別できます。「割り当てられたユーザー」リストの上にあるフィールドを使用して、検索条件を定義します。

-  をクリックします。

7. 「委任リスト」(委任された管理モードでShared Servicesがデプロイされている場合にのみ有効です)を選択し、グループに割り当てられた、委任された管理者を表示します。
8. 「OK」をクリックします。

グループの削除

グループを削除すると、グループに関連付けられたユーザーおよび役割が除去され、ネイティブ・ディレクトリからグループの情報が除去されます。ただし、削除されたグループに割り当てられたユーザーまたはサブグループは削除されません。

▶ グループを削除するには:

1. 機能の管理者またはディレクトリ・マネージャとしてShared Services Consoleにアクセスします。
[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。
2. 「ビュー・ペイン」から、「グループ」を選択します。
3. 削除するグループを検索します。[13ページのユーザー、グループ、役割および委任リストの検索](#)を参照してください。
4. グループを右クリックして、「削除」を選択します。
5. 「はい」をクリックして削除操作を確認します。
6. 「OK」をクリックします。

役割の管理

役割は、ユーザーがEPM Systemアプリケーションで実行できるタスクを定義します。登録されたすべてのEPM Systemアプリケーションからの役割は表示できますが、Shared Services Consoleから更新または削除できません。機能の管理者およびプロビジョニング・マネージャは次のタスクを実行できます。

- [50ページの集約役割の作成](#)
- [51ページの集約役割の変更](#)
- [52ページの集約役割の削除](#)
- [61ページのプロビジョニング・レポートの生成](#)



注:

新しく作成されたユーザーおよびグループをプロビジョニングできます。ただし、新しいユーザーおよびグループにプロビジョニングされた役割が有効になるのは、Shared Servicesがキャッシュをリフレッシュした後のみです。キャッシュのデフォルトのリフレッシュ間隔は60分です。この値は、「Shared Servicesセキュリティ・キャッシュのリフレッシュ間隔」の値を更新することで変更できます。この値を短い間隔(たとえば、30分)に設定すると、パフォーマンスが低下する可能性があります。

集約役割の作成

管理とプロビジョニングを円滑にするために、機能の管理者およびプロビジョニング・マネージャは、アプリケーション固有の複数の役割をカスタムな1つのShared Services役割に関連付ける集約役割を作成できます。Shared Servicesのプロビジョニング・マネージャ役割を持つユーザーは、プロビジョニング・マネージャを担当するアプリケーションの集約役割を作成できます。機能の管理者は、EPM Systemのすべてのアプリケーションの集約役割を作成できます。

集約役割については、[19ページの集約役割](#)を参照してください。



注:

役割を作成できるのは、少なくとも1つのEPM SystemアプリケーションをShared Servicesに登録した後のみです。


▶ 集約役割を作成するには:

1. 機能の管理者またはプロビジョニング・マネージャとしてShared Services Consoleにアクセスします。


[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。

2. ビュー・ペインで、「ネイティブ・ディレクトリ」を展開します。
3. 「役割」を右クリックし、「新規役割」を選択します。
4. 「名前」に、役割の名前を入力します(最大256文字)。

役割名には、特殊文字を含むことはできません。また、¥ (円記号(バックスラッシュ))で開始または終了できません。

5. オプション:「説明」に、役割の説明を入力します。
6. 「製品名」から、役割を作成するアプリケーションを選択します。
7. 「次へ」をクリックします。
8. 「役割メンバー」タブで、追加する役割を見つけます。
 - 「検索」をクリックして、選択したアプリケーションからすべての役割を取得します。
 - 特定の役割を検索するには、「役割名」に役割名を入力し、「検索」をクリックします。パターン検索では、アスタリスク(*)をワイルドカードとして使用します。
9. 「使用可能な役割」から、割り当てるアプリケーション役割を選択します。
10.  をクリックします。

選択した役割は、「割り当てられた役割」に表示されます。


選択した役割を除去するには、「割り当てられた役割」から役割を選択し、
 をクリックします。
11. 「終了」をクリックします。
12. 「OK」をクリックして「参照」タブに戻るか、「追加作成」をクリックして別のカスタムの役割を作成します。

集約役割の変更

集約役割のみを変更できます。デフォルト・アプリケーション固有の役割は、Shared Servicesから変更できません。製品名以外のすべての役割プロパティを変更できます。

▶ 集約役割を変更するには:

1. 機能の管理者またはプロビジョニング・マネージャとしてShared Services Consoleにアクセスします。

[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。
2. ビュー・ペインで、「ネイティブ・ディレクトリ」を展開します。
3. 「役割」を選択します。
4. 集約役割を取得します。[13ページのユーザー、グループ、役割および委任リストの検索](#)を参照してください。
5. 役割を右クリックして、「プロパティ」を選択します。
6. 「全般」タブで名前と説明を編集して、役割の全般的なプロパティを変更します。
7. 役割メンバーの割当てを変更する場合は、「役割メンバー」で、[51ページのステップ 7.a](#)、[52ページのステップ 7.b](#)、または両方のアクションを実行します。
 - a. 役割メンバーを追加するには:
 - 追加する役割を取得します。
 - 「検索」をクリックして、すべての役割を取得します。
 - 特定の役割を取得するには、「役割名」に役割名を入力し、「検索」をクリックします。パターン検索では、アスタリスク(*)をワイルドカードとして使用します。
 - 「使用可能な役割」から、1つ以上の役割を選択します。
 -  をクリックします。選択した役割が「割り当てられた役割」に表示されます。

「割り当てられた役割」から役割を選択し、



をクリックすると、選択された役割が除去されます。

b. 役割の割当てを除去するには:

• 「割り当てられた役割」から、除去する役割を選択します。



をクリックします。

8. 「OK」をクリックします。

集約役割の削除

Shared Servicesから作成される集約役割を削除できます。アプリケーション固有の役割は削除できません。

▶ 集約役割を削除するには:

1. 機能の管理者またはプロビジョニング・マネージャとしてShared Services Consoleにアクセスします。

[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。

2. ビュー・ペインで、「ネイティブ・ディレクトリ」を展開します。

3. 「役割」を選択します。

4. 集約役割を取得します。

[13ページのユーザー、グループ、役割および委任リストの検索](#)を参照してください。

5. 役割を右クリックし、「削除」を選択します。

6. 「はい」をクリックします。

7. 「OK」をクリックします。

ネイティブ・ディレクトリのバックアップ

ネイティブ・ディレクトリは、Shared Servicesデータベースの一部です。メディア障害、ユーザー・エラー、および予期せぬ状況によるデータの損失からリカバリするために、データベース・バックアップ・ツールを使用して、Shared Servicesデータベースを定期的にバックアップする必要があります。

6

プロビジョニングの管理

この項の内容:

プロビジョニングについて	53
グループのプロビジョニング	56
グループのプロビジョニング解除	57
監査セキュリティ・アクティビティおよびライフサイクル管理アーティファクト	58
監査データの手動での削除	58
アプリケーションおよびアプリケーション・グループレベルの監査オブジェクトの選択	59
削除間隔の変更	59
レポートの生成	60
ネイティブ・ディレクトリ・データのインポートとエクスポート	63

プロビジョニングについて

組織にはそれぞれ一意のプロビジョニングの要件があります。この項では、ユーザーとグループにShared Servicesの役割をプロビジョニングする一般的なフローについて説明します。

ユーザーとグループへのShared Servicesの役割のプロビジョニングは、アプリケーションを管理して、プロビジョニングできる管理レベルのユーザーを作成するために主に設計されています。EPM System製品ユーザーとグループには、Shared Servicesの役割をプロビジョニングする必要はありません。アクセスする必要があるEPM System製品およびアプリケーションからのみの役割が必要となります。

プロビジョニングを開始する前に

プロビジョニングを開始する前に、次のアクティビティを完了しておくようにします。

- EPM System製品をプロビジョニングする方法をプランします:
 - 使用可能な役割を理解します。EPM System製品の役割のリストは、[153ページのFoundation Services 役割](#)を参照してください。
 - 使用可能なアーティファクトレベルのアクセス権限を理解します。多くのEPM System製品は、アーティファクトへのアクセスを制限するために、アクセス制御リスト(ACL)を使用したアーティファクトレベルのプロビジョニングを順守させます。たとえばアカウントは、アクセス権を設定できるPlanningアーティファクトです。
 - プロビジョニングに対してユーザーとグループを識別します。これらのユーザーとグループは、ネイティブ・ディレクトリまたは外部のユーザー・ディレクトリに属することができます。
- プロビジョニング・モードの、集中(デフォルト)、または委任された管理モードのいずれかを決定します。委任された管理者に割り当てられている役割の範囲は、これらの管理者に割り当てられた委任リストに制限されます。たとえば、ユーザーAdmin1がDelegatedList1用のEssbaseプロビジョニング・マネージャの役割を割り当てられた場合、Admin1はDelegatedList1からのユーザーのみをプロビジョニングできます。[29ページの第4章「委任されたユーザー管理」](#)を参照してください。

プロビジョニング・ステップの概要

Shared Servicesのすべてのプロビジョニング・アクティビティは、機能の管理者またはプロビジョニング・マネージャが実行する必要があります。

ユーザーとグループのプロビジョニングは、組織専用調整されたプロビジョニング・プランに従う必要があります。一般に、機能の管理者およびアプリケーション固有のプロビジョニング・マネージャを作成して、EPM Systemユーザーとグループをプロビジョニングします。組織の必要に応じて、たとえば、LCM管理者のようなその他のパワー・ユーザーを、Shared Servicesの役割を割り当てることにより作成することもできます。使用可能な役割およびそのアクセス権の詳細は、[153ページのFoundation Services役割](#)を参照してください。

EPM System製品では、管理者とエンド・ユーザーの2つのタイプのユーザーを持つことができます。一般に、管理者は、ユーザー・ディレクトリの管理、アプリケーションの作成、ユーザーとグループのプロビジョニング、およびアプリケーションおよびアーティファクトの移行など、管理的なアクションを実行することでEPM System製品をサポートします。エンド・ユーザーは、アプリケーションの機能を利用して、たとえば、Planningアプリケーションを使用してプランを作成します。

一般に、管理ユーザーはEPM System製品の機能を実行できません。たとえば、機能の役割の割り当てがない場合、Planningプロビジョニング・マネージャは、Planningアプリケーションを使用してプランを作成または管理できません。

管理ユーザーのプロビジョニング

管理ユーザーとグループのプロビジョニングは、必要なEPM System製品の管理者の役割を割り当てるのに、Shared Services Consoleを使用する必要があります。たとえば、Planningプロビジョニング・マネージャの役割により、受信者は、ユーザーとグループにPlanningの役割をプロビジョニングできます。その他のEPM System製品には類似した管理の役割があります。機能の管理者はShared Services Consoleを使用して、これらの管理の役割をユーザーとグループに割り当てる必要があります。

役割を組み合わせ、追加のアクセス権をユーザーまたはグループに割り当てたり、EPM Systemコンポーネント間の管理アクセスを提供したりできます。プロビジョニング・マネージャとディレクトリ・マネージャの役割を組み合わせることはお薦めしません。

EPM Systemユーザーのプロビジョニング

ユーザーにアプリケーションの役割をプロビジョニングして、EPM System製品にアクセスできるようにする必要があります。機能の管理者およびプロビジョニング・マネージャは、次のステップを実行してユーザーとグループにプロビジョニングします。

1. Shared Services Consoleから、EPM Systemへのアクセスを必要とするユーザー(またはユーザーが所属するグループ)を識別して選択します。[13ページのユーザー、グループ、役割および委任リストの検索](#)を参照してください。
2. EPM Systemコンポーネントへのユーザーのアクセスを許可する役割を割り当てます。たとえば、すべてのOracle Essbaseユーザーには、Essbaseクラスタ(デフォルトではEssbaseCluster-1)のサーバー・アクセスの役割が必要です。[56ページのグループのプロビジョニング](#)を参照してください。

EPM Systemの役割は、[153ページの付録A「EPM System役割」](#)で説明されています。

3. EPM Systemアプリケーションの機能へのアクセスを許可する、アプリケーション固有の役割を割り当てます。たとえば、EssbaseアプリケーションEsb_App1では、Esb_App1の計算スクリプトを操作する必要のあるユーザーに割り当てられる計算の役割が提供されます。

これらの役割は、アプリケーションを基準に割り当てられます。たとえば、EssbaseアプリケーションEsb_App1からの役割では、ユーザーはEsb_App1の機能にのみアクセスできます。

4. 製品管理画面を使用して、EPM Systemアプリケーションによって管理されるアーティファクトへのアクセスを割り当てます。

次の手順を使用して、Shared Services Consoleから一部のアプリケーションの管理画面を起動します。

アーティファクトレベルのアクセス制御では、管理者は、アプリケーション・オブジェクトへのアクセスを詳細に設定できます。これらのアクセス権は、設計上、アプリケーションの役割より詳細なため、役割を使用して許可されたアクセス権の制限に使用できます。

- a. Shared Services Consoleのビュー・ペインで、「[アプリケーション・グループ](#)」を展開します。
- b. アプリケーションを含むアプリケーション・グループ・ノードを展開します。
- c. プロビジョニングするアプリケーションを右クリックします。
- d. 「[アクセス権の割当て](#)」を選択します。Shared Services Consoleの一部ではない、製品管理画面が開きます。
- e. ユーザーをプロビジョニングします。

アーティファクトレベルのアクセス制御は、EPM System製品の管理ガイドで説明されています。

グループのプロビジョニング

プロビジョニングは、EPM Systemの役割をユーザーとグループに許可するプロセスです。プロビジョニングは、EPM Systemアプリケーションの役割をグループに割り当てることにより、プロビジョニング・マネージャまたは機能の管理者によって実行されます。[17ページのプロビジョニング\(役割ベースの認証\)](#)を参照してください。



注:

プロビジョニング・マネージャは、自身のプロビジョニング・データを変更できません。



ヒント:

管理を促進するには、ユーザーではなくグループをプロビジョニングして、集約された役割を使用することをお勧めします。

▶ ユーザーまたはグループをプロビジョニングするには:

1. 機能の管理者またはプロビジョニング・マネージャとしてShared Services Consoleにアクセスします。


[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。

2. プロビジョニングするグループを検索して選択します。

[13ページのユーザー、グループ、役割および委任リストの検索](#)を参照してください。

3. 「管理」、「プロビジョニング」の順に選択します。
4. オプション: ビューを選択します。

役割は、階層(ツリー)またはリストに表示できます。階層をドリルダウンし、使用可能な役割を表示する必要があります。リスト・ビューでは、使用可能な役割が表示されますが、階層は表示されません。

5. 役割を選択し、

をクリックします。
6. 「OK」をクリックします。

グループのプロビジョニング解除

プロビジョニング解除により、グループに割り当てられているアプリケーションの役割が削除されます。機能の管理者1つ以上のアプリケーションから役割をプロビジョニング解除できます。アプリケーションのプロビジョニング・マネージャにより、アプリケーションから役割をプロビジョニング解除できます。たとえば、グループSales_Westは、PlanningおよびOracle Hyperion Financial Managementから役割をプロビジョニングされると仮定します。このグループがPlanningプロビジョニング・マネージャによりプロビジョニング解除される場合、Planningからの役割のみが解除されます。



注:

機能の管理者は自身のアカウントをプロビジョニング解除できます。Shared Servicesには、ネイティブ・ディレクトリに少なくとも1人のシステム管理者(Shared Services管理者の役割でプロビジョニングされたユーザー)が必要であるため、管理者は自身をプロビジョニング解除する前にこのようなアカウントの存在を確認する必要があります。

▶ グループをプロビジョニング解除するには:

1. 機能の管理者またはプロビジョニング・マネージャとしてShared Services Consoleにアクセスします。

[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。

2. プロビジョニング解除するグループを検索します。

[13ページのユーザー、グループ、役割および委任リストの検索](#)を参照してください。

3. グループを右クリックし、「プロビジョニング解除」を選択します。
4. 次のいずれかのアクションを行います:
 - 役割割当てを特定のアプリケーションから除去するには、選択を行います。
 - すべてのプロビジョニングされた役割を除去するには、「すべて確認」を選択します。
5. 「OK」をクリックします。
6. 確認のダイアログ・ボックスで、「はい」をクリックします。
7. 「プロビジョニング解除の要約」画面で、「OK」をクリックします。

監査セキュリティ・アクティビティおよびライフサイクル管理アーティファクト

Shared Servicesを使用すると、プロビジョニングおよびライフサイクル管理アクティビティの監査では、セキュリティ・オブジェクト、およびライフサイクル管理機能を使用してエクスポートまたはインポートされるアーティファクトへの変更を追跡できます。

監査は、グローバル、アプリケーション・グループおよびアプリケーションの3つのレベルで構成できます。

グローバル・レベルでは、Shared Servicesで処理されるセキュリティおよびアーティファクトを監査できます。アプリケーション・グループレベルおよびアプリケーションレベルの監査では、Shared Servicesを介して実行されるアプリケーション・グループまたはアプリケーションに関連するセキュリティ・アクティビティの監査が可能です。Shared Services外で実行されるアプリケーション・グループおよびアプリケーション・セキュリティのアクティビティ、たとえば Essbaseにおける計算スクリプトの割当てなどは監査できません。

デフォルトでは、監査は使用不可になっています。機能の管理者のみが、監査を使用可能であるか、またはグローバル・レベルで監査されるオブジェクトおよびアーティファクトのリストを変更できます。監査構成の変更を有効にするには、すべてのEPM System製品を再起動する必要があります。

▶ 監査構成を変更するには:

1. 機能の管理者としてShared Services Consoleにアクセスします。[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。
2. 「管理」、「監査の構成」の順に選択します。
3. 「監査構成」画面で、次のアクションを行います:
 - a. 「監査の使用可能」を選択して監査をアクティブにします。このオプションが選択されていない場合、Shared Servicesはどのレベルでも監査をサポートしません。デフォルトでは、監査は使用不可になっています。
 - b. グローバル設定のオーバーライド許可を選択し、アプリケーション・グループおよびアプリケーションレベルの監査を使用不可にします。このオプションが選択されている場合、アプリケーション・グループおよびアプリケーション・レベルのタスクの選択は破棄され、グローバル選択が使用されます。
 - c. オプション: システムから古い監査データを除去するには、「次より古いファイルを削除」で、監査データを保持する日数を設定します。「OK」をクリックすると古い監査データに除去のマークが付きます。
 - d. 「タスクの選択」から、監査データが保持されるタスクを選択します。タスクは、Shared Servicesで登録されるアプリケーションに基づいて分類されます。
 - e. 「OK」をクリックします。
4. Shared Servicesを含むEPM System製品を再起動します。

監査データの手動での削除

EPM Systemでは、Oracle Hyperion Shared Servicesレジストリに指定した削除設定に基づき、Shared Servicesデータベースから監査データは自動的に削除されます。この手順を使用して監査データを手動で削除します。



注意

機能の管理者は、会社の監査データ保持規定に基づいてデータを削除する必要があります。データを削除する前に、Shared Servicesデータベースをバックアップしてください。

▶ 監査データを削除するには:

1. 機能の管理者としてShared Services Consoleにアクセスします。11ページの[Shared Services Consoleの起動](#)を参照してください。
2. 「管理」、「監査の構成」の順に選択します。
3. 「次より古いファイルを削除」で、監査データを保持する日数を設定します。
4. 「OK」をクリックします。

アプリケーションおよびアプリケーション・グループレベルの監査オブジェクトの選択

機能の管理者のみが、アプリケーションおよびアプリケーション・グループレベルで監査用のオブジェクトを選択できます。

▶ 監査用のオブジェクトを選択するには:

1. 機能の管理者としてShared Services Consoleにアクセスします。11ページの[Shared Services Consoleの起動](#)を参照してください。
2. ビュー・ペインで、次のうち1つを右クリックし、「監査の構成」を選択します。
 - アプリケーション・グループ内のすべてのアプリケーションに対する監査を使用可能にするアプリケーション・グループ
 - アプリケーションに対する監査を使用可能にするアプリケーション



注:

「グローバル設定の上書きを許可」が「監査構成」画面で選択されている場合、「監査の構成」は、アプリケーション・グループおよびアプリケーション・レベルで使用できません。58ページの[監査セキュリティ・アクティビティおよびライフサイクル管理アーティファクト](#)を参照してください。

3. 「タスクの選択」から、監査データが保持されるタスクを選択します。タスクは、Shared Servicesで登録されるアプリケーションに基づいて分類されます。
4. 「OK」をクリックします。

削除間隔の変更

デフォルトでは、バックグラウンド・スレッドで25日間より古い監査データは削除されます。AUDIT.PURGE.EARLIERTO.DAYS Oracle Hyperion Shared Servicesレジストリ設定を変更して、削除間隔を変更できます。

▶ 削除間隔を変更するには:

1. Foundation Servicesサーバー・ホスト・マシンでコマンド・プロンプトを開始し、EPM_ORACLE_HOMEbinに移動します。たとえば、WindowsサーバーのC:\Oracle\Middleware\user_projects\epmsystem1\binです。
2. 次のコマンドを使用して、現在の削除間隔を表示します。

```
epmsys_registry.bat view SHARED_SERVICES_PRODUCT/  
@AUDIT.PURGE.EARLIERTO.DAYS
```

3. 次のコマンドを使用して、現在の削除間隔を更新します。

```
epmsys_registry.bat update SHARED_SERVICES_PRODUCT/  
@AUDIT.PURGE.EARLIERTO.DAYS  
NEW_PURGE_INTERVAL
```

前のコマンドで、NEW_PURGE_INTERVALを監査データが保存される日数で置き換えます。たとえば、監査データを6か月保持する場合、次のコマンドを使用します。

```
epmsys_registry.bat update SHARED_SERVICES_PRODUCT/  
@AUDIT.PURGE.EARLIERTO.DAYS 180
```

4. [59ページのステップ 2](#)を繰り返して、削除間隔が更新されたことを確認します。

レポートの生成

Shared Servicesでは、プロビジョニング・レポート、監査レポートおよび移行ステータス・レポートの3つのタイプのレポートが生成できます。参照:

- [61ページのプロビジョニング・レポートの生成](#)
- [62ページの監査レポートの生成](#)
- [63ページの移行ステータス・レポートの生成](#)

プロビジョニング・レポートの生成

機能の管理者およびプロビジョニング・マネージャは、Shared Services Consoleのレポート機能を使用して、ユーザーおよび役割のプロビジョニング・データをレビューできます。プロビジョニング・レポートには、選択したアプリケーションからの役割に割り当てられたユーザーの情報、およびユーザーに割り当てられている選択したアプリケーションからの役割の情報を含むことができます。またレポートには、プロビジョニングされた役割をユーザーに許可する責任のあったオリジナルのグループまたは役割で始まる、継承の順序を示す継承情報も含まれます。

プロビジョニング・レポートでは、機能の管理者およびプロビジョニング・マネージャが、EPM Systemアプリケーション全体でユーザーに許可されたアクセス権および権限をレビューできます。このレポートは、コンプライアンス・レポートへのユーザーのアクセスを追跡するのに役に立ちます。

ネイティブ・ディレクトリのWORLDグループがプロビジョニングされている場合、WORLDグループから継承される役割は、このレポートがユーザーまたはグループのために生成されている場合のみプロビジョニング・レポートに含まれます。

▶ プロビジョニング・レポートを生成するには:

1. 機能の管理者またはプロビジョニング・マネージャとしてShared Services Consoleにアクセスします。

[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。

2. 役割を選択します。

[13ページのユーザー、グループ、役割および委任リストの検索](#)を参照してください。

3. 「管理」、「レポートの表示」の順に選択します。
4. レポート生成パラメータを入力します。

表2 レポートの表示画面

ラベル	説明
すべて検索	レポートが生成されるオブジェクト・タイプ(ユーザー、グループまたは役割)を選択します。
ユーザーまたは役割	このラベルは「すべて検索」で選択される内容に応じて変わります。
フィルタ条件	レポート・データをフィルタするために使用する基準。
有効な役割の表示	「はい」を選択すると、すべての有効な役割(継承済および直接割り当てられた)に関してレポートします。継承済役割(直接割り当てられた役割とは対照的)は、ユーザーまたはグループが属するグループに割り当てられます。「いいえ」を選択すると、直接割り当てられた役割に関してのみレポートします。

ラベル	説明
グループ	レポートのデータをグループ化する方法を選択します。使用可能なグループ化の基準は「すべて検索」の選択内容によって異なります。
1ページ当たりの結果数	1ページに表示するレポート結果の数。デフォルトは500です。
アプリケーション	プロビジョニング・データのレポート元のアプリケーションを選択するか、または「すべて選択」を選択してすべてのアプリケーションに関してレポートします。 注： アプリケーション・グループに属するアプリケーションに関してのみレポートできます。

5. 「レポート作成」を選択します。
6. オプション: レポートを印刷するには:
 - a. 「印刷プレビュー」をクリックします。
 - b. 「印刷」をクリックします。
 - c. プリンタを選択して、「印刷」をクリックします。
 - d. 「閉じる」をクリックします。
7. オプション: 「CSVにエクスポート」をクリックして、レポートをカンマ区切りの値(CSV)ファイルにエクスポートします。
8. 「OK」をクリックします。

監査レポートの生成

セキュリティ・レポート、アーティファクト・レポート、および構成レポートの3つの監査レポートを生成できます。セキュリティ・レポートには、監査を構成するセキュリティ・タスクに関係する監査情報が表示されます。アーティファクト・レポートには、ライフサイクル管理を使用してインポートまたはエクスポートされたアーティファクトの情報が表示されません。

機能の管理者は、監査レポートを生成および表示し、セキュリティ・データの変更履歴を追跡できます。



注:

監査は、監査レポートを生成する前に構成される必要があります。[58ページの監査セキュリティ・アクティビティおよびライフサイクル管理アーティファクト](#)を参照してください。

- ▶ 監査レポートを生成するには:
1. 機能の管理者としてShared Services Consoleにアクセスします。
 2. 「管理」、「監査レポート」の順に選択します。
 3. 次のいずれかのオプションを選択します:
 - セキュリティ・レポート。セキュリティ監査レポートを生成します。
 - アーティファクト・レポート。ライフサイクル管理を使用して移行されたアーティファクトに関するレポートを生成します。
 - 構成レポート。実行された構成タスクに関するセキュリティ監査レポートを生成します。



注:

これらのレポートは自動的に生成され、過去30日間のユーザーのデータを表示します。

4. レポートを再生成するには、パラメータを選択します:
 - a. 「**実行者**」で、レポートが生成されるユーザーを選択します。
 - b. 「**実行された期間**」で、レポートを生成する期間を選択します。その期間は、日数、または日付範囲として設定できます。
 - c. オプション: 「**詳細ビュー**」を選択して、変更された属性、および新規の属性値に基づいてレポート・データをグループ化します。
 - d. オプション: 「**ページ当たり**」では、レポート・ページで表示するデータの行数を選択します。
 - e. 「**レポートの表示**」をクリックします。
5. レポート・データを含むCSVファイルを作成するには、「**エクスポート**」をクリックします。
 - a. 「**CSVとして保存**」を選択します。
 - b. 「**OK**」をクリックします。
 - c. 「**開く**」をクリックしてファイルを開くか、または「**保存**」をクリックしてファイル・システムにファイルを保存します。デフォルトの名前は、セキュリティ・レポート・ファイルはauditsecurityreport.csv、アーティファクト・レポートはAuditArtifactReport.csv、および構成レポートはAuditConfigReport.csvになっています。
6. 「**閉じる**」をクリックします。

移行ステータス・レポートの生成

移行ステータス・レポートには、ライフサイクル管理機能を使用して実行されたアーティファクトの移行に関する情報が含まれています。各移行について、このレポートには、移行を実行したユーザー、ソース、宛先、開始時間、完了時間、継続時間、ステータスなどの情報が示されます。

失敗した移行の場合、ソースおよび宛先のアプリケーション、アーティファクト・パス、アーティファクト名、および移行の失敗の原因となるエラーなどの情報を表示できます。

▶ 移行ステータス・レポートを生成するには:

1. 機能の管理者としてShared Services Consoleにアクセスします。
2. 「**管理**」、「**移行ステータス・レポート**」の順に選択します。

このレポートは、自動的に生成され、過去30日間に実行された移行をすべて表示します。

3. レポートを再生成するには、「**リフレッシュ**」をクリックします。
4. レポートを閉じるには、「**取消し**」をクリックします。

ネイティブ・ディレクトリ・データのインポートとエクスポート

ライフサイクル管理を使用して、次のタスクを実行します。

- 環境全体でのプロビジョニング・データの移動
- ユーザーとグループのバルク・プロビジョニング

- ネイティブ・ディレクトリのユーザーとグループの管理

Oracle Enterprise Performance Management Systemライフサイクル管理ガイドを参照してください。

7

タスクフローの管理

この項の内容:

タスクフローについて	65
タスクフロー・コンポーネント	65
タスクフローを使用するための前提条件	67
タスクフローの作成および管理	67
タスクフロー情報の表示	70
タスクフローのスケジュール	70
タスクフローの手動実行	71
タスクフロー・ステータスの表示および実行の詳細	71
タスクフロー・スクリプトの場所	71

タスクフローについて

タスクフローは、すべてまたは一部のビジネス・プロセスを自動化します。タスクは、一連のプロシージャ・ルールに基づいて、特定のタスクフロー参加者から別の参加者に渡されます。タスクフローは、Financial Management、Profitability and Cost Management、Performance Management ArchitectなどのEPM Systemコンポーネントの製品タスクを自動化します。

自動と手動の2つのタイプのタスクフロー・アクションがサポートされています。自動タスクフロー・アクションはワークフロー・エンジンによって開始され、ユーザーが操作しなくとも、EPM Systemコンポーネントによって実行されます。手動タスクフロー・アクションはワークフロー・エンジンによって開始されますが、ユーザーが手動で実行します。

タスクフロー・コンポーネント

一般的にタスクフローは、複数の変数、ステージおよびリンクを使用するよう設計されています。

ステージ

ステージは、通常1人の個人が実行するタスクフロー内の手順を説明します。各ステージには、タスクフローに1つのアプリケーション・アクションまたはイベントがあります。アクションには、実行時に値が提供されるパラメータを設定できます。

タスクフローを使用する各EPM Systemコンポーネントには、使用可能なデフォルトのアクションが多数あります。これらのアクションは、タスクフローに対応しているEPM Systemコンポーネントによって、定義および管理されます。Shared Servicesのデフォルトのアクションは、66ページの表3に記載されています。その他のEPM Systemコンポーネントで使用可能なアクションの配置については、次の情報ソースを参照してください：

- Performance Management Architectのアクションの詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理者ガイド』
- Financial Managementのアクションの詳細は、『Oracle Hyperion Financial Managementユーザーガイド』

表3 デフォルトのステージ・アクションおよびパラメータ: Shared Services

アクション	パラメータ
電子メール 1	<p>このアクションにより、電子メール・メッセージが自動的に送信されます。次の電子メール・アクションのパラメータを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 宛先: 受信者の電子メール・アドレスを入力します• 件名: 電子メールの件名を入力します• メッセージ: 変数を選択して(変数リストから変数をダブルクリック)、成功か失敗かを表示します。• 変数: 電子メール・アクションに使用可能な変数をリストします。
実行	<p>このアクションにより、コマンド・ラインから外部プログラムが実行されます。次の実行アクションのパラメータを入力します。</p> <p>コマンド: 外部プログラムを実行するコマンドを入力します。</p> <p>外部プログラムは、有効なコマンド・ライン・スクリプト (Windowsの .bat スクリプトまたはUNIXの .sh スクリプトなど)、および任意の有効なプログラム実行コマンドです。スクリプト・ファイルでパスを動的に解決しないようにしてください; パスを解決するためにファイルで変数を使用すると機能しなくなります。</p>

アクション	パラメータ
	たとえば、Internet Explorerを起動するには、IEXPLORE.EXEを入力します。71ページのタスクフロー・スクリプトの場所を参照してください。

¹このアクションを正常に実行するには、Foundation ServicesでSMTPメール構成が使用可能になっている必要があります。

リンク

リンクはタスクフローのステージを接続します。リンクは、1つのステージの完了により次のステージが開始される場合は無条件に、ステージの操作結果によってタスクフローの続行方法が決定される場合は条件付きにすることができます。

リンクは、タスクフローで次に実行するアクションを指定します。すべてのステージでリンクが必要です。通常、ほとんどのステージに次の2つのリンクがあります: 成功および失敗。成功リンクには、現在のステージの結果に基づいて、次の処理ステージ(受信ステージ)を指定します。失敗リンクには、ステージのタスクフロー・アクションが失敗した場合に実行するアクションを指定します。

たとえば、Performance Management Architectのタスクフロー・ステージのData_Synchronizationアクションが成功した場合には、Performance Management ArchitectがRedeploying_Consolidationのステージに進むように成功リンクを設定できます。また、Data_Synchronizationアクションが失敗した場合には、Performance Management Architectが処理を停止し、タスクフローを終了するように失敗リンクを設定できます。

各タスクフローの最後のステージには、タスクフローを完了する目標として、Endの最終リンクが必要です。

変数

タスクフローは、実行時のライフサイクル全体をととして参照可能なグローバル・コンテキストとして変数を使用します。タスクフロー内で作成された変数は、タスクフロー内のあるステージから別のステージに値を渡すために使用できます。

タスクフローを使用するための前提条件

EPM Systemには、次のようなグローバル・タスクフローの役割があります。次の役割を割り当てられたユーザーは、EPM Systemの任意のコンポーネントからタスクフローを使用できます。

- ・ **タスクフローの管理:** この役割では、EPM Systemのコンポーネント全体で、ACLの作成、編集、スケジュール、割当て、およびタスクフローの実行が可能です。
- ・ **タスクフローの実行:** この役割では、EPM Systemのコンポーネント全体で、タスクフローを実行およびスケジュールできます。この役割のみを割り当てられたユーザーは、タスクフローを作成または編集できません。

タスクフローの作成および管理

タスクフローを使用するには、EPM Workspaceの「タスクフローの管理」画面、または製品固有の画面を使用します。EPM Systemコンポーネントからタスクフロー画面にアクセスするには、タスクフローの役割([67ページのタスクフローを使用するための前提条件](#))を参照)の他に、これらのEPM Systemコンポーネントへのアクセス権を付与するアプリケーション役割も必要です。

「タスクフローの管理」画面へのアクセス

タスクフローを使用するには、通常、EPM Workspaceの「タスクフローの管理」画面を使用します。この画面には、タスクフローの管理の役割を持つすべてのEPM Systemユーザーがアクセスできます。

▶ 「タスクフローの管理」画面にアクセスするには:

1. EPM Workspaceにログインします。
2. 「ナビゲート」、「アプリケーション・ライブラリ」の順に選択します。
3. 「管理」、「タスクフローの管理」の順に選択します。

タスクフローの作成

▶ タスクフローを作成するには:

1. 「タスクフローの管理」画面を開きます。 [68ページの「タスクフローの管理」画面へのアクセス](#)を参照してください。
2. 「タスクフローの管理」で、「新規」をクリックします。
3. 「名前」に、一意のタスクフロー名を入力します。
4. 「アプリケーション」に、このタスクフローが属するアプリケーションの名前を入力します。

アプリケーション名は、「タスクフローの管理」画面でアプリケーションを分類する際に使用されます。

5. 「説明」に、タスクフローの説明を入力します。
6. 「送信」をクリックします。

ステージおよびリンクの追加が可能なタスクフロー・エディタが表示されます。

7. タスクフローにステージを追加するには:

a. 「全般」に、次の情報を入力します:

- 「名前」: ステージ名を入力します。
- ユーザー名: タスクフロー・ステージの開始にアカウントを使用するEPM Systemユーザーを入力します。
- パスワード: 「ユーザー名」フィールドに指定したユーザーのパスワードを入力します。

b. 「処理」に、次の情報を入力します:

- i. 「アプリケーション」で、タスクの実行元のアプリケーションを選択します。
- ii. 「アクション」で、実行するアクションを選択し、必要な情報を入力します。

「アクション」リストで選択可能なアクションは、選択したアプリケーションを反映しています。各EPM Systemコンポーネントのアクション・リストは、次のトピックを参照してください:

- 使用可能なShared Servicesのアクション・リストは、 [66ページの表 3](#)を参照してください。

- Performance Management Architectのアクションのリストは、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理者ガイド』を参照してください。
 - Financial Managementのアクションのリストは、『Oracle Hyperion Financial Managementユーザーガイド』を参照してください。
- c. 「開始イベント」に、次の情報を入力してイベントをスケジュールします:
- i. 「開始イベント」で、「スケジュール済イベント」を選択します。
 - ii. 「開始日」に、タスクを実行する日にちを入力します。
 - iii. 「開始時間」で、タスクを開始する時刻を選択します。
 - iv. このタスクを繰り返す場合は、「繰り返し」を選択し、「繰り返しの設定」でタスクの頻度を選択します。
 - v. タスクの終了日時を入力するオプションを選択します:
 - 「終了日なし」
 - 終了条件を選択して、終了条件数を入力します。
 - 終了日: 終了日を入力し「終了時刻」を選択します。
 - d. オプション: タスクフローにステージを追加できます。
8. タスクフロー・ステージにリンクを追加するには:
- a. リンクを追加するステージを選択し、「リンクの追加」をクリックします。
 - b. 「全般」に、一意のリンク名とオプションの説明を入力します。
 - c. 「受信ステージ」で、タスクフローの次のステージを選択します。
 - d. オプション: 必要に応じて、リンク条件を設定します。
9. 「保存」をクリックします。

タスクフローの編集

▶ タスクフローを編集するには:

1. 「タスクフローの管理」画面を開きます。68ページの「タスクフローの管理」画面へのアクセスを参照してください。
2. 「タスクフローのリスト(要約)」から、タスクフローを選択し、「編集」をクリックします。

タスク・フローの最初のステージがデフォルトで選択されます。

3. 「パスワード」に、タスクフロー・ステージの初期化にアカウントを使用したEPM Systemユーザーのパスワードを入力します。
4. 現在のステージを編集するか(必要な場合)、ステージ名をクリックして他のステージを選択します。
 - a. 「全般」で、次の手順を実行します。
 - i. オプション: ステージ名と、タスクフローの初期化にアカウントを使用したEPM Systemユーザーを変更します。
 - ii. 「パスワード」に、現在のタスクフロー・ステージの初期化にアカウントを使用したEPM Systemユーザーのパスワードを入力します。
 - b. 「処理」で、次のステージ処理情報を変更します。このタブの任意のフィールドの値を変更できます。
 - 使用可能なShared Servicesのアクション・リストは、66ページの表 3を参照してください。
 - Performance Management Architectのアクションのリストは、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理者ガイド』を参照してください。

- Financial Managementのアクションのリストは、『Oracle Hyperion Financial Managementユーザーガイド』を参照してください。
- c. 「開始イベント」で、ステージ開始のスケジュールを変更します。
- d. オプション: 必要に応じて、リンクを変更します。



注:

リンクを編集するには、少なくとも、現在のタスクフロー・ステージの初期化にアカウントを使用したEPM Systemユーザーのパスワードを入力する必要があります。

- i. 編集するリンクの名前をクリックします。
 - ii. 「全般」で、名前、説明、受信ステージなど、リンクの詳細を編集します。リンクの送信ステージは変更できません。
 - iii. オプション: 必要に応じて、リンク条件を変更します。
5. 「保存」をクリックします。

タスクフロー情報の表示

「タスクフローの管理」の「タスクフローのリスト(要約)」には、定義済のすべてのタスクフローがリストされます。

- ▶ タスクフロー情報を表示するには:
- 1. 「タスクフローの管理」画面を開きます。68ページの「タスクフローの管理」画面へのアクセスを参照してください。
- 2. 表示するタスクフローを選択します。
- 3. 「編集」をクリックします。

タスクフローのスケジュール

タスクフローの実行は、「タスクフローの管理」画面からスケジュールできます。

- ▶ 既存のタスクフローをスケジュールするには:
- 1. 「タスクフローの管理」画面を開きます。68ページの「タスクフローの管理」画面へのアクセスを参照してください。
- 2. スケジュールするタスクフローを選択します。
- 3. 「タスクフローのスケジュール」をクリックします。
- 4. 「開始イベント」で、「スケジュール済イベント」を選択します。
- 5. 「開始日」に、タスクフローを実行する日にちを選択します。
- 6. 「開始時間」で、ドロップダウン・リストを使用して、タスクフローの実行を開始する時刻を選択します。
- 7. オプション: ジョブを繰り返し実行するようにスケジュールするには:
 - a. 「繰り返し」を選択します。
 - b. 「繰り返しの設定」で、「月」や「週」などの繰り返しの設定を選択します。
 - c. 選択した繰り返し設定の頻度をスケジュールします。
- 8. オプション: タスクフローを、手動で取り消されるか削除されるまで実行するようにスケジュールするには、「終了日なし」を選択します。

9. オプション: タスクフローを指定した回数実行するようにスケジュールするには、**x回後に終了**を選択します。テキスト・ボックスにジョブを実行する回数を入力します。
10. オプション: 指定した日付までタスクフローを実行するには、「**終了日**」を選択し、最後に実行する日時を選択します。
11. 「**保存**」をクリックします。

タスクフローの手動実行

▶ タスクフローを実行するには:

1. 「タスクフローの管理」画面を開きます。68ページの「[タスクフローの管理](#)」画面へのアクセスを参照してください。
2. 実行するタスクフローを選択します。
3. 「**今すぐ実行**」をクリックします。

タスクフロー・ステータスの表示および実行の詳細

タスクフロー・ステータスをモニターするには、「タスクフロー・ステータス(要約)」画面を使用します。

▶ タスクフローのステータスを表示するには:

1. EPM Workspaceにログインします。
2. 「ナビゲート」、「アプリケーション・ライブラリ」の順に選択します。
3. 「管理」、「タスクフロー・ステータスの表示」の順に選択します。
4. 「タスクフローの管理」で、モニターするタスクフローを検出する検索条件を選択します。
 - 特定の**実行ステータス**のタスクフローを検索するには、「**ステータス**」でタスクフロー・ステータスを選択します。すべてのステータスのタスクフローを検索するには、「**すべて**」を選択します。
 - 特定の**アプリケーション**に属するタスクフローを検索するには、「**アプリケーション**」に、タスクフローが属するアプリケーションを選択します。
 - 特定の**タスクフロー**を検索するには、「**タスクフロー**」にタスクフロー名を選択します。
5. 検索を特定の期間に限定するには、「**開始期間**」に開始値と終了値を設定します。
6. 「**検索**」をクリックします。
7. オプション: 「**リフレッシュ**」をクリックし、ステータス情報を更新します。
8. オプション: 実行中のタスクフローを終了するには、タスクフローを選択し、「**停止**」をクリックします。

選択したステップの結果がアプリケーションから戻されると、タスクフローは停止します。前のステップの結果は破棄されません; ただし、タスクフローを再実行すると、最初のステップから開始されます。

9. タスクフロー実行の詳細を表示するには、タスクフローIDをクリックします。

タスクフロー参加者(要約)が表示され、タスクの詳細およびステータスが示されます。

10. 「**取消し**」をクリックし、「タスクフロー・ステータス(要約)」に戻ります。

タスクフロー・スクリプトの場所

タスクフローのステージ中に実行されるすべてのスクリプトは、専用のディレクトリに格納する必要があります。このようなスクリプトを含むディレクトリのデフォルトの場所は、EPM_ORACLE_HOME/common/utilitiesです。

デフォルトのディレクトリ以外のディレクトリにタスクフロー・スクリプトを格納する場合は、コマンド・プロンプトで次のいずれかのコマンドを実行して、Shared Servicesレジストリのプロパティを更新する必要があります。このコマンドで、SCRIPT_LOCATIONを、タスクフロー・スクリプトを格納するディレクトリの絶対パスに置き換えます:

- epmsys_registry.bat updateproperty SHARED_SERVICES_PRODUCT/
@workflowEngine.ces.location SCRIPT_LOCATION (Windows)
- epmsys_registry.sh updateproperty SHARED_SERVICES_PRODUCT/
@workflowEngine.ces.location SCRIPT_LOCATION (UNIX/LINUX)

たとえば、Windowsにデプロイメントしている場合は、次のコマンドを実行できます:

```
epmsys_registry.bat updateproperty  
SHARED_SERVICES_PRODUCT/@workflowEngine.ces.location C:\taskflowscripts
```

SCRIPT_LOCATIONディレクトリを不正なアクセスから保護する必要があります。さらに、セキュリティを強化するために、保護されたユーザー・アカウントを使用してサービスやプロセスを実行します。

Oracle Hyperion Shared Servicesレジストリを更新した後、EPM Systemを再起動します。

8

Essbaseのプロビジョニング

この項の内容:

Essbaseセキュリティ・モデル	73
前提条件	73
EPM System製品へのアクセス	75
プロビジョニング・プロセス	75

Essbaseセキュリティ・モデル

Oracle Essbaseでは、Essbaseサーバーの役割とEssbaseアプリケーションの役割の2つのレベルの役割が使用されます。これらの役割は、Oracle Hyperion Shared Services Consoleを使用して付与および管理します。

役割に加えて、Essbaseは、ディメンション・メンバー、フィルタおよび計算スクリプトなどのアーティファクトに対するアクセス制御機能(読取り、書込みなど)を備えています。また、フィルタもアクセスの制限に使用されるセキュリティ・コンストラクトです。

Essbaseアプリケーションの役割に関するプロビジョニング情報は、Oracle Hyperion Shared Servicesリポジトリに保管されます。Essbaseアーティファクトに関するアクセス制御情報は、Essbaseのセキュリティ・ファイルである`essbase.sec`に保管されます。このファイルは、Essbaseと同じサーバー上に保管されます。

前提条件

サブトピック

- [Foundation Services](#)
- [Webサーバー](#)
- [Essbaseサーバー](#)
- [Administration Services](#)
- [Performance Management Architect \(オプション\)](#)
- [Essbase Studioサーバー\(オプション\)](#)

Foundation Services

Oracle Hyperion Foundation Servicesが実行されている必要があります。Foundation Servicesを開始すると、次のコンポーネントが開始されます:

- Shared Services
- Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace

Webサーバー

Oracle Enterprise Performance Management System Webサーバーが実行されている必要があります。

Essbaseサーバー

Essbaseサーバーが実行されている必要があります。『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

Administration Services

Oracle Essbase Administration Servicesが実行されていること。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System Configuratorを使用してShared ServicesモードでEssbaseをデプロイすると、Administration ServicesのadminユーザーはShared Servicesに自動的に外部化されます。

スタンドアロンのEssbaseインスタンスをShared Servicesモードに変換する場合、Administration Servicesのadminユーザーを外部化する必要があります。手順は、Administration Servicesオンラインヘルプを参照してください。

DemoやSampleなどのEssbaseのサンプル・アプリケーションは、インストールされている場合、サーバーに追加されます。これらのアプリケーションを使用して、アプリケーションを作成しなくてもプロビジョニング・プロセスをよく理解することができます。

Performance Management Architect (オプション)

Oracle Hyperion EPM Architectは、アプリケーション・ライブラリを使用してEssbaseアプリケーションを作成する場合に必要です。アプリケーション・ライブラリおよびディメンション・ライブラリなどのPerformance Management Architectコンポーネントへは、EPM Workspaceを介してアクセスします。

- Performance Management Architectサーバーが稼働しています。
- Performance Management Architectが稼働しています。

『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

- Performance Management Architect Webサーバーが稼働しています。

Essbase Studioサーバー(オプション)

Oracle Essbase StudioサーバーはEssbaseアプリケーションをPerformance Management Architectからデプロイするのに必要です。

EPM System製品へのアクセス

プロビジョニングの実行中に、Shared ServicesやEPM Workspace、Administration ServicesなどのEPM Systemコンポーネントにアクセスする必要があります。次のトピックを参照してください:

- [11ページのShared Services Consoleの起動](#)
- [183ページのEPM Workspaceへのアクセス](#)
- [184ページのAdministration Servicesコンソールへのアクセス](#)

プロビジョニング・プロセス

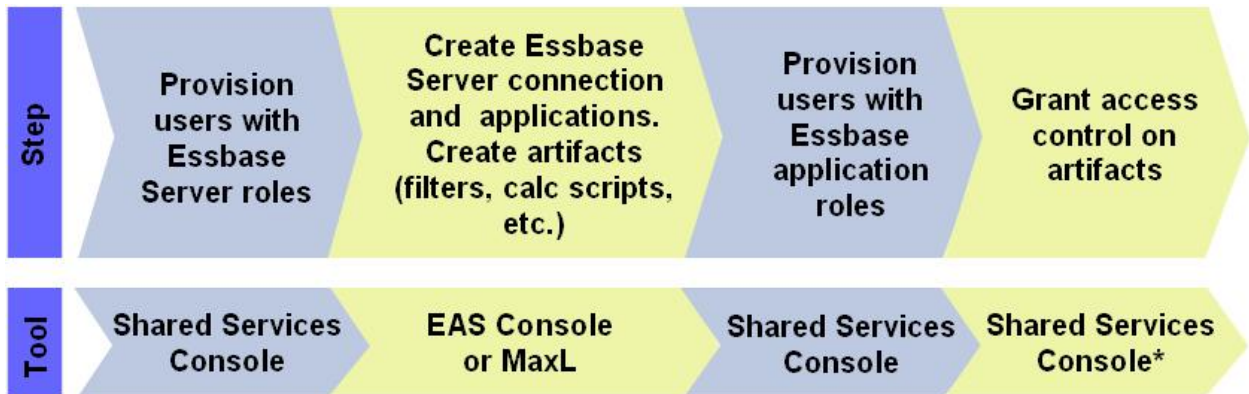
Essbaseアプリケーションの作成に使用できるインタフェースは3つあります: Administration Servicesコンソール、Essbase Studio、EPM Workspaceからアクセスするアプリケーション・ライブラリです。

Administration ServicesコンソールおよびOracle Essbase Studioを介して作成されるEssbaseアプリケーションは、クラシックEssbaseアプリケーションと呼ばれます。クラシック・アプリケーションは、ディメンションおよびメンバーを他のアプリケーションと共有しないスタンド・アロン・アプリケーションです。Performance Management Architectのアプリケーション・ライブラリを使用して作成されるEssbaseアプリケーションはPerformance Management Architect Essbaseと呼ばれます。これらのアプリケーションでは、ディメンションやメンバーが相互に共有されます。

Essbaseアプリケーションの動作は、どのインタフェースが作成に使用されたかにかかわらず同じです。

クラシックEssbaseアプリケーション

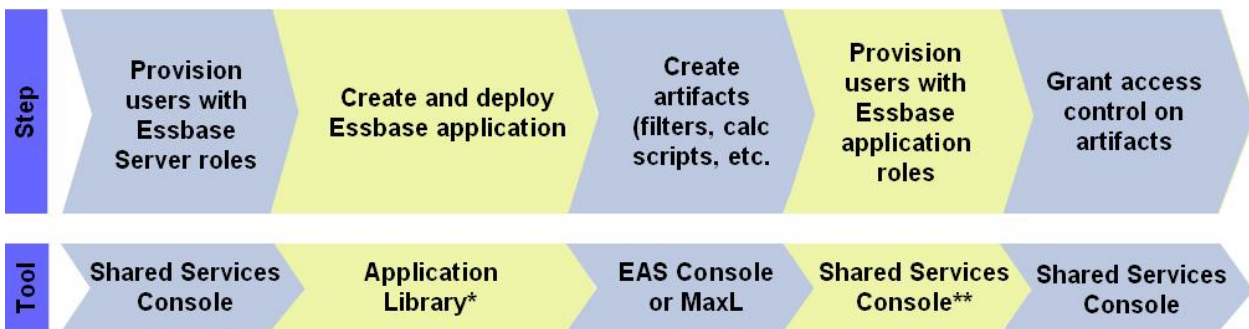
クラシックEssbaseアプリケーションのプロビジョニング手順を次の図に示します。



* Accesses Essbase Application

Performance Management Architect Essbaseアプリケーション

Performance Management Architect Essbaseアプリケーションのプロビジョニングの手順を次の図に示します。



* Accessed through EPM Workspace

** Accesses Essbase Application

ユーザーおよびグループへのEssbaseサーバーの役割のプロビジョニング

すべてのEPM SystemユーザーはAdministration Servicesコンソールにログインできます。Administration Servicesコンソール、さらにはEssbaseサーバーで、ユーザーが実行できるアクティビティは、Essbaseサーバーの役割の割当てで定義されます。

EssbaseがShared Servicesモードでデプロイされている場合、最初は機能の管理者アカウントを使用して、Essbaseサーバーおよびアプリケーションを管理します。

▶ ユーザーにEssbaseサーバーの役割をプロビジョニングするには:

1. Shared Services Consoleに機能の管理者としてログインします。11ページの[Shared Services Consoleの起動](#)を参照してください。
2. 構成済ユーザー・ディレクトリから、プロビジョニングするユーザーまたはグループを検索します。13ページの[ユーザー、グループ、役割および委任リストの検索](#)を参照してください。
3. ユーザーまたはグループにEssbaseサーバーの役割をプロビジョニングします。
 - a. ユーザーまたはグループを右クリックし、「プロビジョニング」を選択します。
 - b. オプション: ビューを選択します。

役割は、階層(ツリー)またはリストに表示できます。階層をドリルダウンし、使用可能な役割を表示する必要があります。リスト・ビューでは、使用可能な役割が表示されますが、階層は表示されません。


- c. 「使用可能な役割」で、Essbaseノード(例: EssbaseCluster-1)を展開します。
- d. Essbaseノードで、Essbaseサーバーを表すノード(例: EssbaseCluster-1)を展開します。
- e. Essbaseサーバーの役割を選択し、をクリックします。77ページの表4に、Essbaseサーバーの役割が説明されています。

表4 Essbaseサーバーの役割

役割	説明
管理者	Essbaseサーバー、アプリケーション、およびデータベースへの完全な管理アクセス権を持ちます 注: プロビジョニング・マネージャ役割は、Essbaseの管理者を移行するときに自動的に割り当てられます。ただし、Essbase管理者をShared Services Consoleで作成するときは、プロビジョニング・マネージャ役割を手動で割り当てする必要があります。
アプリケーションの作成/削除	アプリケーションとデータベースを作成および削除します。このユーザーが作成したアプリケーションとデータベースに対するアプリケーション・マネージャとデータベース・マネージャの権限も含まれます。
サーバー・アクセス	このEssbaseサーバーに属するアプリケーションまたはデータベースにアクセスします。このレベルは、ユーザーがアプリ

役割	説明
	セッションおよびデータベースにアクセスするために必要な最低限のアクセス権限です。
プロビジョニング・マネージャ	ユーザーにこのEssbaseサーバーの役割をプロビジョニングします

- f. 「OK」をクリックします。
- g. 「OK」をクリックし、確認画面を閉じます。

Essbaseサーバー接続の作成

Administration Servicesコンソールからタスクを実行するには、Essbaseサーバー・インストールに接続する必要があります。最初に、サーバー接続を作成できるユーザーは機能の管理者のみです。

Administration ServicesコンソールからEssbaseサーバー接続を作成すると、Essbaseサーバー接続を表すノードがエンタープライズ・ビューに表示されます。「アプリケーション」および「セキュリティ」などのノードが、Essbaseサーバー接続を表すノード内に表示されます。

7つのEssbaseサンプル・アプリケーション(AS0samp、Demo、DMDemo、Sampeast、Sample、Sample_U、Samppart)をインストールできます。インストールされている場合、これらのアプリケーションは、Shared Servicesに登録され、「アプリケーション」ノードの下に一覧表示されます。

サンプルEssbaseアプリケーションは、機能の管理者が所有しています。これらのサンプル・アプリケーションは、Essbaseアプリケーションのプロビジョニングに使用できます。

- ▶ Essbaseサーバー接続を作成するには:
 1. Administration Servicesコンソールに機能の管理者としてログインします。184ページのAdministration Servicesコンソールへのアクセスを参照してください。
 2. 「Essbaseサーバー」を右クリックし、「Essbaseサーバーの追加」を選択します。
 3. 必要な情報を入力します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。

クラシックEssbaseアプリケーションの作成

各Essbaseサーバーは、それぞれ独自のデータベースを持つ、複数のアプリケーションをサポートできます。作成するEssbaseアプリケーションは自動的にShared Servicesに登録されます。Essbaseサーバーのユーザーは、各アプリケーションおよびそのアーティファクトに別々にプロビジョニングする必要があります。詳細は、『Oracle Essbase Administration Servicesオンライン・ヘルプ』または『Oracle Essbaseテクニカル・リファレンス』を参照してください。

- ▶ Essbaseアプリケーションおよびアーティファクトを作成するには:
 1. Administration Servicesコンソールに機能の管理者としてログインします。



注:

Essbaseサーバー管理者またはアプリケーションの作成/削除の役割がプロビジョニングされているユーザーも、Essbaseアプリケーションを作成できます。これらのユーザーは、管理サービス・コンソールからEssbaseアプリケーションを作成する場合、Shared Servicesの役割(Essbaseアプリケーション作成者など)を必要としません。

2. Essbaseアプリケーションを作成します。



注:

EPM Systemにより、プロビジョニング・マネージャおよびアプリケーション・マネージャの役割が、Essbaseアプリケーションを作成したユーザーに自動的に割り当てられます。

- a. **Essbase**サーバーの下の「アプリケーション」を右クリックします。
- b. 「アプリケーションの作成」を選択し、次に「集約ストレージを使用」または「ブロック・ストレージを使用」のいずれかを選択します。
- c. 必要な情報を入力します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
3. アプリケーション用のデータベースを追加します。
 - a. アプリケーションを右クリックし、「データベースの作成」を選択します。
 - b. 必要な情報を入力します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
4. アウトラインにディメンションおよびメンバーを追加します。
 - a. 作成したアプリケーション・データベースを表すノードを展開します。
 - b. 「アウトライン」を右クリックし、「編集」を選択します。
 - c. 「アウトライン」タブで「アウトライン」を右クリックし、「子の追加」を選択します。
 - d. メンバー名を入力します。説明が必要な場合は、「ヘルプ」をクリックしてください。
 - e. 「確認」をクリックし、アウトラインを検証します。
 - f. [79ページのステップ 4.c](#)から [79ページのステップ 4.e](#)を繰り返して、メンバーを追加します。
 - g. 「保存」をクリックします。
 - h. 「閉じる」をクリックします。

Performance Management Architect Essbaseアプリケーションの作成



注:

Administration Servicesコンソールを使用してEssbaseアプリケーションを作成する場合は、この項をスキップします。

各Essbaseサーバーは、それぞれ独自のデータベースを持つ、複数のアプリケーションをサポートできます。作成するEssbaseアプリケーションは自動的にShared Servicesに登録されます。Essbaseサーバーのユーザーは、各アプリケーションおよびそのアーティファクトに別々にプロビジョニングする必要があります。

Performance Management Architect Essbaseアプリケーションはアプリケーション・ライブラリから作成されません。

デプロイしたアプリケーションは、アプリケーション・ライブラリの一部となります。また、Essbaseアプリケーションは、Shared Services ConsoleおよびAdministration Servicesコンソール内にもリストされます。

▶ アプリケーションを作成するには:

1. EPM Workspaceにアクセスします。 [183ページのEPM Workspaceへのアクセス](#)を参照してください。

2. 「ナビゲート」、「管理」、「アプリケーション・ライブラリ」の順に選択します。
3. 「ファイル」、「新規」、「アプリケーション」の順に選択します

アプリケーション作成ウィザードが表示されます。

4. 「名前」に、アプリケーション名(最大8文字)を入力します。アプリケーション名には、特殊文字(スペース、アスタリスクなど)を含めないでください。
5. 「タイプ」で、「Essbase (ASO)」または「Essbase (BSO)」を、アプリケーションに使用するストレージのタイプにより選択します。
6. データベース名を入力します。
7. データベースをUnicodeデータベースとする場合は「Unicode」を選択します。
8. 「次へ」をクリックします。
9. アプリケーションのディメンションを選択します。少なくとも1つのディメンションを選択する必要があります。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
10. 「次へ」をクリックしてアプリケーション・ライブラリにアプリケーションを作成します。
11. 「検証」をクリックします。エラーが報告された場合は修正します。ライブラリ・ジョブ・コンソールで詳細な検証情報を確認できます。ライブラリ・ジョブ・コンソールを開くには、「ナビゲート」、「管理」、「ライブラリ・ジョブ・コンソール」の順に選択します。
12. 「終了」をクリックします。

ディメンション・ライブラリが開きます。ディメンション・ライブラリから、アプリケーション・ディメンションのメンバーを追加できます。アプリケーションのアイコンがアプリケーション・ライブラリに表示されます。

13. アプリケーションをデプロイします:
 - a. アプリケーション・ライブラリで、Essbaseアプリケーションを右クリックします。
 - b. 「デプロイ」を選択します。

Performance Management Architectにより、アプリケーションが検証されます。エラーが見つからなかった場合、デプロイウィンドウが開きます。

- c. 必要な情報を入力または選択します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
- d. 「デプロイ」をクリックします。

デプロイメント・プロセスが終了するまで、時間がかかる場合があります。デプロイメント・プロセスの進捗状況や報告されたエラーの追跡に使用できるデプロイメント・ジョブIDが、Performance Management Architectにより表示されます。

Essbaseアーティファクトの作成

サブトピック

- [セキュリティ・フィルタの作成](#)
- [計算スクリプトの作成](#)

アーティファクトのアクセス制御が機能するようにするには、Essbaseアプリケーション・データベースでフィルタおよび計算スクリプトを作成する必要があります。Essbaseでは、フィルタを使用して、データベースの特定の部分に対するセキュリティ要件に対応し、データベース・セルへのアクセスを制限することによりデータ値またはセルに対するセキュリティ・アクセスを制御します。Essbaseサーバーでは、`essbase.sec`にフィルタが保管されます。

計算スクリプトは、データベースの連結方法や集約方法を定義するコマンドです。連結プロセスとは別に、割当てや他の計算ルールを指定するコマンドが計算スクリプトに含まれることもあります。

Administration ServicesコンソールまたはMaxLを使用して、フィルタおよび計算スクリプトを作成できます。フィルタおよび計算スクリプトの作成および管理の詳細は、『*Oracle Essbase Administration Services*オンライン・ヘルプ』または『*Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド*』を参照してください。

セキュリティ・フィルタの作成

セキュリティ・フィルタにより、Essbaseデータベース内のデータ値(セル)へのアクセスが制御されます。フィルタは、粒度が最も細かいEssbaseのセキュリティ・アクセスです。フィルタを作成する際、データベース・セルに対して、制限を指定します。フィルタ情報は、Essbaseサーバーの`essbase.sec`に保管されます。

フィルタは、Essbaseのユーザーとグループに割り当てることができます。

- ▶ フィルタを作成するには:
 1. Administration Servicesコンソールに、機能の管理者、またはEssbase管理者の役割がプロビジョニングされたユーザーとしてログインします。[184ページのAdministration Servicesコンソールへのアクセス](#)を参照してください。
 2. 「**Essbaseサーバー**」の下の「**アプリケーション**」を展開します。
 3. セキュリティ・フィルタを定義するEssbaseアプリケーションを表すノードを展開します。
 4. セキュリティ・フィルタを定義するデータベースを右クリックし、「**作成**」、次に「**フィルタ**」を選択します。
 5. フィルタを作成します。説明が必要な場合は、[オンライン・ヘルプ](#)を参照してください。

計算スクリプトの作成

計算スクリプトを使用して、データベースの計算方法を指定します。計算スクリプトは、データベースのアウトラインで定義されている計算をオーバーライドします。計算スクリプトを作成するには、計算スクリプト・エディタを使用します。

計算スクリプトは、Essbaseのユーザーとグループに割り当てることができます。

- ▶ 計算スクリプトを作成するには:
 1. Administration Servicesコンソールに、機能の管理者、またはEssbase管理者の役割がプロビジョニングされたユーザーとしてログインします。
 2. 「**Essbaseサーバー**」の下の「**アプリケーション**」を展開します。
 3. 計算スクリプトを定義するEssbaseアプリケーションを表すノードを展開します。

4. 計算スクリプトを定義するデータベースを選択します。
5. 「ファイル」、次に「エディタ」、さらに「計算スクリプト・エディタ」を選択します。
6. 計算スクリプトを作成します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。

ユーザーへのEssbaseアプリケーションの役割のプロビジョニング

各Essbaseサーバーには、それぞれ独自のデータベースを持つ、複数のEssbaseアプリケーションを設定できます。Essbaseサーバーのユーザーは、各アプリケーションおよびそのデータベースに別々にプロビジョニングする必要があります。

▶ ユーザーにEssbaseアプリケーションの役割をプロビジョニングするには:

1. Shared Services Consoleに機能の管理者としてログインします。11ページの[Shared Services Consoleの起動](#)を参照してください。



注:

Essbaseアプリケーションのプロビジョニング・マネージャの役割がプロビジョニングされているユーザーは、このアプリケーションの役割を他のユーザーにプロビジョニングできます。

2. プロビジョニングするユーザーまたはグループを見つけます。

13ページの[ユーザー、グループ、役割および委任リストの検索](#)を参照してください。

3. 「管理」、「プロビジョニング」の順に選択します。
4. オプション: ビューを選択します。

役割は、階層(ツリー)またはリストに表示できます。階層をドリルダウンし、使用可能な役割を表示します。リスト・ビューでは、使用可能な役割が表示されますが、階層は表示されません。

5. Essbaseサーバーを表すノード(例: EssbaseCluster-1)を展開します。
6. Essbaseサーバー・ノードの下で、前の項で作成したEssbaseアプリケーションを表すノードを展開します。
7. Essbaseアプリケーションの役割を選択し、



をクリックします。82ページの[表 5](#)で、Essbaseアプリケーションの役割および埋込み済の権限について説明しています。

表5 Essbaseアプリケーションの役割

役割	説明
アプリケーション・マネージャ	<p>割り当てられたアプリケーション内でデータベースとアプリケーションの設定を作成、削除および変更します。アプリケーション内のデータベースのデータベース・マネージャの権限も含みます。アプリケーション・マネージャは、自分で作成したアプリケーションおよびデータベースだけを削除できます。</p> <p>注:</p> <p>プロビジョニング・マネージャ役割は、ユーザーがEssbaseアプリケーション・マネージャを移行する際にそのユーザー</p>

役割	説明
	に自動的に割り当てられます。ただし、Essbaseアプリケーション・マネージャをShared Services Consoleで作成する場合は、プロビジョニング・マネージャ役割を自分自身に手動で割り当てる必要があります。
データベース・マネージャ	割り当てられたアプリケーション内のデータベース、データベース・アーティファクト、ロックを管理します
計算	割り当てられた計算およびフィルタを使用して割り当てられたスコープを基に、データ値の計算、更新および読取りを行います
書込み	割り当てられたフィルタを使用して、割り当てられたスコープを基に、データ値の更新と読取りを行います
読取り	データ値を読み取ります
フィルタ	フィルタの制限に応じて特定のデータとメタデータにアクセスします
アプリケーションの開始/停止	アプリケーションまたはデータベースを開始および停止します
プロビジョニング・マネージャ	Essbaseユーザーにこのアプリケーションからの役割をプロビジョニングします

8. 「OK」をクリックします。
9. 「OK」をクリックします。
10. オプション: その他のユーザーに、このEssbaseアプリケーションの役割をプロビジョニングするには、[82ページのステップ 2](#)から[83ページのステップ 8](#)を繰り返します。
11. オプション: 選択したユーザーに、このEssbaseサーバーに属するその他のEssbaseアプリケーションの役割をプロビジョニングするには、[82ページのステップ 6](#)から[83ページのステップ 9](#)を繰り返します。

アクセス制御の定義

Essbaseアプリケーションの役割によって、アプリケーションのデータベースに保管されているアーティファクトに対する広範囲のアクセス権が付与されます。アクセス制御を定義することで、アーティファクトへのアクセスに制限を設定できます。Essbaseのアーティファクトには、フィルタおよび計算スクリプトがあります。

▶ Essbaseアーティファクトへのアクセス権を付与するには:

1. Shared Services Consoleに機能の管理者としてログインします。[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。
2. ビュー・ペインで、「アプリケーション・グループ」を展開し、次にEssbaseサーバー・ノード(例: EssbaseCluster-1)を展開します。
3. アーティファクトへのアクセス権を設定するEssbaseアプリケーションを右クリックし、「アクセス権の割当て」を選択します。

「アプリケーション」タブが開きます。デフォルトで、このタブには、このEssbaseアプリケーションに属している役割をプロビジョニングされているユーザーがリストされます。ユーザーとグループをすべてリストすることも、使用可能なグループのみをリストすることもできます。

4. アーティファクトへのアクセス制御を設定するユーザーおよびグループを選択し、選択済みリストに移動します。

5. 「次へ」をクリックします。
6. アーティファクトへのアクセス権を付与するユーザーを選択します。
7. 「フィルタ」から、ユーザーにアクセスを許可するデータベース・セキュリティ・フィルタを選択します。
8. 「計算」から、選択したユーザーがアクセス可能な計算スクリプトを選択します。
9. 「計算」の横にあるチェック・マークを選択します。
10. 他のフィルタおよび計算スクリプトへのアクセス権を割り当てるには、[84ページのステップ 7](#)から[84ページのステップ 9](#)を繰り返します。
11. 「OK」をクリックします。

9

Planningのプロビジョニング

この項の内容:

Planningセキュリティ・モデル	85
前提条件	85
EPM System製品へのアクセス	87
Planningのプロビジョニング・プロセス	87

Planningセキュリティ・モデル

Oracle Hyperion Planningでは、Planningのグローバルな役割とPlanningアプリケーションの役割の2つのレベルの役割が使用されます。Planningのグローバルな役割(ディメンション・エディタおよびPlanningアプリケーション作成者)は、Performance Management Architectを使用してPlanningアプリケーションを作成するユーザーのプロビジョニングに使用されます。この役割は、Shared Services Consoleを使用して付与されます。Planningアプリケーションの役割も、Shared Services Consoleを使用して付与されます。

Webフォームおよびディメンション/メンバーなどのPlanningアーティファクトは、Planningユーザー・インタフェースから管理および定義します。これらのアーティファクトに対するセキュリティは、Planningアプリケーション内から定義します。Planningアーティファクトは、Planningのリレーショナル・リポジトリに保管されます。

前提条件

サブトピック

- [Foundation Services](#)
- [Webサーバー](#)
- [Essbaseサーバー](#)
- [Administration Services \(オプション\)](#)
- [Performance Management Architect \(オプション\)](#)
- [リレーショナル・データベース](#)

Foundation Services

- Foundation Servicesが実行されていること。Foundation Servicesを開始すると、次のコンポーネントが開始されます:
 - Shared Services
 - Performance Management Architect
- オプション: Planningのユーザーおよびグループの情報のソースである外部ユーザー・ディレクトリがShared Servicesで構成されていること。

Webサーバー

EPM System Webサーバーが実行されている必要があります。

Essbaseサーバー

Essbaseサーバーが実行されていること。

『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

Administration Services (オプション)

Essbaseの管理コンソールである、Administration Servicesは、Essbase内のPlanningアプリケーション、データベースおよびメンバーの作成を確認する場合にのみ必要になります。

Administration Servicesが実行されていること。

『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

Performance Management Architect (オプション)

Performance Management Architectは、アプリケーション間でディメンションを共有できるPerformance Management Architect Planningアプリケーションを作成する場合に必要です。アプリケーション・ライブラ

リおよびディメンション・ライブラリなどのPerformance Management Architectコンポーネントへは、EPM Workspaceを介してアクセスします。

- Performance Management Architectサーバーが稼働しています。
- Performance Management Architectが稼働しています。

『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

- Performance Management Architect Webサーバーが稼働しています。

リレーショナル・データベース

Planningアプリケーション・データを保管するには、十分な権限が割り当てられたリレーショナル・データベース・アカウントが使用可能である必要があります。

サポートされているデータベース・プラットフォームおよび必要な権限については、*Oracle Enterprise Performance Management System*インストール概要を参照してください。

EPM System製品へのアクセス

プロビジョニング時に、Shared ServicesやEPM WorkspaceなどのEPM System製品にアクセスする必要があります。次のトピックを参照してください:

- [11ページのShared Services Consoleの起動](#)
- [183ページのEPM Workspaceへのアクセス](#)
- [184ページのAdministration Servicesコンソールへのアクセス](#)

Planningのプロビジョニング・プロセス

Planningアプリケーションには、クラシックとPerformance Management Architectの2つのタイプがあります。

クラシックPlanningアプリケーションは、ディメンションおよびメンバーを他のPlanningアプリケーションと共有しないスタンドアロンのアプリケーションです。クラシックPlanningアプリケーションは、クラシック・アプリケーション・ウィザードを使用して作成します。

このドキュメントでは、Performance Management Architectを使用して作成されたPlanningアプリケーションを、Performance Management Architect Planningアプリケーションと呼びます。Performance Management Architect Planningアプリケーションは、ディメンションとメンバーを共有できます。

Planningアプリケーションを使用するユーザーおよびグループのプロビジョニングは1つのプロセスです。

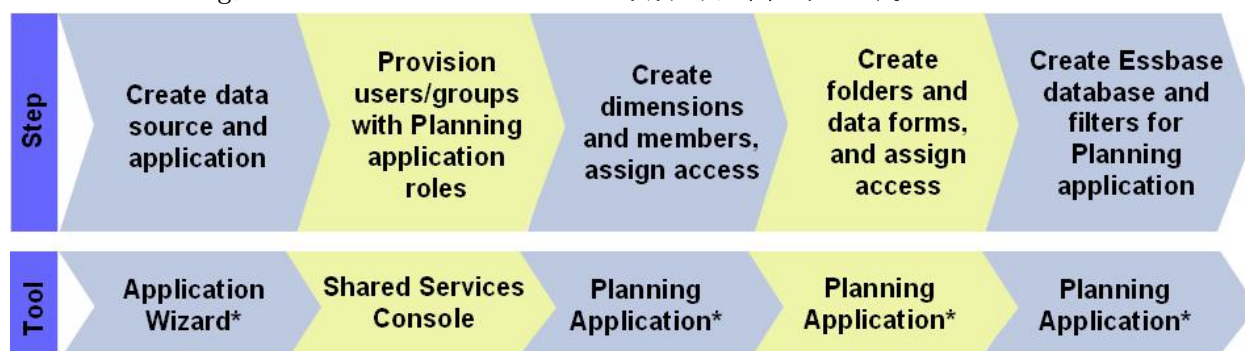
プロセスの概要

サブトピック

- クラシックPlanning
- Performance Management Architect Planning

クラシックPlanning

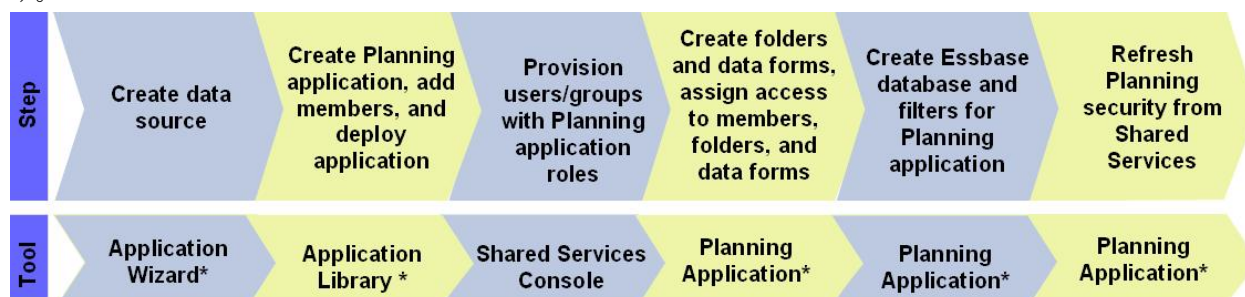
クラシックPlanningアプリケーションのプロビジョニング手順を次の図に示します。



* Accessed through EPM Workspace

Performance Management Architect Planning

Performance Management Architect Planningアプリケーションのプロビジョニングの手順を次の図に示します。



* Accessed through EPM Workspace

Planningのデータ・ソースの作成

各Planningアプリケーションには、Planningアプリケーション・データベースおよびEssbaseサーバーの接続情報から構成される一意のデータ・ソースが必要です。Planningアプリケーション・データベースは1つのPlanningアプリケーションからの情報しか保管できないため、各データ・ソースには一意のデータベースが必要です。多くのデータ・ソースが、1つのEssbaseサーバーを使用できます。



注:

このプロセスを使用して作成するデータ・ソースは、クラシック・アプリケーションおよび Performance Management Architect Planningアプリケーションに使用できます。

▶ データ・ソースを作成するには:

1. 機能の管理者としてEPM Workspaceにアクセスします。[183ページのEPM Workspaceへのアクセス](#)を参照してください。
2. 「ナビゲート」、「管理」、「プランニングおよび予算策定のサービス」の順に選択します。
3. 「Planning管理」で「データ・ソースの管理」をクリックします。
4. 「データ・ソースの管理」の「アクション」から「作成」を選択します。
5. 「データ・ソース名」に名前を入力します。
6. 「データベース」から、Planningアプリケーション・データベースのデータベース・タイプを選択します。
7. アプリケーション・データベースおよびEssbaseサーバーの接続情報を入力します。Essbaseサーバー設定にEssbaseサーバー管理者(または機能の管理者)の情報を必ず入力してください。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
8. 「検証」をクリックして、アプリケーション・データベース接続およびEssbaseサーバー接続を検証します。
9. データ・ソースを作成するには、「保存」をクリックします。

ディメンションおよびメンバーを含むクラシックPlanningアプリケーションの作成

Planningインストールは、複数のPlanningアプリケーションをサポートできます。作成したアプリケーションは、Shared Servicesに自動的に登録されます。

ディメンションおよびメンバーを含むクラシックPlanningアプリケーションの作成には、次の手順が含まれます:

- [91ページのクラシックPlanningアプリケーションの作成](#)
- [92ページのPlanningアプリケーションへのアクセス](#)
- [92ページのクラシックPlanningアプリケーションのディメンションおよびメンバーの作成](#)

クラシックPlanningアプリケーションの作成

▶ アプリケーションを作成するには:

1. 機能の管理者としてEPM Workspaceにアクセスします。[183ページのEPM Workspaceへのアクセス](#)を参照してください。
2. 「ナビゲート」、「管理」、「プランニングおよび予算策定のサービス」の順に選択します。
3. 「Planning管理」で「管理アプリケーション」をクリックします。
4. 「管理アプリケーション」の「アクション」から「作成」を選択します。
5. 「データ・ソース」で、データ・ソースを選択します。
6. 「Application」に、アプリケーション名(最大8文字)を入力します。アプリケーション名には、特殊文字(スペース、アスタリスクなど)を含めないでください。
7. 「アプリケーション・タイプ」で、作成するアプリケーションのタイプを選択します。

「サンプル」を選択して、サンプルのPlanningアプリケーションの設定を使用します。サンプルのアプリケーションでは「カレンダー」、「通貨」、「プラン・タイプ」の情報は選択できません。

8. 「Shared Servicesプロジェクト」で、Planningアプリケーションを追加するアプリケーション・グループを選択します。

EPM SystemはデフォルトのPlanningアプリケーション・グループを作成しません。必要に応じて、Shared Services Consoleにカスタム・グループとして作成できます。[22ページのアプリケーション・グループの作成](#)を参照してください。

9. 「次へ」をクリックします。
10. サンプル・アプリケーションを作成しない場合は、「カレンダー」、「通貨」および「プラン・タイプ」に情報を入力または選択します。画面で情報を入力したら、「次へ」をクリックします。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
11. 「作成」をクリックして、Planningアプリケーションを作成します。



注:

作成したPlanningアプリケーションは、Administration ServicesのEssbase Serverノードにリストされます。また、Shared Services Console内の、[91ページのステップ 8](#)で選択したアプリケーション・グループを表すノードの下にもリストされます。

Planningアプリケーションへのアクセス

▶ Planningアプリケーションを開くには:


1. EPM Workspaceにアクセスします。[183ページのEPM Workspaceへのアクセス](#)を参照してください。
2. 「ファイル」、「開く」、「アプリケーション」、「Planning」の順に選択します。
3. 作成したPlanningアプリケーションを選択します。

クラシックPlanningアプリケーションのディメンションおよびメンバーの作成

Planningアプリケーションを作成すると、デフォルトのディメンションがアプリケーション・データベースに移入されます。この段階で、次のことを行えます:

- アプリケーションへのカスタム・ディメンションの追加
- ディメンションへのメンバーの追加

▶ ディメンションおよびディメンション・メンバーを追加するには:

1. Planningアプリケーションを開きます。[92ページのPlanningアプリケーションへのアクセス](#)を参照してください。
2. 「管理」、「管理」、「ディメンション」の順に選択します。
3. オプション: カスタム・ディメンションを追加します。
 - a. 「ディメンション」で、をクリックします。
 - b. ディメンション名とその他の必要な値を入力します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。



注:

カスタム・ディメンションのセキュリティ・アクセスを定義する場合、「セキュリティの適用」チェック・ボックスを選択する必要があります。

- c. 「保存」をクリックします。

Planningで作成したカスタム・ディメンションは、Essbaseデータベースに自動的に書き込まれません。[105ページのEssbaseデータベースの操作](#)を参照してください。

4. ディメンション・メンバーを追加します。

通貨、期間および年以外のディメンションはすべてセキュア・ディメンションです。セキュア・ディメンションのメンバー(子)についてのみセキュリティを適用できます。

- a. 「ディメンション」から、メンバーを定義するディメンションを選択します。
- b. 「子の追加」をクリックします。
- c. メンバー名とその他の必要な値を入力します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
- d. 「保存」をクリックします。
- e. メンバー(子および兄弟)を追加するには、[92ページのステップ 4.b](#)から [92ページのステップ 4.d](#)を繰り返します。

5. カスタム・ディメンションおよびメンバーのデータでEssbaseデータベースを更新します。手順については、[105ページのEssbaseデータベースの操作](#)を参照してください。

Performance Management Architect Planningアプリケーションの作成およびデプロイ



注:

クラシックPlanningを使用している場合、この項はスキップしてください。

Performance Management Architect Planningアプリケーションはアプリケーション・ライブラリから作成されません。

各Performance Management Architect Planningアプリケーションには、一意のデータ・ソースが必要です。データ・ソースは、Planningアプリケーション・データベースおよびEssbaseサーバーの接続情報から構成されます。Planningアプリケーション・データベースは1つのPlanningアプリケーションからの情報しか保管できないため、各データ・ソースには一意のデータベースが必要です。多くのデータ・ソースが、1つのEssbaseサーバーをポイントできます。89ページの[Planningのデータ・ソースの作成](#)を参照してください。



注:

Performance Management Architect Planningアプリケーションの作成プロセスでは、アプリケーションをデプロイする前にデータ・ソースを作成できます。ただし、アプリケーションの作成の最初の手順としてデータ・ソースを作成することをお勧めします。

デプロイしたアプリケーションは、アプリケーション・ライブラリの一部となります。また、Planningアプリケーションは、Shared Services ConsoleおよびAdministration Servicesコンソール内にもリストされます。

▶ アプリケーションを作成するには:

1. EPM Workspaceにアクセスします。[183ページのEPM Workspaceへのアクセス](#)を参照してください。
2. 「ナビゲート」、「管理」、「アプリケーション・ライブラリ」の順に選択します。
3. 「ファイル」、「新規」、「アプリケーション」の順に選択します
4. 「名前」に、アプリケーション名(最大8文字)を入力します。アプリケーション名には、特殊文字(スペース、アスタリスクなど)を含めないでください。
5. 「タイプ」で、**Planning**を選択します。



注:

ディメンション・ライブラリからディメンションをドラッグできる、空のアプリケーションを作成できます。空のアプリケーションを作成するには、「**ブランク・アプリケーションの作成**」を選択して、「終了」をクリックします。

6. オプション: 「**Planning**」領域で情報を入力または選択します。
 - a. 複数の通貨を使用する場合は、「**複数通貨の使用**」を選択します。

- b. EssbaseにOracle Hyperion Workforce Planningのデータ・キューブを作成するには、「**Workforce**」を選択します。
 - c. EssbaseにOracle Hyperion Capital Asset Planningのデータ・キューブを作成するには、「**Capital Asset**」を選択して、名前を入力します。
7. 「**カレンダー**」領域で、次のアクションを実行します:
- a. 「**新規ローカル期間ディメンションの作成**」を選択して、期間名を入力します。
 - b. 「**新規ローカル年ディメンションの作成**」を選択して、情報を入力します:
 - ・ 年名
 - ・ 会計開始年
 - ・ 合計年数
8. 「**次へ**」をクリックします。
9. 「**ディメンションの選択**」で、アプリケーションのディメンションを選択します。必須のデフォルト・ディメンション(エンティティ、バージョン、シナリオ、勘定科目、年、期間、別名、通貨)およびカスタム・ディメンション(必要な場合)をローカル・ディメンションとして作成する必要があります。必須のディメンションは太字で示されます。
- a. 「**ディメンション**」列をクリックし、「**新規ディメンションの作成**」を選択します。
 - b. ディメンション名を入力します。
 - c. 「**OK**」をクリックします。
10. 「**次へ**」をクリックし、作成したディメンションに値を設定します。

カスタム・ディメンションに対するセキュリティ・アクセスは、ディメンションとメンバーにセキュリティを適用した後
にのみ定義可能になります。

カスタム・ディメンションにセキュリティを適用するには:

- a. 「**アプリケーション設定**」で、アプリケーションを表すノードを展開します。
 - b. セキュリティの適用プロパティを定義するカスタム・ディメンションを選択します。
 - c. 「**プロパティ**」で、「**セキュリティの適用**」を選択します。
11. 「**検証**」をクリックします。エラーが報告された場合は修正します。ライブラリ・ジョブ・コンソールで詳細な検証
情報を確認できます。ライブラリ・ジョブ・コンソールを開くには、「**ナビゲート**」、「**管理**」、「**ライブラリ・ジョブ・コン
ソール**」の順に選択します。
12. 「**終了**」をクリックします。

ディメンション・ライブラリから、アプリケーション・ディメンションのメンバーを追加できます。この段階で、アプリ
ケーションのアイコンがアプリケーション・ライブラリに表示されます。

13. ディメンション・メンバーを作成します。ディメンション・メンバーは、アクセス制御を定義できる最上位レベルで
す。ディメンション・メンバーを作成するには:



注:

アプリケーションのディメンションは、アクセスを許可するユーザーおよびグループを定義することにより保護できます。アクセス制御は、セキュア・ディメンション(通貨、期間および年以外のデフォルト・ディメンション)のメンバーに対してディメンション・ライブラリから定義できます。

- a. メンバーを定義するアプリケーション・ディメンションを右クリックします。
- b. 「**メンバーの作成**」、次に「**子として**」を選択します。



注:

既存のディメンション・メンバーを選択した場合、現在のメンバーの子または兄弟としてメンバーを作成できます。

- c. 「新規メンバー」ダイアログ・ボックスに、メンバーの名前を入力します。
 - d. 「OK」をクリックします。
14. オプション: プラン・タイプ・パフォーマンス設定を指定します。プラン・タイプ・パフォーマンス設定を指定するには:
- a. アプリケーションを右クリックします。
 - b. 「パフォーマンス設定」を選択します。
 - c. プラン・タイプ・パフォーマンス設定ウィンドウで、プラン・タイプ(プラン1、プラン2、プラン3など)を選択します。
 - d. ディメンションのパフォーマンス設定を変更するには、「密度」列をダブルクリックします。
 - e. 設定を選択します(「密」または「疎」)。
15. アプリケーションをデプロイします:
- a. アプリケーション・ライブラリで、Planningアプリケーションを右クリックします。
 - b. 「デプロイ」、次に「アプリケーション」を選択します。

Performance Management Architectにより、アプリケーションが検証されます。エラーが見つからなかった場合、デプロイウィンドウが開きます。

- c. 必要な情報を入力または選択します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。



注:

アプリケーションのデータ・ソースを選択する必要があります。クラシックPlanningを使用してデータ・ソースを作成する手順については、[89ページのPlanningのデータ・ソースの作成](#)を参照してください。「データ・ソース」ドロップダウン・リストの横にある「データ・ソースの作成」ボタンをクリックして、データ・ソースを作成することもできます。

「Shared Servicesプロジェクト」リストから適切なアプリケーション・グループが選択されていることを確認します。

- d. 「デプロイ」をクリックします。

デプロイメント・プロセスが終了するまで、時間がかかる場合があります。デプロイメント・プロセスの進捗状況や報告されたエラーの追跡に使用できるデプロイメント・ジョブIDが、Performance Management Architectにより表示されます。

ユーザーおよびグループへのPlanningアプリケーションの役割のプロビジョニング

各Planningデプロイメントは、複数のPlanningアプリケーションをサポートできます。Planningユーザーを各アプリケーションに対して別々にプロビジョニングする必要があります。

機能の管理者およびPlanningプロビジョニング・マネージャは、Shared Services Consoleを使用してPlanningアプリケーション・ユーザーをプロビジョニングできます。

- ▶ ユーザーまたはグループにPlanningアプリケーションの役割をプロビジョニングするには:
 1. 機能の管理者、またはプロビジョニングするPlanningアプリケーションのプロビジョニング・マネージャの役割として、Shared Services Consoleにアクセスします。[11ページのShared Services Consoleの起動](#)を参照してください。
 2. ユーザーおよびグループへPlanningアプリケーションをプロビジョニングします:
 - a. プロビジョニングするユーザーまたはグループを見つけます。
[13ページのユーザー、グループ、役割および委任リストの検索](#)を参照してください。
 - b. ユーザーまたはグループを右クリックし、「プロビジョニング」を選択します。
 - c. オプション: ビューを選択します。

役割は、階層(ツリー)またはリストに表示できます。階層をドリルダウンし、使用可能な役割を表示する必要があります。リスト・ビューでは、使用可能な役割が表示されますが、階層は表示されません。
 - d. 「使用可能な役割」で、Planningアプリケーションを含むアプリケーション・グループ(例: Planning)を展開します。
 - e. 対象のアプリケーションを表すノードを展開します。
 - f. 役割を選択し、「追加」をクリックします。

選択した役割が「**選択された役割**」リストに表示されます。Planningアプリケーションの役割のリスト、およびその役割によってアクセスが許可されるタスクについては、[96ページの表 6](#)を参照してください。

表6 Planningアプリケーションの役割

役割	説明
パワー役割	
管理者	アプリケーション所有者、一括割当ての役割に予約されているタスクを除き、すべてのアプリケーション・タスクを実行します。アプリケーションの作成および管理、アクセス権限の管理、予算プロセスの開始、通知用電子メール・サーバーの指定を実行します。データのコピー機能を使用できます。
プロビジョニング・マネージャ	ユーザーをPlanningアプリケーションにプロビジョニングします
一括割当て	データを階層形式でマルチディメンションに分散する一括割当て機能にアクセスします。この機能ではデータ・フォームでは表示されないセルやユーザーがアクセス権を持たないセルへの分散も可能です。任意のユーザー・タイプにこの役割を割り当てることが可能ですが、割当ては慎重に行ってください。
Essbase書込みアクセス権	プランナおよび対話型ユーザーの場合: ユーザーが持つPlanningのアクセス権限と同等の、EssbaseのPlanningデータへのアクセス権限をユーザーに付与します。年および期間のディメンションへのアクセスを制限するセキュリティ・フィルタを作成しないと、この役割はすべての期間および年への書込み権限を付与します。書込みアク

役割	説明
	<p>セス権を持つユーザーはOracle Hyperion Financial Reportingやサードパーティ製のツールなど別製品を使用して、PlanningのデータをEssbaseで直接変更できます。</p>
<p>承認管理者 承認管理者の役割は、次の役割で構成されています:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 承認所有権割当て者 • 承認プロセス・デザイナー • 承認スーパーバイザ 	<p>承認管理者は、通常、組織の地域を担当し、その地域の承認プロセスを制御する必要はあるが、Planning管理者の役割を付与される必要はないビジネス・ユーザーです。承認管理者の役割のユーザーは、プロセスの所有権を手動で取得し、承認の問題を解決します。次のタスクを行います:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 承認プロセスの制御 • 書込みアクセス権を持つPlanningユニットに対するアクションの実行 • 担当内の組織の所有者とレビュー担当者の割当て • 副ディメンションの変更または検証ルールの更新
<p>承認所有権割当て者</p>	<p>Plannerの役割に割り当てられているタスクを実行します。承認所有権割当て者は、書込みアクセス権を持つプランニング・ユニット階層のメンバーに対して次のタスクを実行します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 所有者の割当て • レビュー担当者の割当て • 通知対象のユーザーの指定
<p>承認プロセス・デザイナー</p>	<p>プランナと承認所有権割当て者の役割に割り当てられているタスクを実行します。承認プロセス・デザイナーは、書込みアクセス権を持つプランニング・ユニット階層のメンバーに対して次のタスクを実行します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 副ディメンションと書込みアクセス権を持つエンティティのメンバーの変更 • プランニング・ユニット階層のシナリオとバージョン割当ての変更 • 書込みアクセス権を持つデータ・フォームのデータ検証ルールの編集
<p>承認スーパーバイザ</p>	<p>プランニング・ユニットを所有していない場合でも、書込みアクセス権を持つプランニング・ユニット階層のメンバーに対して次のタスクを実行します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • プランニング・ユニットの停止と開始 • プランニング・ユニットに対する任意のアクション <p>注:</p> <p>承認スーパーバイザは、所有していないプランニング・ユニットのデータは変更できません。</p>

役割	説明
アド・ホック・グリッド作成者	アド・ホック・ユーザーが行えるタスクの実行に加えて、スマート・スライスを作成したり、保存します
アドホック・ユーザー	アド・ホック機能を使用してデータ・フォームを分析します。
タスク・リスト・アクセス・マネージャ	このリリースには適用されません(将来の使用のために予約されています)。
プランナ役割	
プランナ	承認およびアダプタ・プロセス用のプランを入力および送信します。他のユーザーが作成したレポートの使用、タスク・リストの表示と使用、自分自身への電子メール通知の使用可能化、Oracle Smart View for Officeを使用したデータの作成が可能です。
対話型役割	
対話型ユーザー	データ・フォーム、Smart Viewワークシート、ビジネス・ルール、タスク・リスト、Financial Reportingレポート、およびアダプタ・プロセスの作成と維持を行います。予算プロセスを管理します。Smart Viewでのスマート・スライスの作成、セル詳細のクリア機能の使用、すべてのプランナ・タスクの実行が可能です。対話型ユーザーは通常、部署の責任者や事業単位のマネージャに割り当てます。
ビュー役割	
表示ユーザー	Planningデータ・フォームとライセンスを所有するデータ・アクセス・ツール(たとえば、Financial Reporting、Oracle Hyperion Web AnalysisおよびSmart View)を使用して、データを表示および分析します。典型的な表示ユーザーは予算プロセスの期間中および最後にビジネス・プランを参照する必要のある経営者です。

g. 「保存」をクリックします。

h. 「OK」をクリックします。

3. プロビジョニングを行う各Planningアプリケーションについて、前の手順を繰り返します。

ユーザーとグループのPlanningデータベースへの追加

ユーザーおよびグループのShared Servicesでのプロビジョニング後、これらをPlanningデータベースに追加し、新たにプロビジョニングされたユーザーとグループがPlanningアプリケーションで使用できるようにします。



注:

次の手順では、ユーザーおよびグループをPlanningデータベースに追加するために使用できる多くの方法のうちの1つを示します。その他の方法は、『Oracle Hyperion Planningユーザー・ガイド』を参照してください。

- ▶ ユーザーおよびグループをPlanningデータベースに移入するには:

1. EPM Workspaceにアクセスします。183ページのEPM Workspaceへのアクセスを参照してください。
2. Planningアプリケーションを開きます。92ページのPlanningアプリケーションへのアクセスを参照してください。
3. 「管理」、「アプリケーション」、「データベースのリフレッシュ」の順に選択します。
4. 「セキュリティ・フィルタ」を選択します。
5. オプションで、他のデータベースのリフレッシュ・オプションを選択します。『Oracle Hyperion Planning管理者ガイド』を参照してください。
6. 「リフレッシュ」をクリックします。
7. 「終了」をクリックします。

ディメンション・メンバーへのアクセス権の割当て

アプリケーションのディメンションは、アクセスを許可するユーザーおよびグループを定義することにより保護できます。アクセス制御は、セキュア・ディメンション(通貨、期間および年以外のデフォルト・ディメンション)のメンバーに対して定義できます。

「セキュリティの適用」オプションを使用して作成されたカスタム・ディメンションでのみ、アクセス制御のメンバーへの割当てがサポートされます。

▶ アクセス制御を定義するには:

1. EPM Workspaceにアクセスします。183ページのEPM Workspaceへのアクセスを参照してください。
2. Planningアプリケーションを開きます。92ページのPlanningアプリケーションへのアクセスを参照してください。
3. 「管理」、「管理」、「ディメンション」の順に選択します。



注:

クラシックPlanningアプリケーションでは、この画面からメンバーを作成できますが、Performance Management Architect Planningアプリケーションでは作成できません。Performance Management Architect Planningアプリケーションにディメンションまたはメンバーを追加する必要がある場合は、ディメンション・ライブラリを使用します。ディメンションまたはメンバーを変更した場合、Performance Management Architect Planningアプリケーションを検証して再デプロイする必要があります。

4. セキュリティを割り当てるセキュア・ディメンションを選択します。
5. ディメンションを右クリックし、「展開」を選択してディメンション・メンバーおよびその子を表示します。
6. ディメンション・メンバーを選択します。
7. 「アクション」から、「アクセス権の割当て」を選択します。
8. アクセス権の割当てウィンドウで、



をクリックします。



注:

現在のアプリケーションにプロビジョニングされているユーザーおよびグループのみが、アクセス権の追加ウィンドウにリストされます。


9. 選択したメンバーへのアクセス権を付与するユーザーまたはグループを選択します。
10. 「アクセス・タイプ」から、メンバーに対して付与するアクセス権を選択します。
11. リストから、アクセス権の関係を選択します。たとえば、選択したメンバーの子にアクセス権を割り当てるには、「子」を選択します。
12. 「追加」を選択します。
13. 「閉じる」を選択し、アクセス権の割当てウィンドウに戻ります。
14. 他のメンバーへのアクセス権を割り当てるには、[99ページのステップ 6](#)から[100ページのステップ 13](#)を繰り返します。

データ・フォームの作業

データ・フォームはデータ入力用のグリッドです。多くのデータ・フォームを作成し、ユーザーのニーズを満たすことができます。

データ・フォームのフォルダの作成

▶ データ・フォームのフォルダを作成するには:

1. EPM Workspaceにアクセスします。183ページのEPM Workspaceへのアクセスを参照してください。
2. Planningアプリケーションを開きます。92ページのPlanningアプリケーションへのアクセスを参照してください。
3. 「管理」、「管理」、「フォームとアド・ホック・グリッド」を選択します。
4. 「フォーム・フォルダ」のフォルダを展開して、をクリックします。
5. フォルダ名を入力します。
6. 「OK」をクリックします。

データ・フォームの作成

複合データ・フォームは単一のデータ・フォームに基づいて構成されるため、複合データ・フォームを作成する前に単一のデータ・フォームを作成する必要があります。複合データ・フォームには、様々なプラン・タイプに関連付けられているデータ・フォームなど、多数のデータ・フォームが同時に表示されます。ユーザーはデータを入力し、合計収益など、上位交差に集約された結果を見ることができます。複合データ・フォームを作成するいくつかのタスクは通常の場合と同じです。

▶ データ・フォームを作成するには:



1. EPM Workspaceにアクセスします。183ページのEPM Workspaceへのアクセスを参照してください。
2. Planningアプリケーションを開きます。92ページのPlanningアプリケーションへのアクセスを参照してください。
3. 「管理」、「管理」、「フォームとアド・ホック・グリッド」を選択します。
4. データ・フォームを作成するには、「アクション」からオプションを選択します:
 - 単一のデータ・フォームを作成するには、「単一のフォームの作成」を選択します。
 - 複合データ・フォームを作成するには、「複合フォームの作成」を選択します。
5. フォーム・プロパティ、レイアウトおよびビジネス・ルールを定義します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。

データ・フォーム・フォルダへのアクセス権の付与

プランナ、対話型ユーザーおよび管理者にのみ、フォルダへのアクセス権を付与できます。

▶ データ・フォーム・フォルダへのアクセス権を付与するには:

1. EPM Workspaceにアクセスします。183ページのEPM Workspaceへのアクセスを参照してください。
2. Planningアプリケーションを開きます。92ページのPlanningアプリケーションへのアクセスを参照してください。

3. 「管理」、「管理」、「フォームとアド・ホック・グリッド」を選択します。
4. フォルダを選択します。
5.  をクリックします。
6.  をクリックします。
7. フォルダへのアクセス権を付与するユーザーおよびグループを選択します。



注:

現在のアプリケーションにプロビジョニングされているが、フォルダへのアクセス権を付与されていないユーザーおよびグループのみが、「アクセス権の追加」画面にリストされます。



8. 付与するアクセス権のタイプ(「読取り」、「書込み」または「なし」)を選択します。
9. 「追加」をクリックします。
10. 「OK」をクリックします。
11. アクセス権の追加ウィンドウで、「閉じる」をクリックします。
12. アクセス権の割当てウィンドウで、「閉じる」をクリックします。

データ・フォームへのアクセス権の付与

プランナは、アクセス権のあるデータ・フォームのみ表示またはデータ入力することが可能です(また、アクセス権のあるメンバーに対してのみ作業を行うことが可能です)。管理者および対話型ユーザーは、すべてのデータ・フォームに対してデザイン変更のための書込みアクセス権を持ちます。

プランナと対話型ユーザーにのみ、データ・フォームへのアクセス権を付与できます。

▶ データ・フォームへのアクセス権を付与するには:

1. Planningアプリケーションを開きます。[92ページのPlanningアプリケーションへのアクセス](#)を参照してください。
2. 「管理」、「管理」、「フォームとアド・ホック・グリッド」を選択します。
3. アクセス権を付与するフォームが含まれるフォルダを選択します。
4. 「フォームとアド・ホック・グリッドの管理」で、フォームを選択します。
5.  をクリックします。
6. アクセス権の割当てウィンドウで、
 をクリックします。
7. フォームへのアクセス権を付与するユーザーまたはグループを選択します。



注:

現在のアプリケーションにプロビジョニングされているが、フォームへのアクセス権を割り当てられていないユーザーおよびグループのみが、アクセス権の追加ウィンドウにリストされます。

8. 付与するアクセス権のタイプ(「読取り」、「書込み」または「なし」)を選択します。


9. 「追加」をクリックします。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
10. アクセス権の追加ウィンドウで、「閉じる」を選択します。
11. アクセス権の割当てウィンドウで、「閉じる」を選択します。

タスク・リストの操作

タスク・リストはタスク、手順および期限を一覧表示し、プランニング・プロセスを通してユーザーをガイドします。管理者および対話型ユーザーが、タスクおよびタスク・リストを作成、管理します。タスク・リスト・アクセス・マネージャの役割が付与されたユーザーは、タスク・リストおよびタスクへのアクセス権を割り当てることができます。

タスク・リスト・フォルダの作成


▶ タスク・リスト・フォルダを作成するには:

1. Planningアプリケーションを開きます。[92ページのPlanningアプリケーションへのアクセス](#)を参照してください。
2. 「管理」、「管理」、「タスク・リスト」の順に選択します。
3. 「タスク・リストの管理」で、タスク・リスト・フォルダを選択して
 をクリックします。
4. フォルダ名を入力します。
5. 「OK」をクリックします。

タスク・リストの作成


タスク・リストは、タスクの体系化に役立ちます。管理者および対話型ユーザーが、タスクおよびタスク・リストを作成、管理します。

▶ タスク・リストを作成するには:

1. Planningアプリケーションを開きます。[92ページのPlanningアプリケーションへのアクセス](#)を参照してください。
2. 「管理」、「管理」、「タスク・リスト」の順に選択します。
3. 「タスク・リストの管理」から、タスク・リストを保管するフォルダを選択します。
4. 「タスク・リスト」で、
 をクリックします。
5. タスク・リストの名前を入力し、「OK」をクリックします。

タスクの作成

▶ タスクを作成するには:

1. Planningアプリケーションを開きます。[92ページのPlanningアプリケーションへのアクセス](#)を参照してください。
2. 「管理」、「管理」、「タスク・リスト」の順に選択します。
3. 「タスク・リストの管理」から、タスクを追加するタスク・リストを含むフォルダを選択します。
4. 「タスク・リスト」から、タスク・リストを選択します。
5.  をクリックします。
6. タスク・リストの編集ウィンドウで、





を選択します。

7. 情報を入力して、タスクを作成します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
8. 「保存」をクリックします。

タスク・リストへのアクセス権の付与

▶ タスク・リストへのアクセス権を付与するには:

1. Planningアプリケーションを開きます。92ページのPlanningアプリケーションへのアクセスを参照してください。
2. 「管理」、「管理」、「タスク・リスト」の順に選択します。
3. 「タスク・リストの管理」から、タスク・リスト・フォルダを選択します。
4. タスク・リストを選択します。
5.  をクリックします。
6. アクセス権の割当てウィンドウで、
 をクリックします。
7. タスク・リストへのアクセス権を付与するユーザーまたはグループを選択します。



注:

現在のアプリケーションにプロビジョニングされているが、タスク・リストへのアクセス権を持っていないユーザーおよびグループのみが、アクセス権の追加ウィンドウにリストされます。

8. 付与するアクセス権のタイプ(割当て、管理、管理と割当て、または「なし」)を選択します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
9. 「追加」をクリックします。
10. アクセス権の追加ウィンドウで、「閉じる」を選択します。
11. アクセス権の割当てウィンドウで、「閉じる」を選択します。

Essbaseデータベースの操作

Planningアプリケーションでは、Essbaseデータベースにアウトライン、ディメンションとそのメンバー、データ・フォーム、およびフィルタを保管する必要があります。このデータベースは、Planningアプリケーションの作成プロセスの作成中に自動的に作成されないため、ユーザーが作成する必要があります。

カスタム・ディメンションとメンバー、およびデータ・フォームについてのデータは、Essbaseデータベースに自動的に書き込まれません。データベースの作成後にカスタム・ディメンションを作成した場合、データベースをリフレッシュして、その情報をデータベースに書き込む必要があります。

▶ Essbaseデータベースを操作するには:

1. Planningアプリケーションを開きます。92ページのPlanningアプリケーションへのアクセスを参照してください。
2. 「管理」、「アプリケーション」、「データベースの作成」の順に選択します。

既存のディメンション、ディメンション・メンバーおよびアクセス権限データがデータベースに自動的に書き込まれます。



注:

作成したデータベースは、Administration Servicesで、Essbaseサーバー・ノード内のPlanningアプリケーション・ノードの下にリストされます。

3. データベース・オプションを入力します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
4. 「作成」をクリックします。

アプリケーションの本番モードへの設定

デフォルトでは、新規作成されたPlanningアプリケーションは、メンテナンス・モードとなります。メンテナンス・モードでは、Planning管理者のみがアプリケーションにアクセスできます。



注:

このタスクを実行するユーザーは、Planning管理者である必要があります。

- ▶ Planningアプリケーションを本番モードに設定するには:
 1. Planningアプリケーションを開きます。[92ページのPlanningアプリケーションへのアクセス](#)を参照してください。
 2. 「管理」、「アプリケーション」、「設定」の順に選択します。
 3. 「アプリケーションを使用可能にする」で「すべてのユーザー」を選択します。このフィールドは「システム設定」タブの「アプリケーション・メンテナンス・モード」セクションにあります。
 4. 「保存」をクリックします。

Planningアプリケーションのアクセス権レポートの生成

Shared Services Consoleから現在のアクセス権限を表示し、レポートを印刷できます。

- ▶ アクセス権レポートを生成するには:
 1. Planning管理者にプロビジョニングされているユーザーとしてShared Services Consoleにアクセスします。[183ページのShared Servicesへのアクセス](#)を参照してください。
 2. ビュー・ペインで、「アプリケーション・グループ」を展開します。
 3. Planningアプリケーションを含むアプリケーション・グループ(例: Planning)を展開します。
 4. アプリケーションを右クリックし、「アクセス権レポート」を選択します。
 5. レポートが生成される対象を次から選択します。
 - ユーザーまたはグループ
 - アプリケーション・オブジェクト
 6. レポートの設定を行います。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
 7. 「終了」をクリックします。

10

Financial Management のプロビジョニング

この項の内容:

Financial Managementのセキュリティ・モデル	107
前提条件	107
EPM System製品へのアクセス	109
Financial Managementのプロビジョニング・プロセス	109

Financial Managementのセキュリティ・モデル

Oracle Hyperion Financial Managementの役割は、Shared Services Consoleからユーザーに割り当てられます。データ・セキュリティは、エンティティ、シナリオ、カスタムなどのディメンションに指定できます。セキュリティは、Financial Managementセキュリティ・クラスと呼ばれるもので各ディメンションに独立して定義できます。Financial Managementセキュリティ・クラスは、1つのディメンションの特定のメンバー・セットに対してアクセス権(変更、表示など)を定義します。通常、セキュリティ・クラスは、ユーザー・グループに割り当てられます。アーティファクト(仕訳、Webフォーム、Webグリッドおよびタスク・リスト)にもセキュリティ・クラスが割り当てられます。



注:

異なるディメンションのメンバーの交差に対しては、セキュリティ・クラスを定義できません。

Financial Managementでは、独自のネイティブ・インターフェースを使用して、データ・セキュリティを定義します。また、データ・セキュリティ情報の独自のリポジトリが管理されています。ユーザーおよびグループへのデータ・セキュリティの割当ては、Shared Services Consoleを使用して実行します。

前提条件

サブトピック

- [Foundation Services](#)
- [Foundation Services Webサーバー](#)
- [Performance Management Architect \(オプション\)](#)
- [リレーショナル・データベース](#)

Foundation Services

- Foundation Servicesが実行されていること。Foundation Servicesを開始すると、次のコンポーネントが開始されます:
 - Shared Services
 - EPM Workspace
- **オプション:** Financial Managementのユーザーおよびグループの情報のソースである外部ユーザー・ディレクトリがShared Servicesで構成されていること。

Foundation Services Webサーバー

Foundation Services Webサーバーが実行されている必要があります。

Performance Management Architect (オプション)

Performance Management Architectは、アプリケーション・ライブラリを使用してFinancial Managementアプリケーションを作成する場合に必要です。アプリケーション・ライブラリおよびディメンション・ライブラリなどのPerformance Management Architectコンポーネントへは、EPM Workspaceを介してアクセスします。

- Performance Management Architectサーバーが稼働しています。
- Performance Management Architectが稼働しています。

『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

- Performance Management Architect Webサーバーが稼働しています。

リレーショナル・データベース

Financial Managementアプリケーション・データを保管するには、十分な権限が割り当てられたリレーショナル・データベース・アカウントが使用可能である必要があります。

サポートされているデータベース・プラットフォームおよび必要な権限については、*Oracle Enterprise Performance Management Systemインストール概要*を参照してください。

EPM System製品へのアクセス

プロビジョニング・プロセスの実行中に、Shared ServicesやEPM WorkspaceなどのEPM System製品にアクセスする必要があります。次のトピックを参照してください:

- [11ページのShared Services Consoleの起動](#)
- [183ページのEPM Workspaceへのアクセス](#)
- [184ページのAdministration Servicesコンソールへのアクセス](#)

Financial Managementのプロビジョニング・プロセス

サブトピック

- プロセスの概要
- クラシック・アプリケーションの作成
- Performance Management Architect Financial Managementアプリケーションの作成
- グループへのFinancial Managementアプリケーションの役割のプロビジョニング
- セキュリティ・クラスの作成
- Financial Managementアーティファクトの作成
- セキュリティ・クラスのプロビジョニング

クラシック・アプリケーション管理、アプリケーション・ライブラリおよびFinancial Management Desktopを使用して、Financial Managementアプリケーションを作成できます。この中で、クラシック・アプリケーション管理とアプリケーション・ライブラリ・インタフェースは、EPM Workspaceを介してアクセスします。

クラシック・アプリケーション管理およびFinancial Management Desktopを介して作成されるFinancial Managementアプリケーションは、クラシックFinancial Managementアプリケーションと呼ばれます。クラシック・アプリケーションは、カレンダーや言語を定義する独自のプロファイルを持つスタンド・アロン・アプリケーションです。クラシック・アプリケーションは、そのディメンションを定義する独自のメタデータ・ファイルを持ちます。クラシック・アプリケーションでは、ディメンションおよびメンバーが他のFinancial Managementアプリケーションと共有されません。Performance Management Architectのアプリケーション・ライブラリを使用して作成されるFinancial Managementアプリケーションでは、ディメンションやメンバーが他のアプリケーションやPlanningアプリケーションと相互に共有されます。

クラシックおよびPerformance Management Architectアプリケーションでは、そのセキュリティ・クラスを使用してメタデータをロードまたはデプロイする前にセキュリティ・クラスを作成する必要があります。Performance Management Architectアプリケーションでは、セキュリティ・クラスおよびメタデータのデプロイメントは同時に発生することがあります。クラシック・アプリケーションでは、セキュリティ・クラスはメタデータをアプリケーションにロードする前に使用可能になっている必要があります。

クラシック・アプリケーションとPerformance Management Architect Financial Managementアプリケーションの主な違いは、アーティファクトレベルのセキュリティの定義方法です。クラシックFinancial Managementアプリケーションでは、アプリケーションの作成後にセキュリティ・クラスを作成またはロードできますが、Performance Management Architect Financial Managementアプリケーションではできません。アプリケーションの作成中に、セキュリティ・クラスのメンバーを定義し、セキュリティ設定が可能なディメンション・メンバーに割り当てる必要があります。

Financial Managementアプリケーションの動作は、どのように作成されたかにかかわらず同じです。

プロセスの概要

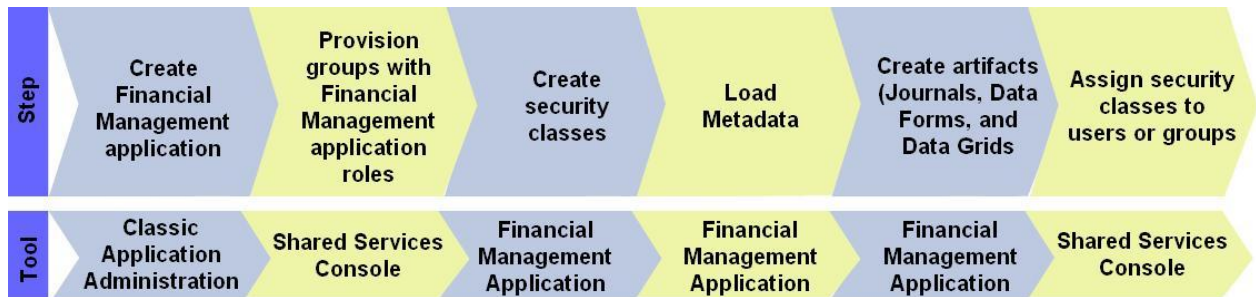
EPM Workspaceのクラシック・アプリケーション管理のメニュー・オプションを使用したFinancial Managementアプリケーションの作成およびそれらのプロビジョニングの手順を次の図に示します。



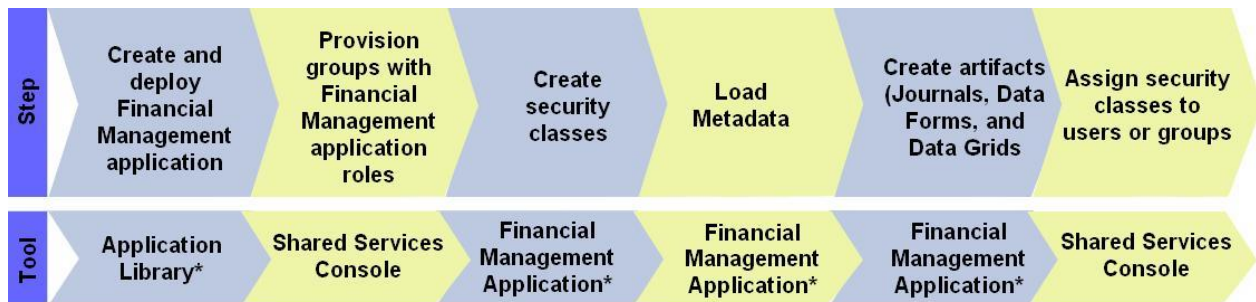
注:

このドキュメントでは、Financial Management Desktopを使用したアプリケーションの作成手順については説明していません。手順については、『Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド』を参照してください。

プロビジョニング・プロセスは、Financial Managementアプリケーションがどのように作成されたかにかかわらず同じです。



Performance Management Architectアプリケーション・ライブラリを使用したFinancial Managementアプリケーションの作成およびそれらのプロビジョニングの手順を次の図に示します。



* Accessed through EPM Workspace

クラシック・アプリケーションの作成

クラシックFinancial Managementアプリケーションの作成には、次の手順が含まれます:

- [112ページ](#)のアプリケーション・プロファイルの作成
- [112ページ](#)のクラシックFinancial Managementアプリケーションの作成

アプリケーション・プロファイルの作成

アプリケーション・プロファイルには、アプリケーションの言語、カレンダー、頻度および期間の情報が含まれています。作成するアプリケーションごとにプロファイルを指定する必要があります。1つのプロファイルを複数のアプリケーションに対して使用できます。



注:

アプリケーション・プロファイルは、EPM WorkspaceからダウンロードできるFinancial Managementクライアントを使用して作成します。

▶ アプリケーション・プロファイルを作成するには:

1. Financial Managementクライアントで、**アプリケーション・プロファイルの定義**を選択します。
2. **新規アプリケーション・プロファイルの作成**を選択します。
3. 「次へ」をクリックします。
4. 次の設定を入力します:

- アプリケーションの言語
- カレンダー
- 頻度
- 期間

各設定の入力の詳細は、『Oracle Hyperion Financial Management管理者ガイド』を参照してください。

5. プロファイルの保存画面で、プロファイル名を入力し、「終了」をクリックします。

デフォルトでは、アプリケーション・プロファイルは、ファイル拡張子 .per が付けられ、EPM_ORACLE_HOME/products/FinancialManagementに保管されます。例: C:/Oracle/Middleware/EPMSystem11R1/products/FinancialManagement/Sample Apps\APP_NAME/Profileprofile2.per

クラシックFinancial Managementアプリケーションの作成

クラシックFinancial Managementアプリケーションは、EPM Workspaceに含まれるクラシック・アプリケーション管理のメニュー・オプションを使用して作成します。

▶ クラシックFinancial Managementアプリケーションを作成するには:

1. EPM Workspaceにアクセスします。[183ページ](#)のEPM Workspaceへのアクセスを参照してください。
2. 「ナビゲート」、「管理」、「連結管理」の順に選択します。
3. 「連結管理」から、「管理」、「アプリケーション」の順に選択します。

4. 「アプリケーション」から、「アクション」、「作成」の順に選択します。
5. 「アプリケーション名」にアプリケーション名を入力します。最大で10文字の英数字または12バイトです。アプリケーション名は、数字で始めたり、アンパサンド(&)やアスタリスク(*)などの特殊文字を含むことはできません。
6. 「アプリケーション・プロファイル」で、このアプリケーションに使用するプロファイルを選択します。 [112ページのアプリケーション・プロファイルの作成](#)を参照してください。
7. 「ユーザー管理プロジェクト」で、アプリケーションを追加する既存のShared Servicesアプリケーション・グループを選択します。

必要に応じて、Shared Servicesにカスタム・アプリケーション・グループを作成できます。

8. 「セキュリティ管理用のFinancial Management WebサーバーURL」に、Financial Management WebサーバーのURLを入力します。
9. 「作成」をクリックします。



注:

作成したFinancial Managementアプリケーションは、Shared Services Console内の、[113ページのステップ 7](#)で選択したアプリケーション・グループを表すノードの下にリストされます。

Performance Management Architect Financial Managementアプリケーションの作成

Performance Management Architect Financial Managementアプリケーションは、EPM Workspaceからアクセスするアプリケーション・ライブラリを使用して作成されます。

- ▶ Performance Management Architect Financial Managementアプリケーションを作成するには
 1. EPM Workspaceにアクセスします。 [183ページのEPM Workspaceへのアクセス](#)を参照してください。
 2. 「ナビゲート」、「管理」、「アプリケーション・ライブラリ」の順に選択します。
 3. アプリケーション・ライブラリで、「ファイル」、「新規」、「アプリケーション」の順に選択します。
 4. 「名前」に、アプリケーション名(最大8文字)を入力します。アプリケーション名には、特殊文字(スペース、アスタリスクなど)を含めないでください。
 5. 「タイプ」で、「連結」または「税引当」を選択します。

追加フィールドが画面に表示されます。



注:

ディメンション・ライブラリからディメンションをドラッグできる、空のアプリケーションを作成できます。空のアプリケーションを作成するには、「ブランク・アプリケーションの作成」を選択して、「終了」をクリックします。

6. オプション: アプリケーションに必要なディメンションを自動作成するには、「ローカル・ディメンションの自動作成」を選択します。

各新規ディメンションのディメンション名は、ディメンション・タイプにカッコで囲んだ(新規)が付いた名前になります。ローカル・ディメンションを自動的に作成すると、アプリケーションの作成に必要なディメンションが追加されるため、時間を節約できます。

7. 「アプリケーション・タイプ」で、作成するアプリケーションのタイプ(「標準集計」または「税引当」)を選択します。
8. 「次へ」をクリックします。
9. 「ディメンションの選択」で、アプリケーションのディメンションを選択します。必要なデフォルト・ディメンション(エンティティ、勘定科目、シナリオ、年、期間、ICP、表示、値、別名、通貨、連結メソッド、セキュリティ・クラス、カスタムへ、およびカスタムから)をローカル・ディメンションとして作成する必要があります。



注:

セキュリティ・クラスは、必ずセキュリティ・クラス・ディメンションのメンバーとして作成してください。セキュリティ・クラス・ディメンションのメンバーを勘定科目ディメンションのメンバーに関連付け、勘定科目ディメンションのメンバーのセキュリティ・クラスを定義してください。

- a. 「ディメンション」列をクリックし、「新規ディメンションの作成」を選択します。
 - b. 新規ディメンションの追加ウィンドウで、ディメンション名およびオプションの説明を入力します。
 - c. 「OK」をクリックします。
10. 「次へ」をクリックし、作成したディメンションに値を設定します。
 11. 「検証」をクリックしてアプリケーションを検証します。エラーが報告された場合は修正します。ライブラリ・ジョブ・コンソールで詳細な検証情報を確認できます。ライブラリ・ジョブ・コンソールを開くには、「ナビゲート」、「管理」、「ライブラリ・ジョブ・コンソール」の順に選択します。
 12. 「終了」をクリックします。

ディメンション・ライブラリから、アプリケーション・ディメンションのメンバーを追加できます。アプリケーションのアイコンがアプリケーション・ライブラリに表示されます。

13. アプリケーションをデプロイします:
 - a. 「アプリケーション・ライブラリ」で、「Financial Management」アプリケーションを右クリックします。
 - b. 「デプロイ」、次に「アプリケーション」を選択します。

Performance Management Architectにより、アプリケーションが検証されます。エラーが見つからなかった場合、デプロイウィンドウが開きます。

- c. 必要な情報を入力または選択します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
- d. 「デプロイ」をクリックします。

デプロイメント・プロセスが終了するまで、時間がかかる場合があります。デプロイメント・プロセスの進捗状況や報告されたエラーの追跡に使用できるデプロイメント・ジョブIDが、Performance Management Architectにより表示されます。

グループへのFinancial Managementアプリケーションの役割のプロビジョニング


各Financial Managementインスタンス(デプロイメント)は、複数のアプリケーションをサポートできます。Financial Managementユーザーを各アプリケーションに対して別々にプロビジョニングする必要があります。

Shared Services管理者およびFinancial Managementプロビジョニング・マネージャは、Shared Services Consoleを使用してFinancial Managementアプリケーション・ユーザーをプロビジョニングできます。

- ▶ ユーザーまたはグループにFinancial Managementアプリケーションの役割をプロビジョニングするには:

1. 機能の管理者、またはプロビジョニングするFinancial Managementアプリケーションのプロビジョニング・マネージャの役割がプロビジョニングされたユーザーとして、Shared Services Consoleにアクセスします。183ページのShared Servicesへのアクセスを参照してください。
2. ユーザーまたはグループをFinancial Managementアプリケーションにプロビジョニングします。
 - a. プロビジョニングするユーザーまたはグループを見つけます。
 - b. ユーザーまたはグループを右クリックし、「プロビジョニング」を選択します。
 - c. オプション: ビューを選択します。

役割は、階層(ツリー)またはリストに表示できます。階層をドリルダウンし、使用可能な役割を表示する必要があります。リスト・ビューでは、使用可能な役割が表示されますが、階層は表示されません。

- d. 「使用可能な役割」で、Financial Managementアプリケーションを含むアプリケーション・グループ(例: Financial Management)を展開します。
- e. 対象のアプリケーションを表すノードを展開します。
- f. ユーザーまたはグループに割り当てる役割を選択し、をクリックします。

Financial Managementの役割のリスト、およびアクセスが許可されるタスクについては、115ページの表 7を参照してください。

表7 Financial Managementの役割

役割	説明
パワー役割	
アプリケーション管理者	すべてのFinancial Managementタスクを実行します。この役割のアクセス権はユーザーが持つ他のアクセス設定をオーバーライドします。
システムのロード	ルールとメンバーのリストをロードします
内部取引の管理	期間の開始と終了、エンティティのロックと解除、理由コードの管理などを行います。この役割のユーザーはすべての内部タスクも実行します。
対話型役割	
ルール管理者	特定のアプリケーションに対してOracle Hyperion Calculation Managerタスクを実行します
ルール・デザイナー	新しいルール・オブジェクトの作成、ルール・オブジェクトの変更または削除を行います
仕訳の承認	仕訳の承認または拒否します
仕訳の作成	仕訳の作成、変更、削除、送信、未送信などを行います
貸借不一致の仕訳の作成	貸借不一致の仕訳を作成します
デフォルト	アプリケーションの開始と終了、ドキュメントとお気に入りの管理、Smart Viewの管理、実行中のタスクおよびデータ・タスクへのアクセス、タスクのロードと抽出を実行します。メタデータまたはルールの抽出はできません。フォルダを作成できません。

役割	説明
仕訳管理者	仕訳に関連したすべてのタスクを実行します
仕訳の転記	仕訳の転記と転記の戻しを実行します
テンプレートの管理	仕訳の管理のために仕訳テンプレートへのアクセス権を付与します
繰返しの生成	仕訳の管理のために繰返しの生成タスクへのアクセス権を付与します
スーパーバイザの確認	プロセス管理ユニットの開始とプロセス管理データの承認およびパブリッシュを行います。プロセス・レベルに応じてプロセス・ユニットのレベルを上げたり、または拒否したりできます。プロセス管理グループをフェーズに割り当てます。
レビュー担当者1から10	データがユーザーの指定プロセス・レベルにあるとき、データのブロックを表示および編集します
送信者	最終的な承認のためにデータのブロックを送信します
データのロック	データ・エクスプローラでデータをロックします
データのロック解除	データ・エクスプローラでデータのロックを解除します
すべて集計	すべて集計を実行します
集計	集計を実行します
データを含むすべてを集計	すべてのデータで集計を実行します
配賦の実行	配賦を実行します
データ入力フォームの管理	Webでデータ入力フォームを管理します
サーバーでのシステム・レポートの保存	サーバーでシステム・レポートを保存します
Excelデータのロード	Smart Viewからデータをロードします
内部取引ユーザー	取引の作成、編集、削除、ロード、抽出を実行します。勘定科目またはID別に照合レポートを実行したり、取引レポートの実行や複数モジュールでドリルします。
内部取引照合テンプレート	内部取引の照合テンプレートを管理します
勘定科目による内部取引の自動照合	勘定科目ごとに内部取引を自動照合します
IDによる内部取引の自動照合	IDごとに内部取引を自動照合します
許容差による内部取引の手動照合	許容差の確認をしながら、内部取引を手動で照合します
内部取引の手動照合	内部取引を手動で照合します
内部取引の照合解除	内部取引の照合を解除します
内部取引の転記/転記の戻し	内部取引の転記および転記の戻しを実行します
Webグリッドでの書戻しの使用可能	Webグリッドに直接データを入力し、保存します
データベース管理	データをコピーおよびクリアして、無効なレコードを削除します
所有権の管理	所有者情報を入力および編集します

役割	説明
カスタム・ドキュメントの管理	サーバーとの間でカスタム・ドキュメントをロードおよび抽出します
拡張分析	データベースにデータをエクスポートします
Excelから書き戻すデータ・フォーム	Webデータ入力フォームを使用してSmart Viewからデータを送信します
ビュー役割	
上級ユーザー	ブラウザ・ビューを使用して実行中のタスクにアクセスできます。フォルダを作成します。
ルール・ビューア	ルール・オブジェクトを表示します
仕訳の読取り	仕訳を読み取ります
プロセス・コントロールの電子メール・アラートを受信	電子メールを受信します
内部取引の電子メール・アラートを受信	電子メールを受信します
予約済	現在は使用されていません
データ監査の表示	データ監査情報を表示およびエクスポートします
タスク監査の表示	タスク監査情報を表示およびエクスポートします

g. 「保存」をクリックします。

ダイアログ・ボックスに正常に終了したプロビジョニングが表示されます。

h. 「OK」をクリックします。

3. プロビジョニングを行う各Financial Managementアプリケーションについて、[115ページのステップ 2](#)を繰り返します。

セキュリティ・クラスの作成

セキュリティ・クラスは通常、メタデータ要素またはアプリケーション・アーティファクト(Webフォーム、Webグリッドなど)のグループで、これによりアプリケーション要素に対するユーザーのアクセス権が決まります。セキュリティ・クラスは、メタデータ要素またはアーティファクトに割り当てられます。ユーザーおよびグループにはセキュリティ・クラスの権限が割り当てられます。

クラシック・アプリケーション

セキュリティ・クラスはいつでも作成できます。プロビジョニング・マネージャおよびShared Services管理者のみが、アプリケーションのセキュリティ・クラスを定義できます。

クラシックFinancial Managementアプリケーションのセキュリティ・クラスを、セキュリティ(.sec)ファイルからロードできます。『Oracle Hyperion Financial Management管理者ガイド』のアプリケーション・セキュリティのロードに関する項を参照してください。

Performance Management Architectアプリケーション

Performance Management Architect Financial Managementアプリケーションの場合、セキュリティ・クラスは、セキュリティ・クラス・ディメンションのメンバーとして作成されます。セキュリティ・クラス・ディメンションのメンバーは、勘定科目ディメンションのメンバーへのアクセスを制御するセキュリティ・クラスを定義するために、勘定科目ディメンションのメンバーに割り当てられます。

Financial Managementアーティファクトの作成

Financial Managementセキュリティは、セキュリティ・クラスと呼ばれるもので各ディメンションに対して独立して定義されます。セキュリティ・クラスは、ディメンションのメンバー・セットに対するアクセス権を定義します。通常、セキュリティ・クラスは、ユーザー・グループおよびFinancial Managementアーティファクト(仕訳、Webフォーム、Webグリッド、タスク・リスト)に割り当てられます。Financial Managementアーティファクトを作成し、それらにセキュリティ・クラスを割り当てることにより、アクセスを制御します。

仕訳、データ・フォームおよびデータ・グリッドへのアクセスは、各アーティファクトに割り当てられたセキュリティ・クラスによって制御されます。アーティファクトに割り当てられたセキュリティ・クラスをプロビジョニングされたユーザーおよびグループは、Financial Managementアプリケーション内のアーティファクトにアクセスできます。

仕訳のロード

外部の総勘定元帳システムの多くは、仕訳情報を含むASCIIテキスト・ファイルを生成します。ASCIIテキスト・ファイルは、Financial Managementのアプリケーションにロードできます。必要な場合、ASCIIファイルはFinancial Managementアプリケーションにロードする前に編集できます。

仕訳ファイルのモデルを作成するために使用できるサンプル仕訳(.jlf)ファイルが、`EPM_ORACLE_HOME/products/FinancialManagement/SampleApps`ディレクトリに用意されています。

仕訳は、置換モードでロードされます。これにより、新しい仕訳データがロードされる前に、仕訳ラベルのデータすべてがクリアされます。Financial Management管理者は、作業中、却下済、提出済、承認済および転記済の仕訳と、標準および繰返しの仕訳テンプレートをロードできます。



注:

仕訳をロードする前に、仕訳をロードする期間を開いておく必要があります。『Oracle Hyperion Financial Managementユーザー・ガイド』の期間の管理に関する項を参照してください。

作業中および提出済の仕訳のみ置換できます。承認済または転記済の仕訳は上書きできません。

▶ 仕訳をロードするには:

1. Financial Managementアプリケーションを開きます。
2. 「アプリケーション・タスク」を展開し、「ロード」、「仕訳」の順に選択します。
3. 仕訳ファイルに、ロードするファイル名を入力するか、「参照」をクリックしてロードするファイルを見つけます。
4. 「区切り文字」に、ファイル内の情報を区切るために使用する文字を指定します。
5. 必要に応じて、その他の設定を指定します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
6. 「ロード」をクリックします。

データ・フォームの作成

通常、Financial Managementユーザーは、データ・フォームを使用して、Webブラウザなどのインタフェースからデータベースにデータを入力したり、データや関連テキストを表示、分析できます。データ・フォームを作成するには、次の2つの方法があります:

- スクリプトを使用する
- フォーム・ビルダーを使用する

データ・フォームのスクリプト構文については、『Oracle Hyperion Financial Management管理者ガイド』を参照してください。

データ・フォームを作成するには、Financial Management管理者であるか、データ入力フォームの管理者としての役割が割り当てられている必要があります。

▶ フォーム・ビルダを使用してデータ・フォームを作成するには:

1. Financial Managementアプリケーションを開きます。
2. 「ドキュメント・マネージャ」で、「新規」、「データ・フォーム」の順に選択します。
3. 「管理」、「ドキュメントの管理」、「データ・フォーム」の順に選択します。
4. 「新規」をクリックします。
5. POV情報、行および列情報、オプションでフォーム詳細を入力します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
 - フォームをスキャンして構文が正しいか調べるには、「スキャン」を選択します。
 - フォームの値をリセットするには、「リセット」を選択します。
6. 「アクション」、「保存」の順に選択します。
7. データ・フォーム名およびデータ・フォームを保管するディレクトリを指定します。



注:

エラーがない場合のみ、データ・フォームはFinancial Managementによって保存されます。

データ・グリッドの作成

データ・グリッドにより、ユーザーは、Financial Managementアプリケーションのデータを手動で入力または編集できます。

▶ データ・グリッドを作成するには:

1. Financial Managementアプリケーションを開きます。
2. 「ドキュメント・マネージャ」で、「新規」、「データ・グリッド」の順に選択します。
3. 「新規データ・グリッド」をクリックします。
4. POV情報、行および列情報、およびグリッド表示オプションを入力します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
5. 「アクション」、「保存」の順に選択します。
6. データ・グリッドの名前、説明、セキュリティ・クラスおよび場所、ならびにデータ・グリッドを保管するディレクトリを指定します。



注:

エラーがない場合のみ、データ・グリッドはFinancial Managementによって保存されます。

セキュリティ・クラスのプロビジョニング

セキュリティ・クラスにより、Financial Managementアプリケーションに対してユーザーが持つアクセス権が決まります。セキュリティ・クラスは、勘定科目やエンティティなどのアプリケーション要素に割り当てます。ユーザーまたはグループがアプリケーション要素にアクセスできるかどうかは、ユーザーまたはグループにアクセス権が付与されるセキュリティ・クラスによって異なります。

仕訳、データ・フォームおよびデータ・グリッドへのアクセスは、各アーティファクトに割り当てられたセキュリティ・クラスによって制御されます。アーティファクトに割り当てられたセキュリティ・クラスをプロビジョニングされたユーザーおよびグループは、Financial Managementアプリケーション内のアーティファクトにアクセスできます。

▶ セキュリティ・クラスへのアクセス権を付与するには:

1. Shared Services管理者、またはアクセス制御を定義するFinancial Managementアプリケーションのアプリケーション管理者として、Shared Services Consoleにアクセスします。[183ページのShared Servicesへのアクセス](#)を参照してください。
2. ビュー・ペインで、次の手順を実行します:
 - a. 「アプリケーション・グループ」を展開します。
 - b. 対象のFinancial Managementアプリケーションを含むアプリケーション・グループを展開します。
 - c. セキュリティの役割へのアクセス権を設定するFinancial Managementアプリケーションを右クリックし、「アクセス権の割当て」を選択します。

選択したアプリケーションからの役割がプロビジョニングされているユーザーおよびグループは、その現在のセキュリティ・クラスの割当てとともに、「アプリケーション」にリストされます。セキュリティ・クラスは、これらのユーザーとグループにのみ割り当てることができます。

3. オプション: クラシック・アプリケーションのセキュリティ・クラスを追加します。
 - a. 「アクション」から、「セキュリティ・クラスの追加」を選択します。
 - b. 「クラス名」に、新規のセキュリティ・クラスの名前を入力します。
 - c. 「OK」をクリックします。
4. 「アプリケーション」で、各ユーザーまたはグループが持つアクセス権を各セキュリティ・クラスに設定します。デフォルトでは、新しくプロビジョニングされたアプリケーション・ユーザーおよびグループにはアクセス権が付与されません。説明が必要な場合は、[オンライン・ヘルプ](#)を参照してください。
 - 1つのユーザーまたはグループのセキュリティ・クラスのすべてのアクセス割当てを変更するには、そのユーザーまたはグループの名前を右クリックしてアクセス・レベルを選択します。
 - 多くのユーザーおよびグループのセキュリティ・クラスのアクセス割当てレベルをすべて同じに設定するには、[Ctrl]キーを押しながらそのユーザーまたはグループの名前を右クリックしてアクセス・レベルを選択します。
 - 1つのセキュリティ・クラスのアクセス・レベルを変更するには、アクセス・レベルのリストが含まれるセルを右クリックしてレベルを選択します。

使用可能なアクセス・レベルは、[121ページの表 8](#)で説明されています。

表8 アーティファクトでのユーザー・アクセス・レベル

アクセス・レベル	許可されたタスク
なし	セキュリティ・クラスに割り当てられた要素へのアクセス権がありません。

アクセス・レベル	許可されたタスク
メタデータ	リスト中の指定したメンバーを表示できますが、メンバーのデータについては表示も変更もできません。
読取り	セキュリティ・クラスに割り当てられた要素のデータを表示できますが、レベルを上げたり却下したりできません。
レベルを上げる	セキュリティ・クラスに割り当てられた要素のデータを表示し、レベルを上げたり、却下したりできます。
すべて	セキュリティ・クラスに割り当てられた要素のデータを変更し、レベルを上げたり却下したりできます。

5. 「アクション」から、「保存」を選択します。
6. オプション: 「アクション」を選択して「セキュリティ・レポート」を選択すると、セキュリティ・レポートを生成して、プロビジョニングされたユーザーおよびグループにセキュリティ・クラスが適切に割り当てられているかどうかを確認できます。



Reporting and Analysis のプロビジョニング

この項の内容:

Reporting and Analysisのセキュリティ・モデル	123
前提条件	123
EPM System製品へのアクセス	125
Reporting and Analysisのプロビジョニング・プロセス	126

Reporting and Analysisのセキュリティ・モデル

Oracle Hyperion Reporting and Analysisの役割は、Shared Services Consoleからユーザーに割り当てられます。グローバルな役割に加えて、フォルダやドキュメント(レポート、チャート、ダッシュボードなど)のReporting and Analysisアーティファクトでアクセス・プリファレンスを指定できます。通常、これらのアーティファクトへのアクセス権限は、ユーザー・グループに割り当てられます。

Financial Reporting, Oracle Hyperion Interactive Reporting, Web AnalysisなどのReporting and Analysis製品で、有用なレポートおよびダッシュボードを作成するには、データ・ソース(Essbase、Financial Managementなど)のデータにアクセスする必要があります。Reporting and Analysis製品がアクセスするデータは、データ・ソースが所有しているため、データ・ソースとReporting and Analysis間には相互にプロビジョニングの依存関係があります。たとえば、ユーザーJDoeにReporting and Analysisの役割がプロビジョニングされており、EssbaseアプリケーションEsb_Demo1にはプロビジョニングされていないとします。このシナリオでは、ユーザーがEssbaseにjDoeとしてログインすると、JDoeは、Web Analysisを使用してEsb_Demo1のデータを分析できません。ただし、このユーザーはEssbaseアプリケーションにプロビジョニングされた別のユーザーとしてEssbaseにログインすることができます。

前提条件

サブトピック

- [Foundation Services](#)
- [Foundation Services Webサーバー](#)
- [Reporting and Analysisエージェント・サービス](#)
- [Reporting and Analysisコンポーネント](#)
- [データ・ソースへのアクセス](#)

Foundation Services

- Foundation Servicesが実行されていること。Foundation Servicesを開始すると、次のコンポーネントが開始されます:
 - Shared Services
 - EPM Workspace
- **オプション:** Reporting and Analysisのソースのユーザーおよびグループの情報である外部ユーザー・ディレクトリがShared Servicesで構成されていること。

Foundation Services Webサーバー

Foundation Services Webサーバーが実行されている必要があります。

Reporting and Analysisエージェント・サービス

Reporting and Analysis エージェント・サービスが実行している必要があります。

Reporting and Analysisコンポーネント

ユーザーおよびグループをプロビジョニングするReporting and Analysisコンポーネントおよびそのツールが実行されている必要があります。Reporting and Analysisコンポーネントおよびツール:

- Financial Reporting
- Interactive Reporting
- Oracle Hyperion SQR Production Reporting
- Web Analysis
- Financial Reporting Studio
- Interactive Reporting Studio
- Production Reporting Studio
- Oracle Hyperion Web Analysis Studio

データ・ソースへのアクセス

Reporting and Analysisのユーザーおよびユーザー・グループには、データへのアクセスを許可するデータ・ソースの役割がプロビジョニングされている必要があります。Reporting and Analysisのデータ・ソースには、Essbase、PlanningおよびFinancial Managementアプリケーションがあります。Interactive ReportingおよびWeb Analysisのような製品も、同様にリレーショナル・データ・ソースにアクセスできます。

Essbase (オプション)

EssbaseアプリケーションをReporting and Analysisのデータ・ソースとして使用している場合は、次が実行されていることを確認します：

- Essbaseサーバー
- データ・ソースとして使用されるEssbaseアプリケーション。Essbaseアプリケーションは、Administration Servicesから、またはMaxLコマンドを使用して開始できます。

『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

Planning (オプション)

Reporting and Analysisのデータ・ソースとして、Planningアプリケーションを使用している場合、次が実行中であることを確認します：

- Essbaseサーバー
- Planningサーバー
- データ・ソースとして使用されるPlanningアプリケーション

『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

Financial Management (オプション)

Financial ManagementアプリケーションをReporting and Analysisのデータ・ソースとして使用している場合は、次が実行されていることを確認します：

- Financial Management
- データ・ソースとして使用されるFinancial Managementアプリケーション

『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

EPM System製品へのアクセス

プロビジョニング時に、Shared ServicesやEPM WorkspaceなどのEPM System製品にアクセスする必要があります。次のトピックを参照してください：

- [11ページのShared Services Consoleの起動](#)
- [183ページのEPM Workspaceへのアクセス](#)
- [184ページのAdministration Servicesコンソールへのアクセス](#)

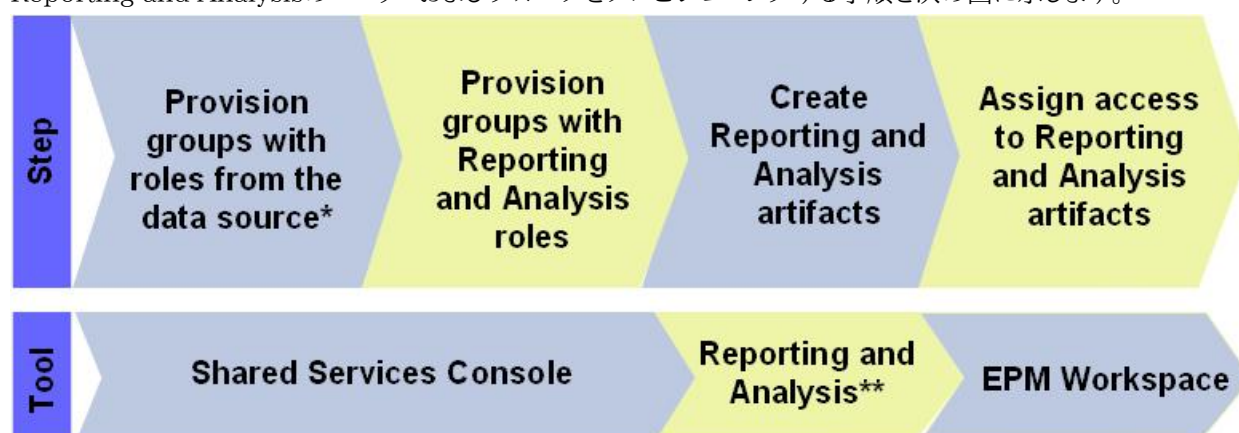
Reporting and Analysisのプロビジョニング・プロセス

プロビジョニングを容易にするため、次のReporting and Analysisの役割を機能の管理者に付与する必要があります:

- プロビジョニング・マネージャ
- Reporting and Analysis管理者
- Reporting and Analysisグローバル管理者

プロセスの概要

Reporting and Analysisのユーザーおよびグループをプロビジョニングする手順を次の図に示します。



* Data sources include Financial Management, Planning, Essbase applications, and relational databases

** Reporting and Analysis artifacts are created using tools such as Financial Reporting Studio, Production Reporting Studio, Interactive Reporting Studio, and Web Analysis

プロビジョニングの手順

サブトピック

- [データ・ソースのプロビジョニング](#)
- [ユーザーおよびグループへのReporting and Analysisの役割のプロビジョニング](#)
- [Reporting and Analysisアーティファクトの作成](#)
- [Reporting and Analysisアーティファクトへのアクセスの制御](#)

データ・ソースのプロビジョニング

Reporting and Analysisのデータ・ソースには、Essbase、PlanningおよびFinancial Managementアプリケーションがあります。Reporting and Analysisのユーザーおよびグループには、分析や表示のためにデータを取得するデータ・ソースの役割がプロビジョニングされている必要があります。通常、この手順は、Essbase、PlanningまたはFinancial Managementアプリケーションをプロビジョニングする際に行います。プロビジョニング手順の詳細は、次の章を参照してください:

- [73ページの第8章「Essbaseのプロビジョニング」](#)
- [85ページの第9章「Planningのプロビジョニング」](#)
- [107ページの第10章「Financial Managementのプロビジョニング」](#)

ユーザーおよびグループへのReporting and Analysisの役割のプロビジョニング

Reporting and Analysisの役割により、ユーザーはFinancial ReportingやWeb Analysisなどのツールにアクセスできます。これらのツールを使用してユーザーが表示および分析できるデータは、データソース内でユーザーに割り当てられている役割によって制御されます。データの表示を許可するFinancial Managementアプリケーションの役割がユーザーに割り当てられている場合、そのユーザーは、Financial Reporting内のFinancial Managementアプリケーション・データを表示できます。

- ▶ ユーザーまたはグループにReporting and Analysisの役割をプロビジョニングするには:
1. 機能の管理者、またはReporting and Analysisのプロビジョニング・マネージャの役割がプロビジョニングされたユーザーとして、Shared Services Consoleにアクセスします。 [183ページのShared Servicesへのアクセス](#)を参照してください。
 2. ユーザーまたはグループをプロビジョニングします。
 - a. プロビジョニングするユーザーまたはグループを検索します。
[13ページのユーザー、グループ、役割および委任リストの検索](#)を参照してください。
 - b. ユーザーまたはグループを右クリックし、「**プロビジョニング**」を選択します。
 - c. オプション: ビューを選択します。
役割は、階層(ツリー)またはリストに表示できます。階層をドリルダウンし、使用可能な役割を表示する必要があります。リスト・ビューでは、使用可能な役割が表示されますが、階層は表示されません。
 - d. 「**使用可能な役割**」で、Reporting and Analysisアプリケーション・グループを展開します。
 - e. ユーザーまたはグループに割り当てる役割を選択し、「**追加**」をクリックします。

Reporting and Analysisの役割のリストについては [129ページの表 9](#)を、役割の便利な組合せについては [133ページの表 10](#)を参照してください。

表9 Reporting and Analysis役割

役割	説明
パワー役割	
Reporting and Analysis管理者	<p>(ファイルが"アクセス権なし"でロックされていないかぎり)すべてのリソースへの条件付きのアクセス権を持つが、すべての機能にアクセスできるわけではありません。管理者とインパクト・マネージャのモジュールにアクセスします。</p> <p>Financial Reporting, Interactive Reporting, Production ReportingおよびWeb Analysisに適用されます</p>
Reporting and Analysisグローバル管理者	<p>すべてのリソースと機能に対して、全体的かつ暗黙的なアクセス権を持ちます。管理者とインパクト・マネージャのモジュールにアクセスします。</p> <p>注:</p> <p>Reporting and Analysisグローバル管理者がアクセスを拒否されることはありません。</p> <p>Financial Reporting, Interactive Reporting, Production ReportingおよびWeb Analysisに適用されます</p>
コンテンツ・マネージャ	<p>すべてのリソースへの暗黙的なアクセス権とともに(ファイルが"アクセス権なし"でロックされていないかぎり)、インポートされたりポジトリ・コンテンツの管理とタスクの実行を行います。データ・ソース・パブリッシャ役割を含みます。</p> <p>Financial Reporting, Interactive Reporting, Production ReportingおよびWeb Analysisに適用されます</p>
データ・ソース・パブリッシャ	<p>データ・ソース接続ファイルをインポートします</p> <p>Interactive ReportingおよびWeb Analysisに適用されます</p>
お気に入りのディストリビュータ	<p>お気に入りマネージャを使用して、ユーザーのお気に入りフォルダにコンテンツをプッシュします</p> <p>Financial Reporting, Interactive Reporting, Production ReportingおよびWeb Analysisに適用されます</p>
ジョブ・マネージャ	<p>パブリック・ジョブ・パラメータ、出力ディレクトリ、出力プリンタの場所を作成および管理します Interactive ReportingおよびProduction Reportingに適用されます</p>

役割	説明
	<p>注:</p> <p>この役割は、EPM WorkspaceからFinancial ReportingまたはWeb AnalysisにアクセスするFinancial ManagementユーザーとPlanningユーザーには適用されず、割り当ててはできません。</p>
スケジュール・マネージャ	<p>イベント、カレンダー、タイム・イベント、パブリック・パラメータ、物理リソースを作成および管理します。バッチを作成します。またスケジューラとジョブ・マネージャ役割を含みます。</p> <p>Financial Reporting、Interactive Reporting、およびProduction Reportingに適用されます</p>
プロビジョニング・マネージャ	Reporting and Analysisユーザーをプロビジョニングします
対話型役割	
アナリスト	<p>完全な分析およびレポート機能を使用して、対話型コンテンツにアクセスします</p> <p>Interactive ReportingおよびWeb Analysisに適用されます</p>
コンテンツ・パブリッシャ	<p>バッチ、ブック、レポートおよびドキュメントをインポート、保存および変更します。ショートカットとフォルダを作成および変更します。EPM Workspaceを介して、Financial Reportingでデータ・ソースとデータベース接続を削除します。</p> <p>Financial Reporting、Interactive Reporting、Production ReportingおよびWeb Analysisに適用されます。</p>
データ・エディタ	Web AnalysisデータをEssbaseにプッシュします
ジョブ・パブリッシャ*	<p>ドキュメント、ジョブ、ジョブの出力をインポートおよび変更します。ジョブを実行します。Smart Formパブリッシャ役割が含まれます。</p> <p>Interactive ReportingおよびProduction Reportingに適用されます</p>
個人用ページのパブリッシャ*	<p>個人用ページをリポジトリにパブリッシュします。ここでは他のリポジトリ・ユーザーが個人用ページを表示できます。個人用ページのエディタ役割が含まれます。</p> <p>Interactive ReportingおよびProduction Reportingに適用されます</p>
レポート・デザイナー	ドキュメントを作成および配布するためオーサリングStudioにアクセスします

役割	説明
	Financial ReportingおよびWeb Analysisに適用されま す
スケジューラ	スケジュール・モジュールを使用してジョブとバッチをスケ ジュールします。リポジトリに移動し、アクセス制御を割り当 てます。エクスプローラとジョブの実行者の役割が含まれま す。 Financial Reporting、Interactive Reporting、および Production Reportingに適用されます
Smart Formパブリッシャ*	プログラムのカスタム・フォームをロードします(フォームは ジョブの実行者にジョブの定義に使用される情報の入力 を求めます) Production Reportingに適用されます 注: Smart Formパブリッシャの機能を利用するには、ジョブ・ パブリッシャ役割を持っている必要があります。
個人用ページのエディタ*	個人用ページの作成、変更、カスタマイズを行います。他の ユーザーがパブリッシュした個人用ページからコンテンツを コピーします Interactive ReportingおよびProduction Reportingに 適用されます
ビュー役割	
ダイナミック・ビューア*	Interactive Reportingドキュメントを表示、再プロセス、 および印刷します。
エクスプローラ	エクスプローラ・モジュールと「開く」ダイアログ・ボックスを 使用するコンテキストのリポジトリ・コンテンツをリストしま す。検索、表示、コンテンツへの登録など 注: リポジトリへのアクセス権は、ファイル・プロパティと権限に よって保護された個別のファイルとフォルダへのアクセス を付与しません。 Financial Reporting、Interactive Reporting、Production ReportingおよびWeb Analysisに適用されます
Interactive Reportingビューア*	静的なInteractive Reportingドキュメントを確認および 印刷します。
IR HTMLビューア	HTMLビューアを使用してBQYドキュメントを参照します。 この役割は、前のバージョンから移行されたユーザーに自 動的には割り当てられません。

役割	説明
IR WebClientビューア	Interactive Reportingプラグインを使用してBQYドキュメントを参照します。この役割は、前のバージョンから移行されたユーザーに自動的に割り当てられません。
ジョブの実行者*	<p>ジョブを実行し、パブリック・ジョブ・パラメータと物理リソースを表示します</p> <p>Interactive ReportingおよびProduction Reportingに適用されます</p>
個人用ページのエディタ*	<p>個人用ページの作成、変更、カスタマイズを行います。他のユーザーがパブリッシュした個人用ページからコンテンツをコピーします</p> <p>Interactive ReportingおよびProduction Reportingに適用されます</p>
個人パラメータのエディタ	<p>問合せの結果設定をカスタマイズするために、データベース接続で視点と個人用パラメータを定義します</p> <p>Interactive Reporting、Production ReportingおよびWeb Analysisに適用されます</p>
ビューア	<p>EPM Workspaceコンテンツを確認します。コンテンツは静的で、お気に入りフォルダのみからアクセスできます。</p> <p>注:</p> <p>この役割は最低限のユーザー機能を提供します。他の役割を割り当てられない場合にのみ使用してください。 Financial Reporting、Interactive Reporting、Production ReportingおよびWeb Analysisに適用されます</p>
システム役割	
信頼されたアプリケーション	Interactive Reportingデータベース接続ファイル(.oce拡張子)で、資格証明が必要となるクライアント・サーバー間通信を使用可能にします。この通信では、接続、データベース・タイプ、ネットワーク・アドレスおよびデータベースのユーザー名情報がカプセル化されます。

このReporting and Analysisの役割は、Financial ReportingまたはWeb AnalysisにEPM Workspaceを介してアクセスするOracle Hyperion Financial ManagementおよびOracle Hyperion Planningユーザーに割り当ててはできません。

表10 Reporting and Analysisの役割の組合せ

組み合せた役割	タスク	アクセス権限
エクスプローラ+お気に入りのディストリビュータ+個人用ページのエディタ+個人パラメータのエディタ	<ul style="list-style-type: none"> • EPM WorkspaceでのWeb AnalysisとFinancial Reportingの対話型コンテンツの確認 • リポジトリ・コンテンツの一覧化とリポジトリ・コンテンツへの登録 • Web Analysis Studioにおけるアクセス可能な対話型コンテンツの確認 • 個人用ページへのアクセス • お気に入りマネージャへのアクセス • 問合せ結果の設定をカスタマイズするために、Web Analysisの視点、個人用変数、個人用パラメータを定義 	コンテンツを変更せず、または変更点をリポジトリに保存せずに対話型コンテンツを共有
エクスプローラ+アナリスト+コンテンツ・パブリッシャ	<ul style="list-style-type: none"> • EPM WorkspaceでのWeb Analysis, Financial Reporting, およびInteractive Reportingの対話型コンテンツの確認 • リポジトリ・コンテンツの一覧化とリポジトリ・コンテンツへの登録 • Web Analysis Studioにおけるアクセス可能な対話型コンテンツの確認 • 問合せの編集、再問合せおよびデータの整列 • Financial Reportingのバッチおよびブックの作成 • インポートおよび内容の変更 	問合せの編集、再問合せおよびリポジトリへの変更点の保存を行うために、ドキュメント・タイプを対話型で使用
個人用ページのパブリッシャ+データ・ソース・パブリッシャ+アナリスト+レポート・デザイナー+ジョブ・マネージャ	<ul style="list-style-type: none"> • Web Analysis, Financial Reporting, Interactive Reportingの新規対話型コンテンツの作成および配布 • Web Analysis Studioのドキュメント設計インタフェースにおけるOracle Hyperion Web Analysisのカスタム・ドキュメントの作成および配布 • Oracle Hyperion Financial Reporting Studioへのアクセス 	リソースへの管理者アクセスを除く、主なコンテンツ作成機能へのアクセス権

組み合わせた役割	タスク	アクセス権限
	<ul style="list-style-type: none"> 個人用ページへのアクセスとリポジトリ・ユーザーへのコンテンツの配布 リポジトリ・ユーザーへのデータ・ソース接続ファイルの配布 リポジトリ・ユーザーへのバッチ、ブック、レポートおよびドキュメントの配布 Production ReportingファイルおよびProduction Reporting出力のインポートと変更 ジョブの作成、保存、および実行 出力ディレクトリの作成および管理 	
コンテンツ・マネージャ+スケジュール・マネージャ	<ul style="list-style-type: none"> リポジトリで発行されたすべてのコンテンツ管理およびすべてのコンテンツ作成機能 イベント、カレンダー、タイム・イベント、パブリック・パラメータ、および物理リソースの作成と管理 	リソースへの管理者アクセスを除く、すべてのコンテンツ作成およびスケジューリング機能へのアクセス
Reporting and Analysis管理者+データ・エディタ	<ul style="list-style-type: none"> すべてのリソースへの条件付きアクセス 管理モジュールへのアクセス インパクト・マネージャ・モジュールへのアクセス Essbaseへの編集の書戻し 	リソースへの条件付きアクセスでの、主な機能とモジュールへのアクセス権

- f. 「保存」をクリックします。
- g. 「OK」をクリックします。

Reporting and Analysisアーティファクトの作成

Reporting and Analysisアーティファクトには、ドキュメント(レポート、ダッシュボード)およびそれらを保管するディレクトリが含まれます。各Reporting and Analysisアーティファクトは、個別にプロビジョニングできます。Reporting and Analysisアーティファクトを作成するには、次のツールを使用します:

- Oracle Hyperion Financial Reporting Studio
- Oracle Hyperion Interactive Reporting Studio
- Production Reporting Studio
- Oracle Hyperion Web Analysis Studio

各ツールを使用してReporting and Analysisアーティファクトを作成する手順については、次のソースを参照してください:

- 『Oracle Hyperion Financial Reporting Studioユーザー・ガイド』
- Oracle Hyperion SQR Production Reportingユーザー・ガイド

- 『Oracle Hyperion Interactive Reportingユーザー・ガイド』
- 『Oracle Hyperion Web Analysis Studioユーザー・ガイド』

Reporting and Analysisアーティファクトへのアクセスの制御

管理者またはプロビジョニング・マネージャによりアーティファクトへのアクセス権が付与された後で、ユーザーはReporting and Analysisアーティファクトを使用できます。

▶ アクセス制御を設定するには:

1. EPM WorkspaceにReporting and Analysis管理者またはプロビジョニング・マネージャとしてアクセスします。183ページの[EPM Workspaceへのアクセス](#)を参照してください。
2. 「ナビゲート」を選択し、次に「エクスプローラ」を選択します。
3. 「フォルダ」から、Oracle Hyperion Reporting and Analysisアーティファクトが格納されるフォルダを選択します。
4. アクセス制御を指定するアーティファクトを選択します。
5. 「編集」を選択し、次に「権限の編集」を選択します。
6. 「権限」で、選択したユーザーおよびグループに割り当てるプリファレンスを指定します:
 - a. アクセス制御を指定するユーザー、グループおよび役割を探して、「選択したユーザー、グループ、役割」リストに移動します。
 - b. アクセス制御を設定します。

設定できるアクセスのレベルとタイプは選択したアーティファクトにより異なります。アクセス・レベルには、継承、アクセスなし、表示、変更、フル・コントロール、実行、ジョブ出力のみがあります。アクセス・タイプには、フォルダへのアクセス、ファイルへのアクセス、ジョブへのアクセス、ジョブの出力へのアクセス、適応状態、お気に入りがあります。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。

- c. 「OK」をクリックします。

12

Profitability and Cost Managementのプロビジョニング

この項の内容:

標準Profitability and Cost Managementのセキュリティ・モデル	137
前提条件	137
EPM System製品へのアクセス	139
Profitability and Cost Managementのプロビジョニング・プロセス	139

標準Profitability and Cost Managementのセキュリティ・モデル

Oracle Hyperion Profitability and Cost Managementの役割は、Shared Services Consoleからユーザーに割り当てられます。データ・セキュリティをProfitability and Cost Managementのディメンションに指定できます。

Profitability and Cost Managementアプリケーションは、Performance Management Architectを使用して、作成およびデプロイします。

前提条件

サブトピック

- [Foundation Services](#)
- [Foundation Services Webサーバー](#)
- [Performance Management Architect](#)
- [Essbaseサーバー\(標準Profitabilityの場合のみ\)](#)
- [Administration Services](#)
- [詳細Profitability用のリレーショナル・データベース](#)

Foundation Services

Foundation Servicesが実行されていること。Foundation Servicesを開始すると、次のコンポーネントが開始されます:

- Shared Services
- EPM Workspace

Foundation Services Webサーバー

Oracle Hyperion Foundation Services Webサーバーが実行されている必要があります。

Performance Management Architect

アプリケーション・ライブラリおよびディメンション・ライブラリなどのPerformance Management Architectコンポーネントへは、EPM Workspaceを介してアクセスします。

- Performance Management Architectサーバーが稼働しています。
- Performance Management Architectが稼働しています。

『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

- Performance Management Architect Webサーバーが稼働しています。

Essbaseサーバー(標準Profitabilityの場合のみ)

標準Profitability and Cost Managementアプリケーションは、Essbaseにデプロイされます。標準Profitability and Cost Managementでの割当てに必要な財務データおよびその他のデータは、Essbaseマルチディメンショナル・データベースにインポートされます。

Essbaseサーバーが実行されていること。

『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

Administration Services

Essbaseの管理コンソールであるAdministration Servicesを使用して、標準Profitability and Cost Managementキューブの作成の確認およびキューブ・アウトラインの最適化を行います。

Oracle Essbase Administration Servicesが実行されていることを確認します。『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

詳細Profitability用のリレーショナル・データベース

詳細Profitabilityアプリケーションの場合、ディメンションデータとモデル定義は、標準Profitabilityアプリケーションのディメンショナル・データとモデル定義を格納するのと同じリレーショナル・データベースのスキーマに格納されます。このスキーマは製品スキーマと呼ばれ、Profitability and Cost Managementのインストール時に作成されます。ディメンショナル・データは、Performance Management Architectからアプリケーションをデプロイするとき、製品スキーマに移入されます。モデル定義は、モデルを構築する際にこのスキーマに格納されます。

詳細Profitabilityアプリケーションの場合、配賦が実行される対象のビジネス・データも、リレーショナル・データベースに格納されます(標準Profitabilityアプリケーションのように、Essbaseには格納されない)。このデータが配置されるのは、モデル・データ・スキーマという別のデータベース・スキーマです。モデル・データ・スキーマはユーザー定義であり、製品スキーマと同じデータベース・インスタンスにある必要があります。OracleとMS SQL Serverデータベースのみがサポートされます。

EPM System製品へのアクセス

プロビジョニング中に、Shared ServicesおよびEPM WorkspaceなどのOracle Enterprise Performance Management System製品にアクセスする必要があります。次のトピックを参照してください:

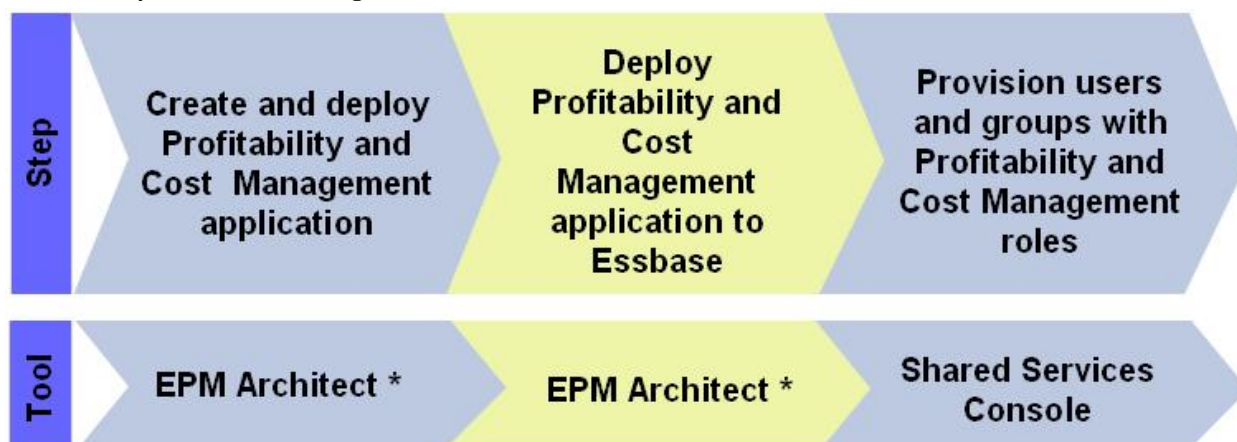
- [11ページのShared Services Consoleの起動](#)
- [183ページのEPM Workspaceへのアクセス](#)
- [184ページのAdministration Servicesコンソールへのアクセス](#)

Profitability and Cost Managementのプロビジョニング・プロセス

Profitability and Cost Managementアプリケーションは、EPM Workspaceを介してアクセスするPerformance Management Architectアプリケーション・ライブラリから作成します。アプリケーション・ライブラリを使用して作成されたProfitability and Cost Managementアプリケーションは、ディメンションおよびメンバーを共有できます。

プロセスの概要

Profitability and Cost Managementアプリケーションの作成とプロビジョニング手順を次の図に示します。



* Accessed through EPM Workspace

Profitability and Cost Managementアプリケーションの作成とデプロイ

Profitability and Cost Managementアプリケーションは、EPM Workspaceからアクセスするアプリケーション・ライブラリを使用して作成します。標準と詳細の2つのタイプのProfitability and Cost Managementアプリケーションを作成できます。これらのアプリケーション・タイプの詳細は、『Oracle Hyperion Profitability and Cost Managementユーザーガイド』を参照してください。

Profitability and Cost Managementアプリケーションを作成するには、Shared Services管理者であるか、Profitabilityアプリケーション作成者の役割を割り当てられたユーザーである必要があります。

標準Profitabilityアプリケーションの作成およびデプロイ

標準Profitability and Cost Managementは、次の条件に従う必要があります：

- 少なくとも1つのディメンションがPOV (視点)タイプに設定されています。最大4つのディメンションをPOVディメンションとしてマークできます。
- アプリケーションに1つ以上のビジネス・ディメンションが含まれている必要があります。
- アプリケーションは、次の各ディメンションを1つ含んでいる必要があります。
 - メジャー
 - 割当てタイプ
- ディメンション・ソート順がモデルに対して設定されています。

▶ 標準Profitability and Cost Managementアプリケーションを作成するには：

1. EPM Workspaceにアクセスします。183ページのEPM Workspaceへのアクセスを参照してください。
2. 「ナビゲート」、「管理」、「アプリケーション・ライブラリ」の順に選択します。
3. アプリケーション・ライブラリで、「ファイル」、「新規」、「アプリケーション」の順に選択します。
4. 「名前」に、アプリケーション名(最大7文字)を入力します。アプリケーション名には、特殊文字(スペース、アスタリスクなど)を含めないでください。
5. 「タイプ」で、「Profitability」を選択します。



注：

ディメンション・ライブラリからディメンションをドラッグできる、空のアプリケーションを作成できます。空のアプリケーションを作成するには、「ブランク・アプリケーションの作成」を選択して、「終了」をクリックします。

6. オプション: アプリケーションに必要なディメンションを自動作成するには、「ローカル・ディメンションの自動作成」を選択します。

各新規ディメンションのディメンション名は、ディメンション・タイプにカッコで囲んだ(新規)が付いた名前になります。ローカル・ディメンションを自動的に作成すると、必要なアプリケーション・ディメンションが追加されるため、時間を節約できます。

7. 「次へ」をクリックします。

Profitability and Cost Managementでは、Performance Management Architectで作成されたディメンションおよびメンバーを使用して、Essbaseアウトラインのビジネス・モデルの構造要素の多くを表現できます。

8. デイメンションの選択ウィンドウで、アプリケーションのデイメンションを選択します。必要なデフォルト・デイメンションをローカル・デイメンションとして選択する必要があります:

- メジャー
- AllocationType
- POV (1つ以上4つ以下のPOVデイメンションが含まれます)
- 少なくとも1つのビジネス・デイメンション
- 別名(オプション)
- 属性(オプション)

アプリケーションのデイメンションを作成するには:

- 「デイメンション」列をクリックし、「新規デイメンションの作成」を選択します。
 - デイメンション名およびオプションの説明を入力します。
 - 「OK」をクリックします。
9. 「次へ」をクリックしてアプリケーションを作成します。
10. アプリケーション設定ウィンドウで、次のタスクを実行します。『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド』を参照してください。
- デイメンション・ソート順が各デイメンションに正しく設定されていることを確認します(メジャー1、割当てタイプ2、POV3、ビジネス・デイメンション4)。
 - アプリケーション内の各ビジネス・デイメンションに、NoMemberを含む、2つ以上のメンバーがあることを確認します。また、NoMemberが階層の最後のメンバーであることを確認します。
 - 「終了時にデプロイ」を選択します。この選択により、「終了」をクリックしたときにデプロイウィンドウが起動します。
11. 「検証」をクリックしてエラーが報告された場合は修正します。ライブラリ・ジョブ・コンソールで詳細な検証情報を確認できます。ライブラリ・ジョブ・コンソールを開くには、「ナビゲート」、「管理」、「ライブラリ・ジョブ・コンソール」の順に選択します。検証リストの詳細は、『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド』を参照してください。
12. 「終了」をクリックします。
13. アプリケーションをデプロイします。デプロイメント・プロセスにより、アプリケーションがShared Servicesに登録され、アプリケーション・サーバーにデプロイメントされます。
- Profitability and Cost Managementに対して、「インスタンス名」、「アプリケーション・サーバー」および「**Shared Services**プロジェクト」を選択します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
 - 「デプロイ」を選択します。

デプロイメント・プロセスが終了するまで、時間がかかる場合があります。デプロイメント・プロセスの進捗状況やエラーの追跡に使用できるデプロイメント・ジョブIDが、Performance Management Architectにより表示されます。

詳細Profitabilityアプリケーションの作成およびデプロイ

詳細Profitability and Cost Managementは、次の条件に従う必要があります:

- 少なくとも1つのEPMA POVデイメンションが必要です。
- 少なくとも1つのビジネス・デイメンションが必要です。

- MeasuresDetailedディメンションが必要です。
- ディメンション・ソート順がモデルに対して設定されています。

▶ 詳細Profitability and Cost Managementアプリケーションを作成するには:

1. フラット・ファイルのインポートまたはPerformance Management Architectインタフェース表のインポートを使用してPerformance Management Architectに新規共有ライブラリを移入します。



注意

アプリケーションに含めるビジネス・ディメンション(汎用、勘定科目、エンティティ、時間、国など)は、アプリケーションを作成する前に、ディメンション・ライブラリに追加する必要があります; これを行わないと、「アプリケーション・ウィザード」での選択にディメンションを使用できません。

2. EPM Workspaceにアクセスします。183ページのEPM Workspaceへのアクセスを参照してください。
3. 「ナビゲート」、「管理」、「アプリケーション・ライブラリ」の順に選択します。
4. アプリケーション・ライブラリで、「ファイル」、「新規」、「アプリケーション」の順に選択します。
5. 「名前」に、アプリケーション名(最大7文字)を入力します。アプリケーション名には、特殊文字(スペース、アスタリスクなど)を含めないでください。
6. 「タイプ」で、「Profitability」を選択します。



注:

ディメンション・ライブラリからディメンションをドラッグできる、空のアプリケーションを作成できます。空のアプリケーションを作成するには、「ブランク・アプリケーションの作成」を選択して、「終了」をクリックします。

7. オプション: 「説明」に、説明を入力します。
8. オプション: アプリケーションに必要なディメンションを自動作成するには、「ローカル・ディメンションの自動作成」を選択します。

各新規ディメンションのディメンション名は、ディメンション・タイプにカッコで囲んだ(新規)が付いた名前になります。ローカル・ディメンションを自動的に作成すると、必要なアプリケーション・ディメンションが追加されるため、時間を節約できます。

9. 「Profitability」で、詳細アプリケーションとして作成をクリックします。
10. 「次へ」をクリックします。

Profitability and Cost Managementでは、Performance Management Architectで作成されたディメンションおよびメンバーを使用して、Essbaseアウトラインのビジネス・モデルの構造要素の多くを表現できます。

11. 「ディメンションの選択」ウィンドウで、アプリケーションのディメンションを選択します。必要なデフォルト・ディメンションをローカル・ディメンションとして選択する必要があります:

- MeasuresDetailed (必須)
- 少なくとも1つのEPMA POVディメンション(必須)
- 少なくとも1つのビジネス・ディメンション(必須)
- 別名ディメンション(オプション)
- 属性ディメンション(オプション)

アプリケーションのディメンションを作成するには:

- a. 「ディメンション」列をクリックし、「新規ディメンションの作成」を選択します。
 - b. ディメンション名およびオプションの説明を入力します。
 - c. 「OK」をクリックします。
12. 「次へ」をクリックしてアプリケーションを作成します。
13. 『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド』で説明されているように、「アプリケーション設定」ウィンドウで次のタスクを実行します。
- a. すべてのモデル・ディメンションのディメンション・ソート順を設定します。
 - b. NoMemberの順序を変更し、このメンバーをリスト上の最終世代2のメンバーとして表示します。
 - c. POVディメンションのプロパティ、および必要に応じて、複数のPOVディメンションのPOV表示順を設定します。
 - d. 「終了時にデプロイ」を選択します。この選択により、「終了」をクリックしたときにデプロイウィンドウが起動します。
14. 「検証」をクリックしてエラーが報告された場合は修正します。ライブラリ・ジョブ・コンソールで詳細な検証情報を確認できます。ライブラリ・ジョブ・コンソールを開くには、「ナビゲート」、「管理」、「ライブラリ・ジョブ・コンソール」の順に選択します。検証リストの詳細は、『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド』を参照してください。
15. 「終了」をクリックします。
16. アプリケーションをデプロイします。デプロイメント・プロセスにより、アプリケーションがShared Servicesに登録され、アプリケーション・サーバーにデプロイメントされます。
- a. Profitability and Cost Managementに対して、「インスタンス名」、「アプリケーション・サーバー」および「**Shared Services**プロジェクト」を選択します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
 - b. 「デプロイ」を選択します。

デプロイメント・プロセスが終了するまで、時間がかかる場合があります。デプロイメント・プロセスの進捗状況やエラーの追跡に使用できるデプロイメント・ジョブIDが、Performance Management Architectにより表示されます。

標準Profitability and Cost Managementアプリケーションの Essbaseへのデプロイ

標準Profitability and Cost ManagementアプリケーションをEssbaseにデプロイする前に、次に示すタスクを実行する必要があります。標準ProfitabilityをEssbaseにデプロイする際は、アプリケーションのモデル情報を使用することにより、スクリプト言語を理解しなくても、収益性および費用分析用として調整可能なEssbaseデータベースを作成できます。

標準Profitability and Cost Managementモデル設計には、モデルのEssbaseコンポーネントに必要なEssbaseのアウトラインおよび計算スクリプトを生成するのに必要な情報が含まれます。各モデルは、次のデータベースにアクセスする必要があります：

- Performance Management Architectからデプロイされるディメンション・メタデータを含むモデル設計が保管されるリレーショナル・データベース
- 計算データベース(BSO)およびレポート・データベース(ASO)が含まれるEssbaseデータベース。



注：

複数のモデルをデータベースに保管できます。

標準Profitability and Cost ManagementアプリケーションのEssbaseへのデプロイには、次のタスクが含まれます：

- [145ページのアプリケーションへのステージの追加](#)
- [146ページのアプリケーションへのPOVの追加](#)

これらのタスクの完了後に、アプリケーションをEssbaseにデプロイする必要があります。

アプリケーションへのステージの追加

標準Profitability and Cost Managementでは、ビジネスの主要なプロセスやアクティビティを反映したモデル・ステージを使用します。各ステージには、そのステージのデータを保存する交差を定義するためのディメンションを割り当てます。

新たにデプロイされたアプリケーションにステージは含まれていません。アプリケーションをEssbaseにデプロイする前に、モデル・ステージを1つ以上追加する必要があります。



注：

モデル・ステージ・データを標準Profitability and Cost Managementにインポートできません。『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド』を参照してください。

▶ ステージを追加するには：

1. 標準Profitability and Cost Managementアプリケーションを開きます。

- a. EPM Workspaceにアクセスします。[183ページのEPM Workspaceへのアクセス](#)を参照してください。
 - b. EPM Workspaceから、「ファイル」、「開く」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択します。
 - c. 作成した標準Profitability and Cost Managementアプリケーションを選択します。
2. ビュー・ペインの「モデルの管理」から、「ステージ」を選択します。
 3. 「ステージ」リストの上にある「追加」アイコンをクリックします。
 4. 必要なステージ情報を入力します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
 5. 「OK」をクリックします。

アプリケーションへのPOVの追加

POVは、モデルの様々なバージョンを作成するために使用します。たとえば、予算の数値と実績の数値の比較を格納したり、様々な変更による最終損益への影響を測定するシナリオを実行します。選択した年、期間、シナリオまたはステータスに対するモデルの情報や計算を表示するには、POVを追加します。新たにデプロイされたアプリケーションには、POVマネージャ定義は含まれていません。



注:

モデル・ステージ・データを標準Profitability and Cost Managementにインポートできません。『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド』を参照してください。

▶ POVマネージャを追加するには:

1. 標準Profitability and Cost Managementアプリケーションを開きます。
 - a. EPM Workspaceにアクセスします。[183ページのEPM Workspaceへのアクセス](#)を参照してください。
 - b. Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspaceから、「ファイル」、「開く」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択します。
 - c. 作成した標準Profitability and Cost Managementアプリケーションを選択します。
2. ビュー・ペインの「モデルの管理」から、「POVマネージャ」を選択します。
3. 「追加」をクリックします。
4. 必要なPOV情報を入力します。説明が必要な場合は、オンライン・ヘルプを参照してください。
5. 「OK」をクリックします。

ユーザーおよびグループへのProfitability and Cost Managementの役割のプロビジョニング

各標準Profitability and Cost Managementインスタンス(デプロイメント)は、複数のアプリケーションをサポートできます。標準Profitability and Cost Managementユーザーを各アプリケーションに対して別々にプロビジョニングする必要があります。

Shared Services管理者および標準Profitability and Cost Managementプロビジョニング・マネージャは、Shared Services Consoleを使用して標準Profitability and Cost Managementアプリケーション・ユーザーをプロビジョニングできます。

- ▶ ユーザーまたはグループに標準Profitability and Cost Managementアプリケーションの役割をプロビジョニングするには:
1. 機能の管理者、またはプロビジョニングするProfitability and Cost Managementアプリケーションのプロビジョニング・マネージャの役割がプロビジョニングされたユーザーとして、Oracle Hyperion Shared Services Consoleにアクセスします。[183ページのShared Servicesへのアクセス](#)を参照してください。
 2. ユーザーおよびグループへProfitability and Cost Managementアプリケーションをプロビジョニングします。
 - a. プロビジョニングするユーザーまたはグループを検索します。

[13ページのユーザー、グループ、役割および委任リストの検索](#)を参照してください。
 - b. ユーザーまたはグループを右クリックし、「プロビジョニング」を選択します。
 - c. オプション: ビューを選択します。
 - d. 「使用可能な役割」で、標準Profitability and Cost Managementアプリケーションを含むアプリケーション・グループ(例: Financial Management)を展開します。
 - e. 対象のアプリケーションを表すノードを展開します。
 - f. オプション: 標準Profitabilityアプリケーションの場合は、ユーザーまたはグループに割り当てる役割を選択し、「追加」をクリックします。

標準Profitability and Cost Managementの役割とアクセスを提供するタスクのリストについては、[147ページの表 11](#)を参照してください。

表11 標準Profitability and Cost Managementの役割

セキュリティの役割	説明
パワー役割	
管理者	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザー・アカウントとセキュリティ役割の作成および維持の他、Shared Servicesを使用したユーザーのプロビジョニング • Essbaseデータベースの生成 • アプリケーション・プリファレンスの設定と維持 • 共通ディメンションとメンバーの選択を目的とした、Performance Management Architectを使用したモデル・データベースの構築 • ステージ、ドライバ、POV、ドライバ選択、割当て、アプリケーション・プリファレンスなどのモデルにおける要素の作成および維持 • POVコピー、計算、検証、データ入力、トレース割当ての実行 • Essbaseへのデプロイと計算スクリプトの生成 • データのインポートおよびエクスポート • ライフサイクル管理ユーティリティを使用した、開発またはテスト環境から本番環境などの別の環境へのデータのレベル上げ。 • Profitability and Cost Managementのモデル・コンポーネントのバックアップおよび復元。 • ビジネス・オブジェクトに加えられた変更をモニターします。 • Profitabilityアプリケーションのホーム画面へのアクセスによる、Exalytics用アプリケーション・ローダーを使用したProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成、管理、登録、複製および更新。 • Smart Viewの「接続」画面からの問合せの作成、編集、コピー、削除および起動

セキュリティの役割	説明
	<p>注:</p> <p>パワー・ユーザーは、タスクの実行に特定のセキュリティ役割を必ずしも必要としません。たとえば、パワー・ユーザーが「計算」画面から計算を実行する場合、このアクションによってタスクフローが内部で作成されて実行されます。パワー・ユーザーは、「タスクフローの管理」タスクから直接このタスクにアクセスする場合以外は、このタスクの実行に「タスクフローの管理」役割を必要としません。</p>
パワー・ユーザー	<ul style="list-style-type: none"> • ステージ、ドライバ、POV、ドライバ選択、割当て、アプリケーション・プリファレンスなどのモデルにおける要素の作成および維持します。 • POVコピー、計算、検証、データ入力、トレース割当てを実行します。 • Oracle Essbaseにデプロイし、計算スクリプトを生成します。 • データのインポートおよびエクスポート • Profitabilityアプリケーションのホーム画面へのアクセスによる、Exalytics用アプリケーション・ローダーを使用したProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成、管理、登録、複製および更新。 • Smart Viewの「接続」画面からの問合せの作成、編集、コピー、削除および起動
対話型役割	
対話型ユーザー	<ul style="list-style-type: none"> • すべてのモデリング画面の表示 • データ入力画面でのデータの表示および変更 • トレース割当ての表示 • Smart Viewの「接続」画面からの問合せの起動
表示ユーザー	<p>次の関数に対して表示のみのアクセス権を持ちます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • トレース割当て • アプリケーション・プリファレンス • モデル・ステージ、ドライバ、およびPOV
Shared Servicesの役割	
タスクフローの管理	タスクフローの作成と編集に必要。
タスクフローの実行	ユーザーによるタスクフローの実行と表示のみを可能にするために必要。この役割を割り当てられたユーザーは、タスクフローの作成や編集を行うことはできません。

- g. オプション: 詳細Profitabilityアプリケーションの場合は、ユーザーまたはグループに割り当てる役割を選択し、「追加」をクリックします。詳細Profitabilityの役割とアクセスを可能にするタスクのリストについては、[148ページの表 12](#)を参照してください。

表12 詳細Profitability and Cost Managementの役割

セキュリティの役割	説明
管理者	<ul style="list-style-type: none"> • アプリケーション・プリファレンスの設定と維持 • 共通ディメンションとメンバーの選択を目的とした、Oracle Hyperion EPM Architectを使用したモデル・データベースの構築 • レポート・ビューを作成してリレーショナル・データベースにデプロイ

セキュリティの役割	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • 次の機能を作成、読取り(表示)、更新、削除: <ul style="list-style-type: none"> ○ステージ ○ドライバ ○POV ○ドライバの関連付け ○割当て ○アプリケーション・プリファレンス ○計算ルール ○計算プロセスの割当て ○ジョブ・ライブラリおよびステータス ○表登録 • 次のタスクを実行: <ul style="list-style-type: none"> ○POVコピー ○検証 ○デプロイ ○計算 ○ジョブの停止 • ライフサイクル管理ユーティリティを使用した、開発またはテスト環境から本番環境などの別の環境へのデータのレベル上げ。 • データのインポートおよびエクスポート • Profitability and Cost Managementのモデル・コンポーネントのバックアップおよび復元。 • ビジネス・オブジェクトに加えられた変更をモニターします。 • Smart Viewの「接続」画面からの問合せの作成、編集、コピー、削除および起動 • Profitabilityアプリケーションのホーム画面へのアクセスによる、Exalytics用アプリケーション・ローダーを使用したProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成、管理、登録、複製および更新。
パワー役割	
パワー・ユーザー	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザー・アカウントとセキュリティ役割の作成および維持の他、Shared Servicesを使用したユーザーのプロビジョニング • レポート・ビューを作成してリレーショナル・データベースにデプロイ • Profitabilityアプリケーションのホーム画面へのアクセスによる、Exalytics用アプリケーション・ローダーを使用したProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成、管理、登録、複製および更新。 • Smart Viewの「接続」画面からの問合せの作成、編集、コピー、削除および起動 • 次の機能を作成、読取り(表示)、更新、削除: <ul style="list-style-type: none"> ○ステージ ○ドライバ ○POV

セキュリティの役割	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ○ドライバの関連付け ○割当て ○アプリケーション・プリファレンス ○計算ルール ○計算プロセスの割当て ○ジョブ・ライブラリおよびステータス ○表登録 • 次のタスクを実行: <ul style="list-style-type: none"> ○POVコピー ○検証 ○デプロイ ○計算 ○ジョブの停止 <p>注:</p> <p>パワー・ユーザーは、タスクの実行に特定のセキュリティ役割を必ずしも必要としません。たとえば、パワー・ユーザーが「計算」画面から計算を実行する場合、このアクションによってタスクフローが内部で作成されて実行されます。パワー・ユーザーは、「タスクフローの管理」タスクから直接このタスクにアクセスする場合以外は、このタスクの実行に「タスクフローの管理」役割を必要としません。</p>
対話型役割	
対話型ユーザー	<ul style="list-style-type: none"> • 次の機能を表示(読取り): <ul style="list-style-type: none"> ○ステージ ○ドライバ ○POV ○ドライバの関連付け ○割当て ○アプリケーション・プリファレンス ○計算ルール ○計算プロセスの割当て ○ジョブ・ライブラリおよびステータス ○表登録 • Oracle Smart View for Officeの「接続」画面からの問合せの起動
表示ユーザー	<p>次の機能を表示(読取り):</p> <ul style="list-style-type: none"> • ステージ • ドライバ • POV • ドライバの関連付け • 割当て

セキュリティの役割	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • アプリケーション・プリファレンス • 計算ルール • 計算プロセスの割当て • ジョブ・ライブラリおよびステータス • 表登録
Oracle Hyperion Shared Servicesの役割	
タスクフローの管理	タスクフローの作成と編集に必要。
タスクフローの実行	ユーザーによるタスクフローの実行と表示のみを可能にするために必要。この役割を割り当てられたユーザーは、タスクフローの作成や編集を行うことはできません。

- h. 「保存」をクリックします。
 - i. 「OK」をクリックします。
3. プロビジョニングを行う各Oracle Hyperion Profitability and Cost Managementアプリケーションについて、[147ページのステップ 2](#)を繰り返します。



EPM System役割

この項の内容:

Foundation Services役割	153
Essbaseの役割	157
Essbase Studio役割	159
Reporting and Analysis役割	159
Financial Managementの役割	163
Disclosure Management役割	165
Financial Close Management役割	166
Account Reconciliation Management役割	166
Supplemental Data Managerの役割	167
Tax Managementの役割	168
Planning役割	170
Profitability and Cost Management役割	172
Strategic Finance役割	177
Provider Services役割	177
Data Integration Management役割	177
FDMの役割	178
FDMEEEの役割	178
Integrated Operational Planning役割	179

Foundation Services役割

Foundation Services役割は、次のコンポーネントに属するパワー役割で構成されます:

- Shared Services
- Oracle Hyperion EPM Architect
- Oracle Hyperion Calculation Manager
- [157ページのFinancial Managementマネージャの役割](#)

Shared Services役割

Shared Services役割はすべてパワー役割です。通常、これらの役割は、Shared Servicesおよび他のEPM System製品の管理を行うパワー・ユーザーに付与されます。

表13 Shared Services役割(グローバルな役割)

役割	説明
<p>管理者 Shared Services管理者の役割は、次の役割から構成されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 統合の作成 • ディレクトリ・マネージャ • LCM管理者 • タスクフローの管理 • タスクフローの実行 • プロジェクト・マネージャ • 統合の実行 	<p>Shared Servicesと統合される製品全体へのコントロールを行います。この役割は、EPM Systemの最も強力な役割であるため、慎重に割り当てる必要があります。管理者は、Shared Services Consoleですべての管理タスクを実行でき、自分自身をプロビジョニングすることも可能です。</p> <p>この役割は、Shared Servicesに登録されたすべてのアプリケーションへの幅広いアクセス権を付与します。管理者役割はデフォルトで、<i>admin</i>ネイティブ・ディレクトリ・ユーザーに割り当てられます。このユーザーはShared Servicesのデプロイ後に唯一使用可能であるユーザーです。</p>
統合の作成	ウィザードを使用してShared Servicesデータ統合(アプリケーション間でデータを移動するプロセス)を作成します
ディレクトリ・マネージャ	<p>ネイティブ・ディレクトリのユーザーとグループを作成および管理します</p> <p>ディレクトリ・マネージャとプロビジョニング・マネージャの役割を1人のユーザーに付与すると、ユーザーは高い役割を得ることができます。ディレクトリ・マネージャの役割は、プロビジョニング・マネージャの役割が割り当てられたユーザーには割り当てないことをお勧めします。</p>
<p>LCM管理者 この役割は、次の役割で構成されています:</p> <ul style="list-style-type: none"> • ディレクトリ・マネージャ • LCMデザイナー • タスクフローの管理 • タスクフローの実行 	Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemライフサイクル管理を実行して、本番環境およびオペレーティング・システム全体のアーティファクトやデータを移行します

役割	説明
<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト・マネージャ 統合の実行 	
LCMデザイナー	ライフサイクル管理機能を使用して移行定義ファイルを作成することで、アーティファクトとアプリケーションの移行を設計します。この役割を持つユーザーは、移行を設計できますが、実行はできません。
タスクフローの管理	EPM System製品のタスクフローを、作成、編集、表示、スケジュールおよび実行します。すべてのタスクフローに対して完全な制御権を保有します。
タスクフローの実行	タスクフローの管理の役割を持ったユーザーによって作成されたタスクフローを表示、スケジュールおよび実行します。Oracle Enterprise Performance Management System製品のタスクフローの作成または編集はできません。
プロジェクト・マネージャ	Shared Servicesアプリケーション・グループを作成および表示します。
統合の実行	Shared Servicesデータ統合を表示および実行します Performance Management Architectの場合は、データ同期を実行します

Performance Management Architect役割

Performance Management Architectのすべての役割はパワー役割です。通常、これらの役割は、アプリケーションの作成およびアプリケーションのディメンションの管理をする必要があるパワー・ユーザーに付与されます。

表14 Performance Management Architect役割

役割	説明
Performance Management Architect管理者 Performance Management Architect管理者の役割は、次の役割から構成されます： <ul style="list-style-type: none"> アプリケーション作成者 <ul style="list-style-type: none"> ○Essbaseアプリケーション作成者 ○Financial Managementアプリケーション作成者 ○Planningアプリケーション作成者 ○Profitabilityアプリケーション作成者 ディメンション編集者 	Performance Management Architectのアプリケーションを作成およびデプロイします。アプリケーション作成者は、デプロイされていないアプリケーションのすべてのディメンションを所有します。作成者はディメンションを作成できますが、アクセス権限のあるディメンションしか変更できません。ディメンション・エディタ役割に加えて、Financial ManagementおよびPlanningユーザーが製品のクラシック・アプリケーション管理オプションをナビゲートできるようにするために必要です。アプリケーション作成者役割を持つユーザーがPerformance Management Architectからアプリケーションをデプロイするとき、そのユーザーは自動的に、アプリケーションのアプリケーション管理者とプロビジョニング・マネージャになります。Performance Management Architect管理者は、次のトランザクション履歴削除ユーティリティ操作も実行できます：

役割	説明
	<ul style="list-style-type: none"> すべてのアプリケーションにアクセス(ユーザーがアプリケーションをデプロイしなかった場合も) 停止したジョブをタイムアウトとして手動でマーク 非表示のジョブを表示 アプリケーション診断画面を開き、すべてのアプリケーションに対してテストおよびソリューションを実行
Essbaseアプリケーション作成者	Performance Management Architectを使用してEssbaseアプリケーションおよび汎用アプリケーションを作成します。
Financial Managementアプリケーション作成者	Performance Management Architectを使用して集計アプリケーションおよび汎用アプリケーションを作成します。アプリケーションを作成するには、そのユーザーはFinancial Management構成ユーティリティで指定されたアプリケーション作成者グループのメンバーである必要があります。
Planningアプリケーション作成者	Performance Management Architectを使用してPlanningアプリケーションおよび汎用アプリケーションを作成します。
Profitabilityアプリケーション作成者	Performance Management Architectを使用してOracle Hyperion Profitability and Cost Managementアプリケーションおよび汎用アプリケーションを作成します。
ディメンション編集者 ¹	<p>Performance Management Architect内にディメンションを作成するためにプロファイルを作成、管理、およびインポートします。Performance Management Architect内で手動でディメンションを作成および管理します。</p> <p>Webナビゲーションを使用してFinancial ManagementおよびPlanningのクラシック・アプリケーション管理オプションにアクセスする際に必要です。</p>

¹ディメンション編集者のみが共有ライブラリでディメンションを作成できます。

Calculation Managerの役割

Calculation Managerのすべての役割はパワー役割です。通常、Calculation Manager管理者を作成するためにこれらの役割が付与されます。

表15 Calculation Managerの役割

役割	説明
Calculation Manager管理者 Calculation Manager管理者の役割は、次の役割で構成されています:	Calculation Manager機能を管理します

役割	説明
<ul style="list-style-type: none"> Financial Management Calculation Manager管理者 Planning Calculation Manager管理者 	<p>Financial Management Calculation Manager管理者はFinancial ManagementでのCalculation Manager機能を管理します</p> <p>Planning Calculation Manager管理者はPlanningでのCalculation Manager機能を管理します</p>
Financial Management Calculation Manager管理者	Financial ManagementのCalculation Manager機能を管理します
Planning Calculation Manager管理者	PlanningのCalculation Manager機能を管理します

Financial Managementマネージャの役割

これらの役割では、Shared Services管理者がFinancial Managementアプリケーションを管理できます。

表16 Financial Managementマネージャの役割

役割	説明
<p>Financial Managementマネージャ管理者の役割は、次の役割から構成されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> Financial Management管理者 Financial Managementアプリケーション作成者 Financial Management Calculation Manager管理者 	Financial Managementアプリケーションを作成および管理し、Financial ManagementのCalculation Manager機能を管理します
Financial Management管理者	Financial Managementアプリケーションを管理します。
Financial Managementアプリケーション作成者	Financial Managementのアプリケーションを作成します
Financial Management Calculation Manager管理者	Financial ManagementのCalculation Manager機能を管理します

Essbaseの役割

次の表では、Essbaseに固有な役割について説明します。固有のEssbaseアプリケーションまたはデータベースに対するユーザーとグループへのアクセス権限の付与の詳細は、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。



注:

Essbaseアプリケーションを作成するには、Essbase管理者役割に加え、Shared Servicesのプロジェクト・マネージャ役割が必要です。

表17 Essbaseサーバーの役割

役割	説明
管理者	Essbaseサーバー、アプリケーション、およびデータベースへの完全な管理アクセス権を持ちます 注： プロビジョニング・マネージャ役割は、Essbaseの管理者を移行するときに自動的に割り当てられます。ただし、Essbase管理者をShared Services Consoleで作成するときは、プロビジョニング・マネージャ役割を手動で割り当てる必要があります。
アプリケーションの作成/削除	アプリケーションとデータベースを作成および削除します。このユーザーが作成したアプリケーションとデータベースに対するアプリケーション・マネージャとデータベース・マネージャの権限も含まれます。
サーバー・アクセス	このEssbaseサーバーに属するアプリケーションまたはデータベースにアクセスします。このレベルは、ユーザーがアプリケーションおよびデータベースにアクセスするために必要な最低限のアクセス権限です。
プロビジョニング・マネージャ	ユーザーにこのEssbaseサーバーの役割をプロビジョニングします

表18 Essbaseアプリケーションの役割

役割	説明
アプリケーション・マネージャ	割り当てられたアプリケーション内でデータベースとアプリケーションの設定を作成、削除および変更します。アプリケーション内のデータベースのデータベース・マネージャの権限も含まれます。アプリケーション・マネージャは、自分で作成したアプリケーションおよびデータベースだけを削除できません。 注： プロビジョニング・マネージャ役割は、ユーザーがEssbaseアプリケーション・マネージャを移行する際にそのユーザーに自動的に割り当てられます。ただし、Essbaseアプリケーション・マネージャをOracle Hyperion Shared Services Consoleで作成する場合は、プロビジョニング・マネージャ役割を自分自身に手動で割り当てる必要があります。
データベース・マネージャ	割り当てられたアプリケーション内のデータベース、データベース・アーティファクト、ロックを管理します
計算	割り当てられた計算およびフィルタを使用して割り当てられたスコープを基に、データ値の計算、更新および読取りを行います

役割	説明
書込み	割り当てられたフィルタを使用して、割り当てられたスコープを基に、データ値の更新と読取りを行います
読取り	データ値を読み取ります
フィルタ	フィルタの制限に応じて特定のデータとメタデータにアクセスします
アプリケーションの開始/停止	アプリケーションまたはデータベースを開始および停止します
プロビジョニング・マネージャ	Essbaseユーザーにこのアプリケーションからの役割をプロビジョニングします

Essbase Studio役割

表19 Essbase Studio役割

役割	説明
Essbase Studio管理者	キューブのデプロイやドリルスルー・レポートの実行などのすべてのOracle Essbase Studioのタスクの実行
Essbase Studioデータ・ソース管理者	データ・ソース接続の作成および維持に関連するすべてのタスクの実行; ドリルスルー・レポートの実行
Essbase Studioメタデータ管理者	メタデータ要素の作成および維持に関連するすべてのタスクの実行; キューブのデプロイ; ドリルスルー・レポートの実行
Essbase Studio参照者	すべてのEssbase Studioデータ・ソースおよびメタデータ要素の表示; ドリルスルー・レポートの実行
プロビジョニング・マネージャ	Oracle Essbase Studioユーザーのプロビジョニング

Reporting and Analysis役割

表20 Reporting and Analysis役割

役割	説明
パワー役割	
Reporting and Analysis管理者	<p>(ファイルが"アクセス権なし"でロックされていないかぎり) すべてのリソースへの条件付きのアクセス権を持つが、すべての機能にアクセスできるわけではありません。管理者とインパクト・マネージャのモジュールにアクセスします。</p> <p>Oracle Hyperion Financial Reporting, Oracle Hyperion Interactive Reporting, Oracle Hyperion SQR Production ReportingおよびOracle Hyperion Web Analysisに適用されます</p>

役割	説明
Reporting and Analysisグローバル管理者	<p>すべてのリソースと機能に対して、全体的かつ暗黙的なアクセス権を持ちます。管理者とインパクト・マネージャのモジュールにアクセスします。</p> <p>注:</p> <p>Reporting and Analysisグローバル管理者がアクセスを拒否されることはありません。 Financial Reporting, Interactive Reporting, Production ReportingおよびWeb Analysisに適用されます</p>
コンテンツ・マネージャ	<p>すべてのリソースへの暗黙的なアクセス権とともに(ファイルが"アクセス権なし"でロックされていないかぎり)、インポートされたりポジトリ・コンテンツの管理とタスクの実行を行います。データ・ソース・パブリッシャ役割を含みます。</p> <p>Financial Reporting, Interactive Reporting, Production ReportingおよびWeb Analysisに適用されます</p>
データ・ソース・パブリッシャ	<p>データ・ソース接続ファイルをインポートします</p> <p>Interactive ReportingおよびWeb Analysisに適用されます</p>
お気に入りのディストリビュータ	<p>お気に入りマネージャを使用して、ユーザーのお気に入りフォルダにコンテンツをプッシュします</p> <p>Financial Reporting, Interactive Reporting, Production ReportingおよびWeb Analysisに適用されます</p>
ジョブ・マネージャ	<p>パブリック・ジョブ・パラメータ、出力ディレクトリ、出力プリンタの場所を作成および管理します Interactive ReportingおよびProduction Reportingに適用されます</p> <p>注:</p> <p>この役割は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspaceを使用して Financial ReportingまたはWeb Analysisにアクセスする、Financial ManagementおよびPlanningユーザーには適用されず、割り当てることができません。</p>
スケジュール・マネージャ	<p>イベント、カレンダー、タイム・イベント、パブリック・パラメータ、物理リソースを作成および管理します。バッチを作成します。またスケジュールとジョブ・マネージャ役割を含みます。</p> <p>Financial Reporting, Interactive Reporting, および Production Reportingに適用されます</p>

役割	説明
プロビジョニング・マネージャ	Reporting and Analysisユーザーをプロビジョニングします
対話型役割	
アナリスト	<p>完全な分析およびレポート機能を使用して、対話型コンテンツにアクセスします</p> <p>Interactive ReportingおよびWeb Analysisに適用されます</p>
コンテンツ・パブリッシャ	<p>バッチ、ブック、レポートおよびドキュメントをインポート、保存および変更します。ショートカットとフォルダを作成および変更します。EPM Workspaceを介して、Financial Reportingでデータ・ソースとデータベース接続を削除します。</p> <p>Financial Reporting, Interactive Reporting, Production ReportingおよびWeb Analysisに適用されます。</p>
データ・エディタ	Web AnalysisデータをEssbaseにプッシュします
ジョブ・パブリッシャ*	<p>ドキュメント、ジョブ、ジョブの出力をインポートおよび変更します。ジョブを実行します。Smart Formパブリッシャ役割が含まれます。</p> <p>Interactive ReportingおよびProduction Reportingに適用されます</p>
個人用ページのパブリッシャ*	<p>個人用ページをリポジトリにパブリッシュします。ここでは他のリポジトリ・ユーザーが個人用ページを表示できます。個人用ページのエディタ役割が含まれます。</p> <p>Interactive ReportingおよびProduction Reportingに適用されます</p>
レポート・デザイナー	<p>ドキュメントを作成および配布するためオーサリングStudioにアクセスします</p> <p>Financial ReportingおよびWeb Analysisに適用されます</p>
スケジューラ	<p>スケジュール・モジュールを使用してジョブとバッチをスケジュールします。リポジトリに移動し、アクセス制御を割り当てます。エクスプローラとジョブの実行者の役割が含まれます。</p> <p>Financial Reporting, Interactive Reporting, および Production Reportingに適用されます</p>

役割	説明
Smart Formパブリッシャ*	<p>プログラムのカスタム・フォームをロードします(フォームはジョブの実行者にジョブの定義に使用される情報の入力を求めます) Production Reportingに適用されます</p> <p>注:</p> <p>Smart Formパブリッシャの機能を利用するには、ジョブ・パブリッシャ役割を持っている必要があります。</p>
個人用ページのエディタ*	<p>個人用ページの作成、変更、カスタマイズを行います。他のユーザーがパブリッシュした個人用ページからコンテンツをコピーします</p> <p>Interactive ReportingおよびProduction Reportingに適用されます</p>
ビュー役割	
ダイナミック・ビューア*	Interactive Reportingドキュメントを表示、再プロセス、および印刷します。
エクスプローラ	<p>エクスプローラ・モジュールと「開く」ダイアログ・ボックスを使用するコンテキストのリポジトリ・コンテンツをリストします。検索、表示、コンテンツへの登録など</p> <p>注:</p> <p>リポジトリへのアクセス権は、ファイル・プロパティと権限によって保護された個別のファイルとフォルダへのアクセスを付与しません。</p> <p>Financial Reporting, Interactive Reporting, Production ReportingおよびWeb Analysisに適用されます</p>
Interactive Reportingビューア*	静的なInteractive Reportingドキュメントを確認および印刷します。
IR HTMLビューア	HTMLビューアを使用してBQYドキュメントを参照します。この役割は、前のバージョンから移行されたユーザーに自動的に割り当てられません。
IR WebClientビューア	Interactive Reportingプラグインを使用してBQYドキュメントを参照します。この役割は、前のバージョンから移行されたユーザーに自動的に割り当てられません。
ジョブの実行者*	<p>ジョブを実行し、パブリック・ジョブ・パラメータと物理リソースを表示します</p> <p>Interactive ReportingおよびProduction Reportingに適用されます</p>

役割	説明
個人用ページのエディタ*	個人用ページの作成、変更、カスタマイズを行います。他のユーザーがパブリッシュした個人用ページからコンテンツをコピーします Interactive ReportingおよびProduction Reportingに適用されます
個人パラメータのエディタ	問合せの結果設定をカスタマイズするために、データベース接続で視点と個人用パラメータを定義します Interactive Reporting、Production ReportingおよびWeb Analysisに適用されます
ビューア	Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspaceコンテンツをレビューします。コンテンツは静的で、お気に入りフォルダのみからアクセスできます。 注: この役割は最低限のユーザー機能を提供します。他の役割を割り当てられない場合にのみ使用してください。 Financial Reporting、Oracle Hyperion Interactive Reporting、Oracle Hyperion SQR Production Reporting、およびWeb Analysisに適用されます
システム役割	
信頼されたアプリケーション	Interactive Reportingデータベース接続ファイル(.oce拡張子)で、資格証明が必要となるクライアント・サーバー間通信を使用可能にします。この通信では、接続、データベース・タイプ、ネットワーク・アドレスおよびデータベースのユーザー名情報がカプセル化されます。

Financial Managementの役割

Performance Management ArchitectおよびCalculation Managerでは、その他のShared Services役割が必要です。153ページの[Foundation Services役割](#)を参照してください。

表21 Financial Managementの役割

役割	説明
パワー役割	
アプリケーション管理者	すべてのFinancial Managementタスクを実行します。この役割のアクセス権はユーザーが持つ他のアクセス設定をオーバーライドします。
システムのロード	ルールとメンバーのリストをロードします

役割	説明
内部取引の管理	期間の開始と終了、エンティティのロックと解除、理由コードの管理などを行います。この役割のユーザーはすべての内部タスクも実行します。
対話型役割	
ルール管理者	特定のアプリケーションに対してCalculation Managerタスクを実行します
ルール・デザイナー	新しいルール・オブジェクトの作成、ルール・オブジェクトの変更または削除を行います
仕訳の承認	仕訳の承認または拒否します
仕訳の作成	仕訳の作成、変更、削除、送信、未送信などを行います
貸借不一致の仕訳の作成	貸借不一致の仕訳を作成します
デフォルト	アプリケーションの開始と終了、ドキュメントとお気に入りの管理、Smart Viewの管理、実行中のタスクおよびデータ・タスクへのアクセス、タスクのロードと抽出を実行します。メタデータまたはルールの抽出はできません。フォルダを作成できません。
仕訳管理者	仕訳に関連したすべてのタスクを実行します
仕訳の転記	仕訳の転記と転記の戻しを実行します
テンプレートの管理	仕訳の管理のために仕訳テンプレートへのアクセス権を付与します
繰返しの生成	仕訳の管理のために繰返しの生成タスクへのアクセス権を付与します
スーパーバイザの確認	プロセス管理ユニットの開始とプロセス管理データの承認およびパブリッシュを行います。プロセス・レベルに応じてプロセス・ユニットのレベルを上げたり、または拒否したりできます。プロセス管理グループをフェーズに割り当てます。
レビュー担当者1から10	データがユーザーの指定プロセス・レベルにあるとき、データのブロックを表示および編集します
送信者	最終的な承認のためにデータのブロックを送信します
データのロック	データ・エクスプローラでデータをロックします
データのロック解除	データ・エクスプローラでデータのロックを解除します
すべて集計	すべて集計を実行します
集計	集計を実行します
データを含むすべてを集計	すべてのデータで集計を実行します
配賦の実行	配賦を実行します
データ入力フォームの管理	Webでデータ入力フォームを管理します
サーバーでのシステム・レポートの保存	サーバーでシステム・レポートを保存します
Excelデータのロード	Oracle Smart View for Officeからデータをロードします。

役割	説明
内部取引ユーザー	取引の作成、編集、削除、ロード、抽出を実行します。勘定科目またはID別に照合レポートを実行したり、取引レポートの実行や複数モジュールでドリルします。
内部取引照合テンプレート	内部取引の照合テンプレートを管理します
勘定科目による内部取引の自動照合	勘定科目ごとに内部取引を自動照合します
IDによる内部取引の自動照合	IDごとに内部取引を自動照合します
許容差による内部取引の手動照合	許容差の確認をしながら、内部取引を手動で照合します
内部取引の手動照合	内部取引を手動で照合します
内部取引の照合解除	内部取引の照合を解除します
内部取引の転記/転記の戻し	内部取引の転記および転記の戻しを実行します
Webグリッドでの書戻しの使用可能	Webグリッドに直接データを入力し、保存します
データベース管理	データをコピーおよびクリアして、無効なレコードを削除します
所有権の管理	所有者情報を入力および編集します
カスタム・ドキュメントの管理	サーバーとの間でカスタム・ドキュメントをロードおよび抽出します
拡張分析	データベースにデータをエクスポートします
Excelから書き戻すデータ・フォーム	Webデータ入力フォームを使用してSmart Viewからデータを送信します
ビュー役割	
上級ユーザー	ブラウザ・ビューを使用して実行中のタスクにアクセスできます。フォルダを作成します。
ルール・ビューア	ルール・オブジェクトを表示します
仕訳の読取り	仕訳を読み取ります
プロセス・コントロールの電子メール・アラートを受信	電子メールを受信します
内部取引の電子メール・アラートを受信	電子メールを受信します
予約済	現在は使用されていません
データ監査の表示	データ監査情報を表示およびエクスポートします
タスク監査の表示	タスク監査情報を表示およびエクスポートします

Disclosure Management役割

表22 Disclosure Management役割

役割	説明
プロビジョニング・マネージャ	ユーザーおよびグループにOracle Hyperion Disclosure Management役割をプロビジョニングします

役割	説明
Disclosure Management管理者	ACLを割り当て、タクソノミ・マネージャを使用できます
Disclosure Managementユーザー	すべてのDisclosure Managementドキュメント(タクソノミ・テンプレートを含む)およびユーザーに割り当てられたACLに基づくその他の機能へのアクセス権があります

Financial Close Management役割

ネイティブ・ディレクトリ・ユーザーは、Fusion Middlewareに対してシングル・サインオンを使用できないため、Oracle Hyperion Financial Close Management役割によって付与されたタスクを実行できません。ネイティブ・ディレクトリ・ユーザーがFinancial Close Managementタスクを実行する必要がある場合、それらのユーザーをFusion Middlewareユーザーとしても作成する必要があります。

表23 Financial Close Management役割

役割	説明
Close Manager管理者	Oracle Hyperion Financial Close Managementを管理します。Closeパワー・ユーザーおよびCloseユーザーが実行できるタスクを実行します。
Close Managerパワー・ユーザー	<ul style="list-style-type: none"> Closeユーザーが実行できるタスクを実行します アラート・タイプを作成および管理します
Close Managerユーザー	<p>これらのタスクを実行します:</p> <ul style="list-style-type: none"> テンプレートの表示 Reporting and Analysisおよび取引ダッシュボードへのアクセス ステータスの変更 アラート、コメントおよび質問の作成および変更 フィルタの作成および管理

Account Reconciliation Management役割

表24 Account Reconciliation Management役割

役割	説明
Reconciliation管理者	<ul style="list-style-type: none"> システム設定、フィルタ、属性、期間、調整インスタンス、レートおよびレポートへの完全なアクセス 自分のコメントを追加および削除します すでに会社にはいないユーザーによって入力されたコメントを削除する必要がある場合に対応するために、調整からコメントを削除します 勘定科目調整の準備または表示はできません

役割	説明
Reconciliationパワー・ユーザー	<ul style="list-style-type: none"> フィルタ、調整プロファイル、調整インスタンスおよびレポートへの完全なアクセス 自分のコメントを追加および削除します すでに会社にいないユーザーによって入力されたコメントを削除する必要がある場合に対応するために、調整からコメントを削除します
Reconciliationコメント者	<ul style="list-style-type: none"> 調整および関連する取引にコメントを追加します レポートを作成します プライベート・フィルタを作成します
Reconciliation策定者	<ul style="list-style-type: none"> 調整の準備に関連するすべての機能(取引の追加、編集、フラグ設定および削除; コメントの追加と削除; 添付ファイルの追加と削除; 質問への回答; レビュー用の調整の送信など)を実行します レポートを作成します プライベート・フィルタを作成します
Reconciliationレビュー担当者	<ul style="list-style-type: none"> 調整のレビュー(取引へのフラグ設定、コメントの追加と削除; 調整の却下; 調整の承認など)を行います レポートを作成します プライベート・フィルタを作成します
Reconciliation参照者	<ul style="list-style-type: none"> 参照者権限が付与されている調整を表示します レポートを作成します プライベート・フィルタを作成します

Supplemental Data Managerの役割

表25 Supplemental Data Managerの役割

役割	説明
SDM管理者	<ul style="list-style-type: none"> Supplemental Data Managerの役割を持つユーザーおよびグループをプロビジョニングします 1回かぎりのシステム設定(システム通貨の定義、使用可能な通貨、期間および頻度の指定)、ディメンション表の設定、およびFinancial Managementからのディメンション表定義とメンバーのインポートなど、Supplemental Data Managerのすべてのタスクを実行します
SDMパワー・ユーザー	<ul style="list-style-type: none"> SDMディメンション・エディタが実行できるタスクを実行します データ・セット、フォーム、およびデータ・セットの要約ビューを作成します

役割	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • 参照資料(Excelスプレッドシートなど)をデータ・フォームに添付します • データ・セット列を管理します • データ・セット、フォームまたはビューを削除します • フォームのアクセス制御を割り当てます • 期間のオープン、クローズおよびロックを行います
SDMディメンション編集者	<ul style="list-style-type: none"> • SDMユーザーが実行できるすべてのタスクを実行します • ディメンション・メンバーを追加または削除します
SDMユーザー	<ul style="list-style-type: none"> • フォームに付与されたアクセス制御に基づいて、データを入力、承認または表示します • 検証を実行し、データ・エラーを修正します • 確認用にデータを送信します • ワークフロー全体にアクセス権が付与されている場合、データをFinancial Managementにポストします
ドリルスルー	Financial Managementにポストされた詳細データにドリルスルーします

Tax Managementの役割

サブトピック

- [Tax Operationsの役割](#)
- [Tax Provisionの役割](#)
- [Tax Supplemental Schedulesの役割](#)

Tax Operationsの役割

表26 Tax Operationsの役割

役割	説明
Tax Operations管理者	Tax Operationsを管理します。Closeパワー・ユーザーおよびCloseユーザーが実行できるタスクを実行します。
Tax Operationsパワー・ユーザー	<ul style="list-style-type: none">• Tax Operationsユーザーが実行できるタスクを実行します• アラート・タイプを作成および管理します
Tax Operationsユーザー	これらのタスクを実行します: <ul style="list-style-type: none">• テンプレートの表示• Oracle Hyperion Reporting and Analysisおよび取引ダッシュボードへのアクセス• ステータスの変更• アラート、コメントおよび質問の作成および変更• フィルタの作成および管理

Tax Provisionの役割

Oracle Hyperion Tax ProvisionアプリケーションはFinancial Managementアプリケーションであるため、役割はFinancial Managementから継承されます。[163ページのFinancial Managementの役割](#)を参照してください。

Tax Supplemental Schedulesの役割

表27 Tax Supplemental Schedulesの役割

役割	説明
Tax Supplemental Schedules管理者	<ul style="list-style-type: none">• Tax Supplemental Schedulesの役割を持つユーザーおよびグループをプロビジョニングします• Tax Supplemental Schedulesを管理します• Tax Supplemental Schedulesパワー・ユーザーおよびTax Supplemental Schedulesユーザーが実行できるタスクを実行します

役割	説明
Tax Supplemental Schedules パワー・ユーザー	<ul style="list-style-type: none"> • Tax Supplemental Schedulesユーザーが実行できるタスクを実行します • データ収集用のデータ・セットおよびフォーム・テンプレートを表示します • データ・セットとフォーム・テンプレートを新規データ収集期間にデプロイし、ステータスを「オープン」に設定して含まれるデータ・エントリ・フォームをアクティブ化します
Tax Supplemental Schedules ユーザー	データを割り当てられたフォームに入力して送信します
ドリルスルー	Oracle Hyperion Financial Managementにポストされた詳細データにドリルスルーします

Planning 役割

Performance Management ArchitectおよびHyperion Calculation Managerでは、その他のOracle Hyperion Foundation Services役割が必要です。153ページの[Foundation Services 役割](#)を参照してください。

表28 Planningアプリケーションの役割

役割	説明
パワー役割	
管理者	アプリケーション所有者、一括割当ての役割に予約されているタスクを除き、すべてのアプリケーション・タスクを実行します。アプリケーションの作成および管理、アクセス権限の管理、予算プロセスの開始、通知用電子メール・サーバーの指定を実行します。データのコピー機能を使用できます。
プロビジョニング・マネージャ	ユーザーをPlanningアプリケーションにプロビジョニングします
一括割当て	データを階層形式でマルチディメンションに分散する一括割当て機能にアクセスします。この機能ではデータ・フォームでは表示されないセルやユーザーがアクセス権を持たないセルへの分散も可能です。任意のユーザー・タイプにこの役割を割り当てることが可能ですが、割当ては慎重に行ってください。
Essbase 書込みアクセス権	プランナおよび対話型ユーザーの場合: ユーザーが持つPlanningのアクセス権限と同等の、EssbaseのPlanningデータへのアクセス権限をユーザーに付与します。年および期間のディメンションへのアクセスを制限するセキュリティ・フィルタを作成しないと、この役割はすべての期間および年への書込み権限を付与します。書込みアクセス権を持つユーザーはFinancial Reportingやサードパーティ製のツールなど別製品を使用して、PlanningのデータをEssbaseで直接変更できます。

役割	説明
<p>承認管理者 承認管理者の役割は、次の役割で構成されています:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 承認所有権割当て者 • 承認プロセス・デザイナー • 承認スーパーバイザ 	<p>承認管理者は、通常、組織の地域を担当し、その地域の承認プロセスを制御する必要があるが、Planning管理者の役割を付与される必要はないビジネス・ユーザーです。承認管理者の役割のユーザーは、プロセスの所有権を手動で取得し、承認の問題を解決します。次のタスクを行います:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 承認プロセスの制御 • 書込みアクセス権を持つPlanningユニットに対するアクションの実行 • 担当内の組織の所有者とレビュー担当者の割当て • 副ディメンションの変更または検証ルールの更新
<p>承認所有権割当て者</p>	<p>Plannerの役割に割り当てられているタスクを実行します。承認所有権割当て者は、書込みアクセス権を持つプランニング・ユニット階層のメンバーに対して次のタスクを実行します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 所有者の割当て • レビュー担当者の割当て • 通知対象のユーザーの指定
<p>承認プロセス・デザイナー</p>	<p>プランナと承認所有権割当て者の役割に割り当てられているタスクを実行します。承認プロセス・デザイナーは、書込みアクセス権を持つプランニング・ユニット階層のメンバーに対して次のタスクを実行します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 副ディメンションと書込みアクセス権を持つエンティティのメンバーの変更 • プランニング・ユニット階層のシナリオとバージョン割当ての変更 • 書込みアクセス権を持つデータ・フォームのデータ検証ルールの編集
<p>承認スーパーバイザ</p>	<p>プランニング・ユニットを所有していない場合でも、書込みアクセス権を持つプランニング・ユニット階層のメンバーに対して次のタスクを実行します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • プランニング・ユニットの停止と開始 • プランニング・ユニットに対する任意のアクション <p>注:</p> <p>承認スーパーバイザは、所有していないプランニング・ユニットのデータは変更できません。</p>
<p>アド・ホック・グリッド作成者</p>	<p>アド・ホック・ユーザーが行えるタスクの実行に加えて、スマート・スライスを作成したり、保存します</p>
<p>アドホック・ユーザー</p>	<p>アド・ホック機能を使用してデータ・フォームを分析します。</p>

役割	説明
タスク・リスト・アクセス・マネージャ	このリリースには適用されません(将来の使用のために予約されています)。
プランナ役割	
プランナ	承認およびアダプタ・プロセス用のプランを入力および送信します。他のユーザーが作成したレポートの使用、タスク・リストの表示と使用、自分自身への電子メール通知の使用可能化、Smart Viewを使用したデータの作成が可能です。
対話型役割	
対話型ユーザー	データ・フォーム、Smart Viewワークシート、ビジネス・ルール、タスク・リスト、Financial Reportingレポート、およびアダプタ・プロセスの作成と維持を行います。予算プロセスを管理します。Smart Viewでのスマート・スライスを作成、セル詳細のクリア機能の使用、すべてのプランナ・タスクの実行が可能です。対話型ユーザーは通常、部署の責任者や事業単位のマネージャに割り当てます。
ビュー役割	
表示ユーザー	Oracle Hyperion Planningデータ・フォームとライセンスを所有するデータ・アクセス・ツール(たとえば、Oracle Hyperion Financial Reporting、Oracle Hyperion Web AnalysisおよびSmart View)を使用して、データを表示および分析します。典型的な表示ユーザーは予算プロセスの期間中および最後にビジネス・プランを参照する必要のある経営者です。

Profitability and Cost Management役割

標準Profitability and Cost Managementの役割

表29 標準Profitability and Cost Managementの役割

セキュリティの役割	説明
パワー役割	
管理者	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザー・アカウントとセキュリティ役割の作成および維持の他、Shared Servicesを使用したユーザーのプロビジョニング • Essbaseデータベースの生成 • アプリケーション・プリファレンスの設定と維持 • 共通ディメンションとメンバーの選択を目的とした、Performance Management Architectを使用したモデル・データベースの構築 • ステージ、ドライバ、POV、ドライバ選択、割当て、アプリケーション・プリファレンスなどのモデルにおける要素の作成および維持 • POVコピー、計算、検証、データ入力、トレース割当ての実行 • Essbaseへのデプロイと計算スクリプトの生成 • データのインポートおよびエクスポート • ライフサイクル管理ユーティリティを使用した、開発またはテスト環境から本番環境などの別の環境へのデータのレベル上げ。 • Profitability and Cost Managementのモデル・コンポーネントのバックアップおよび復元。 • ビジネス・オブジェクトに加えられた変更をモニターします。 • Profitabilityアプリケーションのホーム画面へのアクセスによる、Exalytics用アプリケーション・ローダーを使用したProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成、管理、登録、複製および更新。 • Smart Viewの「接続」画面からの問合せの作成、編集、コピー、削除および起動 <p>注：</p> <p>パワー・ユーザーは、タスクの実行に特定のセキュリティ役割を必ずしも必要としません。たとえば、パワー・ユーザーが「計算」画面から計算を実行する場合、このアクションによってタスクフローが内部で作成されて実行されます。パワー・ユーザーは、「タスクフローの管理」タスクから直接このタスクにアクセスする場合以外は、このタスクの実行に「タスクフローの管理」役割を必要としません。</p>
パワー・ユーザー	<ul style="list-style-type: none"> • ステージ、ドライバ、POV、ドライバ選択、割当て、アプリケーション・プリファレンスなどのモデルにおける要素の作成および維持します。 • POVコピー、計算、検証、データ入力、トレース割当てを実行します。 • Oracle Essbaseにデプロイし、計算スクリプトを生成します。 • データのインポートおよびエクスポート • Profitabilityアプリケーションのホーム画面へのアクセスによる、Exalytics用アプリケーション・ローダーを使用したProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成、管理、登録、複製および更新。

セキュリティの役割	説明
	<ul style="list-style-type: none"> Smart Viewの「接続」画面からの問合せの作成、編集、コピー、削除および起動
対話型役割	
対話型ユーザー	<ul style="list-style-type: none"> すべてのモデリング画面の表示 データ入力画面でのデータの表示および変更 トレース割当ての表示 Smart Viewの「接続」画面からの問合せの起動
表示ユーザー	<p>次の関数に対して表示のみのアクセス権を持ちます:</p> <ul style="list-style-type: none"> トレース割当て アプリケーション・プリファレンス モデル・ステージ、ドライバ、およびPOV
Shared Servicesの役割	
タスクフローの管理	タスクフローの作成と編集に必要。
タスクフローの実行	ユーザーによるタスクフローの実行と表示のみを可能にするために必要。この役割を割り当てられたユーザーは、タスクフローの作成や編集を行うことはできません。

詳細Profitability and Cost Managementの役割

表30 詳細Profitability and Cost Managementの役割

セキュリティの役割	説明
管理者	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーション・プリファレンスの設定と維持 共通ディメンションとメンバーの選択を目的とした、Oracle Hyperion EPM Architectを使用したモデル・データベースの構築 レポート・ビューを作成してリレーショナル・データベースにデプロイ 次の機能を作成、読取り(表示)、更新、削除: <ul style="list-style-type: none"> ○ステージ ○ドライバ ○POV ○ドライバの関連付け ○割当て ○アプリケーション・プリファレンス ○計算ルール ○計算プロセスの割当て ○ジョブ・ライブラリおよびステータス ○表登録 次のタスクを実行: <ul style="list-style-type: none"> ○POVコピー ○検証 ○デプロイ

セキュリティの役割	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ○計算 ○ジョブの停止 ・ ライフサイクル管理ユーティリティを使用した、開発またはテスト環境から本番環境などの別の環境へのデータのレベル上げ。 ・ データのインポートおよびエクスポート ・ Profitability and Cost Managementのモデル・コンポーネントのバックアップおよび復元。 ・ ビジネス・オブジェクトに加えられた変更をモニターします。 ・ Smart Viewの「接続」画面からの問合せの作成、編集、コピー、削除および起動 ・ Profitabilityアプリケーションのホーム画面へのアクセスによる、Exalytics用アプリケーション・ローダーを使用したProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成、管理、登録、複製および更新。
<p>パワー役割</p>	
<p>パワー・ユーザー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユーザー・アカウントとセキュリティ役割の作成および維持の他、Shared Servicesを使用したユーザーのプロビジョニング ・ レポート・ビューを作成してリレーショナル・データベースにデプロイ ・ Profitabilityアプリケーションのホーム画面へのアクセスによる、Exalytics用アプリケーション・ローダーを使用したOracle Hyperion Profitability and Cost Managementアプリケーションの作成、管理、登録、複製および更新。 ・ Smart Viewの「接続」画面からの問合せの作成、編集、コピー、削除および起動 ・ 次の機能を作成、読取り(表示)、更新、削除: <ul style="list-style-type: none"> ○ステージ ○ドライバ ○POV ○ドライバの関連付け ○割当て ○アプリケーション・プリファレンス ○計算ルール ○計算プロセスの割当て ○ジョブ・ライブラリおよびステータス ○表登録 ・ 次のタスクを実行: <ul style="list-style-type: none"> ○POVコピー ○検証 ○デプロイ ○計算 ○ジョブの停止

セキュリティの役割	説明
	<p>注:</p> <p>パワー・ユーザーは、タスクの実行に特定のセキュリティ役割を必ずしも必要としません。たとえば、パワー・ユーザーが「計算」画面から計算を実行する場合、このアクションによってタスクフローが内部で作成されて実行されます。パワー・ユーザーは、「タスクフローの管理」タスクから直接このタスクにアクセスする場合以外は、このタスクの実行に「タスクフローの管理」役割を必要としません。</p>
対話型役割	
対話型ユーザー	<ul style="list-style-type: none"> • 次の機能を表示(読取り): <ul style="list-style-type: none"> ○ステージ ○ドライバ ○POV ○ドライバの関連付け ○割当て ○アプリケーション・プリファレンス ○計算ルール ○計算プロセスの割当て ○ジョブ・ライブラリおよびステータス ○表登録 • Oracle Smart View for Officeの「接続」画面からの問合せの起動
表示ユーザー	<p>次の機能を表示(読取り):</p> <ul style="list-style-type: none"> • ステージ • ドライバ • POV • ドライバの関連付け • 割当て • アプリケーション・プリファレンス • 計算ルール • 計算プロセスの割当て • ジョブ・ライブラリおよびステータス • 表登録
Shared Servicesの役割	
タスクフローの管理	タスクフローの作成と編集に必要。
タスクフローの実行	ユーザーによるタスクフローの実行と表示のみを可能にするために必要。この役割を割り当てられたユーザーは、タスクフローの作成や編集を行うことはできません。

Strategic Finance役割

表31 Strategic Finance役割

役割	説明
パワー役割	
管理者	Oracle Hyperion Strategic Financeを管理し、エンティティへのアクセスを割り当てます。対話型ユーザーの機能も含まれます。管理者は次のタスクを実行します： <ul style="list-style-type: none"> • サーバーの追加および維持 • データベースの追加および維持 • ユーザーの追加および維持 • ユーザー・グループの追加および維持 • エンティティの作成および維持 • レポートの設計および表示
プロビジョニング・マネージャ	ユーザーおよびグループにOracle Hyperion Strategic Finance役割をプロビジョニングします。
対話型役割	
基本ユーザー	エンティティにデータを入力し、シナリオおよびサブ勘定科目を追加し、レポートを表示します
対話型ユーザー	対話型ユーザーは次のタスクを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • エンティティの作成および維持 • エンティティへのデータの入力 • シナリオの追加 • サブ勘定科目の追加 • デイメンションの追加 • レポートの設計および表示
ビュー役割	
表示ユーザー	エンティティおよびレポートを表示します

Provider Services役割

Oracle Hyperion Provider Servicesには、管理者パワー役割が用意されています。これにより、ユーザーはEssbaseサーバー・クラスタを作成、変更および削除できるようになります。

Data Integration Management役割

Oracle Hyperion Data Integration Managementでは、Shared Servicesによって確立されるセキュリティ環境を使用しません。

Data Integration Managementの現在のバージョンにアップグレードしようとしていて、Shared Servicesの認証プラグインを使用した場合、Oracle Hyperion Shared Servicesの認証プラグインを登録解除した後で、Informatica PowerCenterリポジトリ・マネージャを使用して、ユーザーを再作成する必要があります。このバージョンのData Integration ManagementはネイティブのInformatica認証にのみ対応しています。

詳細は、Oracle Hyperion Data Integration Managementのドキュメントを参照してください。

FDMの役割

表32 FDMの役割

役割	役割のタスク
管理者	アプリケーションを管理して、アクションを実行します。すべての場所へのアクセス権と、すべてのフォームおよびコントロールに対する権利を持ちます。
基本レビュー担当者	財務管理問題をレビューします
基本レビュー担当者と送信者	レビュー後に認証または評価を送信します
中間2-9	<p>データをターゲット・システムにロードします。中間レベルの役割は、Oracle Hyperion Financial Data Quality Management管理者によって定義されます。ユーザーにユーザー・レベルが割り当てられると、そのユーザーは、そのレベル以上を割り当てられたすべてのオブジェクトへのアクセス権を持ちます。</p> <p>たとえば、中間7の役割を割り当てられたユーザーは、中間7から中間9および「すべて」の役割を使用してアクセスできる各オブジェクトへのアクセス権を持ちます。パワー・レベルおよび中間2から中間6がアクセスできるオブジェクトには、中間7ユーザーはアクセスできません。</p>

FDMEの役割

表33 FDMEの役割

役割	役割のタスク
管理者	アプリケーションを管理し、アクションを実行します
プロビジョニング・マネージャ	ユーザーおよびグループへのOracle Hyperion Financial Data Quality Management, Enterprise Editionの役割のプロビジョニング
ドリルスルー	<p>FDMEおよびFDMに適用します。ソース・システムにドリルスルーできるかどうかを制御します。</p> <p>FDMでは、この役割は許容されるタスクとして中間の役割に適用され、ソース・システムへのドリルバックを制御します。</p>

役割	役割のタスク
	FDMEETでは、この役割はユーザーがFDMEETのランディング・ページにドリルできるかどうかを制御し、ソース・システムへのドリルを制御します。
統合の作成	FDMEETメタデータおよびデータ・ルールを作成します。
統合の実行	Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Enterprise Editionメタデータおよびデータ・ルールを実行し、実行時パラメータを入力します。トランザクション・ログを表示できます。Oracle Hyperion Financial Data Quality Managementユーザーは、Oracle General Ledgerからデータを抽出する必要がある場合、データ・ルールを実行するには、この役割を付与される必要があります。
GLライトバック	ERPソース・システムへのデータのライトバックを使用可能にします。

Integrated Operational Planning役割

表34 Integrated Operational Planning役割

役割	役割のタスク
プロビジョニング・マネージャ	ユーザーおよびグループにOracle Hyperion Disclosure Management役割をプロビジョニングします
IOP管理者	Oracle Integrated Operational Planningを管理します。IOP管理者はモデルの変更、ACLページへのアクセス、すべてのIntegrated Operational Planningタスクの実行を行うことができます。
IOPユーザー	Oracle Integrated Operational Planningアクションを標準ユーザーとして実行します。



EPM Systemのコンポーネント・コード

役割は、ユーザーがEPM Systemアプリケーションで実行できるタスクを定義します。登録されたすべてのEPM Systemアプリケーションからの役割はOracle Hyperion Shared Services Consoleの役割ビューで表示できます。

役割ビューには役割の名前と内部製品名である製品コードが簡単な説明とともにリストされます。EPM System製品は [181ページの表 35](#)に示されています。

表35 EPM System製品で使用される製品コード

製品コード	製品名
HUB	Shared Services
CES	Oracle Hyperion Shared Services (ワークフロー)
HP	Planning
ESB	Essbase
BPM	Oracle Essbase Studio
ESBAPP	Essbaseアプリケーション
BPMA	Performance Management Architect
HAVA	Reporting and Analysis製品は次のとおりです: <ul style="list-style-type: none">• EPM Workspace• Web Analysis• Interactive Reporting• Oracle Hyperion SQR Production Reporting
FDM	Oracle Hyperion Financial Data Quality Management
EAL	Oracle Essbase Analytics Link for Hyperion Financial Management
EALBRIDGE	Oracle Essbase Analytics Link for Hyperion Financial Managementブリッジ
HFM	Oracle Hyperion Financial Management
HPM	Oracle Hyperion Profitability and Cost Management
CALC	Oracle Hyperion Calculation Manager

製品コード	製品名
HSF	Oracle Hyperion Strategic Finance
AIF	Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Enterprise Edition
IOP	Oracle Integrated Operational Planning
BIEE	Oracle Business Intelligence Enterprise Edition
DISCMAN	Oracle Hyperion Disclosure Management
FCC	Oracle Hyperion Financial Close Management
BIP	Oracle Business Intelligence Publisher



EPM System製品へのアクセス

この項の内容:

Shared Servicesへのアクセス	183
EPM Workspaceへのアクセス	183
Administration Servicesコンソールへのアクセス	184

Shared Servicesへのアクセス

11ページのShared Services Consoleの起動を参照してください。

EPM Workspaceへのアクセス

EPM Workspaceは、Oracle Hyperion PlanningおよびOracle Hyperion EPM ArchitectなどのOracle Enterprise Performance Management System製品や、Oracle Hyperion Interactive ReportingおよびOracle Hyperion Web AnalysisなどのOracle Hyperion Reporting and AnalysisコンポーネントにアクセスできるFoundation Servicesコンポーネントです。URLを使用してEPM Workspaceにアクセスするとログオン・ウィンドウが表示されます。

▶ URLからEPM Workspaceにアクセスするには:

1. 次に移動します:

`http://web_server_name:port_number/workspace/index.jsp`

URLの中で、`web_server_name`はFoundation Servicesが使用するWebサーバーが実行されているコンピュータの名前を示し、`port_number`は、Webサーバー・ポートを示します。たとえば、`http://myWebserver:19000/workspace`のようになります。



注:

セキュアな環境のEPM Workspaceにアクセスする場合、プロトコルとしてhttps (httpではなく)を使用し、セキュアなWebサーバー・ポート番号を使用します。たとえば、`https://myWebserver:19443/workspace`のようなURLを使用します。

ポップアップ・ブロックが原因でEPM Workspaceが開かない場合があります。

2. 「アプリケーションの起動」をクリックします。
3. ログオン・ウィンドウで、ユーザー名とパスワードを入力します。

4. 「ログオン」をクリックします。
5. EPM Workspaceで「ナビゲート」を選択します。
6. 「管理」、次に「**Shared Services Console**」を選択します。

Administration Servicesコンソールへのアクセス

この手順を開始する前に、Foundation Services、Webサーバー、Oracle EssbaseおよびAdministration Servicesが稼働していることを確認します。

▶ Administration ServicesコンソールをURLから起動するには:

1. 次に移動します:

`http://Web_server_name:port_number/easconsole/console.html`

URLの中で、`Web_server_name`はOracle Hyperion Foundation Servicesが使用するWebサーバーが実行されているコンピュータの名前を示し、`port_number`は、Webサーバー・ポートを示します。たとえば、`https://myWebserver:19000/easconsole`のようになります。



注:

セキュアな環境のOracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspaceにアクセスする場合、プロトコルとしてhttps (httpではなく)を使用し、セキュアなWebサーバー・ポート番号を使用します。たとえば、`https://myWebserver:19443/easconsole`のようなURLを使用します。

2. 「**起動**」をクリックします。
3. Administration Servicesコンソールをダウンロードしてインストールします。
4. Oracle Essbase Administration Servicesの「ログイン」画面で、ユーザー名およびパスワードを入力します。
5. 「**OK**」をクリックします。